

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

**平成 25 年度～平成 29 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 自治医科大学 2 大学名 自治医科大学
- 3 研究組織名 自治医科大学 NCD 研究拠点
- 4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺3311-1
- 5 研究プロジェクト名 非感染症疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
永井 良三	自治医科大学・医学部	学長

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 23
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
永井 良三	学長	研究の総括	研究組織の効率的な運営・トランスレーショナルリサーチの推進
高橋 将文	医学部・教授	生活習慣病・心血管病における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・炎症領域の総括
古川 雄祐	医学部・教授	幹細胞と間質細胞とのネットワーク解析	幹細胞と周囲環境ネットワーク機構の解明・幹細胞領域の総括
矢田 俊彦	医学部・教授	視床下部炎症による脳・末梢関連障害の生活習慣病発症基盤の解明	脳・末梢臓器関連の解明
尾仲 達史	医学部・教授	慢性炎症における神経ペプチドの役割の解明	脳・末梢臓器関連の解明
岩本 禎彦	医学部・教授	生活習慣病における慢性炎症に関連する遺伝子変異の解析	慢性炎症の病態解明とバイオマーカーの開発
苅尾 七臣	医学部・教授	エクソソーム解析による心血管病の新規バイオマーカー	心血管病バイオマーカーの開発・臨床データベ

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

		の開発	ース構築
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
石橋 俊	医学部・教授	脂質代謝異常が惹起する炎症における自然免疫細胞の役割の解明	脂質代謝異常が惹起する炎症機構の解明・臨床データベース構築
椎崎 和弘	医学部・講師	慢性腎臓病における自然炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
簗田 清次	医学部・教授	関節リウマチ再燃過程解析による発症機構解明と治療標的分子の同定	慢性炎症の分子機構の解明と治療法開発・臨床データベース構築
松原 茂樹	医学部・教授	妊娠高血圧症候群における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
高橋 秀徳	医学部・講師	サイトカイン迅速測定による眼炎症性疾患オーダーメイド医療の開発	オーダーメイド医療および医療機器開発
遠藤 仁司	医学部・教授	がんミトコンドリア異常の網羅的解析による創薬標的の同定	がんにおけるミトコンドリア異常の解明
多胡 憲治	医学部・講師	がん遺伝子産物による炎症シグナル機構の解明	がんと炎症の関連における制御機構の解明
仁木 利郎	医学部・教授	肺がんにおける細胞間ネットワークと病態の関連の解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
安田 是和	医学部・教授	NASH から肝臓がんに至る細胞間ネットワーク解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
鈴木 光明	医学部・教授	婦人科がんの播種・転移・再発機構の解明	がんの浸潤・転移・進展機構の解明
山本 博徳	医学部・教授	消化管におけるがんや炎症性疾患の病態解析	がんと慢性炎症機構の解明・メタゲノム解析・臨床データベース構築
川上 潔	医学部・教授	歯周組織幹細胞の発生・分化・再生機構の解明	幹細胞の分化・再生機構の解明
花園 豊	医学部・教授	大型動物を用いたヒト造血システムの構築と解析	幹細胞を用いた再生医療の開発、モデル動物開発と前臨床試験
大森 司	医学部・教授	iPS・間葉系幹細胞を用いた出血性疾患に対する新規治療法の開発	幹細胞を用いた再生医療の開発

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

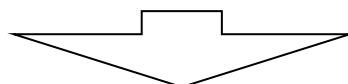
小澤 敬也	医学部・客員教授	キメラ抗原受容体を利用した新規養子免疫遺伝子療法の確立	新規養子免疫療法の開発と有効性のメカニズム解明
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
黒尾 誠	医学部・教授	慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明
西村 智	医学部・教授	生体分子イメージング法の開発とこれを利用した心血管病の病態解明	新規生体分子イメージング法の開発
(共同研究機関等) 浦野 泰照	東京大学・教授	蛍光・発光プローブの開発	新規診断技術・医療機器開発
濡木 理	東京大学・教授	同定標的因子における分子高次構造の決定	分子標的治療薬の開発
黒田 雅彦	東京医科大学・教授	がんにおける microRNA 異常の解析と間質への作用の解明	microRNA によるがん・炎症の病態解明と治療への応用
本田 賢也	理化学研究所	がん・生活習慣病におけるメタゲノム解析	メタゲノム解析
間野 博行	東京大学・教授	がんと周囲環境のクロストークにおけるゲノム解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・がん領域まとめ

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧(所属変更)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	テキサス大学・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

(変更の時期:平成 25 年 10 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
テキサス大学・教授	自治医科大学・医学部・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

新(追加)

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学 TSBMI 特任准教授	医学部・教授	西村 智	新規生体分子イメージング法の開発

(追加の時期:平成 25 年 8 月 15 日)

旧(減員)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
低酸素ストレス環境におけるがんの浸潤・転移機構の解明	医学部・教授	穂積 康夫	がんの浸潤・転移・進展機構の解明・臨床データベース構築

(変更の時期:平成 25 年 9 月 30 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

生体にとって基本的な制御ネットワークの一つであるストレス応答の破綻が、がんや生活習慣病、心血管病といった非感染性疾患(Non-communicable disease: NCD)を引き起こすことが明らかとなってきた。これまで、自治医科大学ではがんや炎症、生活習慣病を中心として、NCD に関連する数多くの先駆的な研究が行われており、国内外から高い評価を得ている。そこで、本プロジェクトでは、生体ストレスによるネットワーク恒常性維持の破綻から NCD 発症に至る機構の解明を分子レベルで遂行するとともに、新たな治療標的分子やバイオマーカーの同定から、創薬を標的とする生体バイオイメーキングシステムによる新規治療・診断法の開発と実用化など、イノベーション促進を視野に入れたトランスレーショナル・リサーチへと展開することで、世界の NCD 研究における基礎・臨床連携研究拠点の形成を目指す。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割

研究代表者は、本プロジェクトに参加する基礎・臨床計23グループの研究主導を行い、グループ間の協力・分担・連携の統括を行っている。

2. 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

研究代表者の下、「慢性炎症」と「がん・幹細胞」の2つの研究領域を中心に、基礎・臨床研究グループを有機的に配置し、トランスレーショナル・リサーチが展開可能な組織を構築した。各研究領域の実施リーダーとして、高橋将文(炎症・免疫研究部)と古川雄祐(幹細胞制御研究部)を置き、参加研究グループや各領域の連携を強化している。各研究者は、それぞれの専門性の上にNCDにおけるストレス応答や生体ネットワークの視点を据えた研究を実施し、成果をあげる。また、各研究領域の実施リーダーが、研究の進捗状況や共同研究の定期的な確認と評価を行う。

3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数

本プロジェクトの遂行のため、主な研究者23名を含む計74名の研究者が参加している。

4. 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況

大学院生 31名、博士研究員(PD) 7名、リサーチアシスタント(RA) 24名(延べ62名)が本研究プロジェクトに参加している。

5. 研究チーム間の連携状況

定期的な研究ミーティングおよび研究成果報告会により、前述した2つの研究領域内連携および領域間での連携は非常に良好であり、トランスレーショナル・リサーチ実施に向けた共同研究が積極的に行われている。

6. 研究支援体制

学長が本研究プロジェクトの研究代表者となっていることから、大学本部を介して研究支援課や大学リニューアル推進室等の担当事務が広報などの事務的な支援を行っている。また、分子病態治療研究センターと実験医学センターが研究支援のコアとなり、研究装置や機器利用に際して研究参加者への技術的な支援を行うとともに、研究代表者・参加者が協力して全学一致した体制で本研究プロジェクトを推進している。

7. 共同研究機関等との連携状況

テキサス大学や東京大学、東北大学、広島大学、信州大学、明治大学、北里大学等、国内外の研究機関と数多くの共同研究が実施され、数多くの研究成果をあげている。

(3) 研究施設・設備等

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

自治医科大学 NCD 研究拠点として、既存の大学施設(教育・研究棟:15,893m²)を中心に、実験医学センター(4,503m²)を74名の研究者と62名の大学院生・PD・RAが常時利用している。また、研究設備については、FACS Aria セルソーター(1,242 時間)、生体ネットワーク再現システム(680 時間)、生体ネットワーク観察システム(424 時間)、生体ネットワーク構成細胞分離システム(37.5 時間)、ゲノム・エピゲノム解析システム(1,552 時間)、炎症関連タンパク質解析システム(680 時間)を整備し、効率的に運用している。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

【慢性炎症領域】

1. 生活習慣病・心血管病における自然炎症機構の解明 【炎症・免疫研究部】

非感染性疾患(NCD)の病態における新規自然炎症経路インフラマソームの役割を検討し、腹部大動脈瘤や慢性腎臓病、急性腎障害において、インフラマソームを介した炎症反応が重要な役割を果たしていることを明らかにした(*論文 17、20、38)。一方、インフラマソーム構成分子それぞれの遺伝子(NLRP3・ASC・Caspase-1)欠損マウス間で病態モデルによる表現型の違いがあることを見出し、NLRP3 のインフラマソーム非依存的な新たな機能を明らかにした(*論文 19、36)。また、妊娠高血圧やナノ粒子による妊娠合併症においてもNLRP3とASCで異なる機能を示すことが明らかになった(*論文 16、21)。さらに、インフラマソームを制御する分子機構を解明し、内因性インフラマソーム制御分子 CARD16 と CARD17 によるCARDドメインを介した新たなインフラマソーム制御機構を報告するとともに、NLRP3 と直接結合してインフラマソーム活性を負に制御する新規 E3 ユビキチンリガーゼ ARIH2 を同定した(*論文 3、18)。

2. 視床下部炎症による脳・末梢連関障害の生活習慣病発症基盤の解明 【統合生理学部門】

弓状核ニューロンの研究に関して以下の成果を得た。摂食行動のトリガーには、視床下部弓状核のグルコース(血糖値)センシングが重要であるが、その鍵分子としてNa,K ATPaseを同定した(*論文 79)。さらに、脂肪細胞由来のアディポネクチンが弓状核ニューロンの活性調節を行うことを明らかにした(*論文 55、67)。さらに、肥満モデル動物に対し、AAV ベクターを用いて、末梢性に抗炎症性サイトカイン IL-10 を発現することで、弓状核ニューロン機能変調を是正しうることを明らかにした(*論文 62、73)。弓状核 AgRP ニューロンの細胞内シグナル分子 PDK1 の活性化は摂食以外に骨成長を促進する事を明らかにした(*論文 58)。一方、室傍核 Nesfatin-1 ニューロンに関して、Nesfatin-1 ニューロンの発現概日リズムが摂食概日リズムを形成すること(*論文 70)、さらにその調節因子としてホルモン様作用を持つ FGF21 を同定した(*論文 60)。室傍核オキシトシンニューロンによる摂食抑制機構の解析を進めてきたが、今回オキシトシンは点鼻および腹腔内投与によっても摂食抑制作用を発揮することを明らかにした(*論文 83、84)。オキシトシンの抗肥満・糖尿病作用(*特許 1)は臨床的意義が大きく、今後トランスレーショナル研究に期待ができる。また、弓状核が第一次、室傍核が第二次中枢と捉えるのが定説であったが、室傍核から弓状核への逆向き神経回路を同定し、摂食調節機構のブレークスルーを起こした(*論文 89)。さらに、希少糖のアルロースが、腸管からの GLP-1 分泌を促進すること(*特許 2)、さらに分泌された GLP-1 が迷走神経求心路を活性化し、過食、肥満と糖代謝を改善することを明らかにした(*論文 52、特許 3)。

3. 慢性炎症における神経ペプチドの役割の解明 【神経脳生理学部門】

慢性炎症疾患・ストレス関連疾患における神経ペプチドの働きを明らかにすることを目的として、特定の神経ペプチド産生ニューロンの神経投射を可視・定量化する方法と、特定の神経ペプチド産生ニューロンを選択的に破壊する方法との開発を行った。さらに、神経ペプチド産生ニューロンを刺激するストレス条件の検討を行った。その結果、これまで知られていなかった新たなオキシトシン回路が明らかとなり、さらにその定量的解析によりオキシトシンが大脳皮質への入力のフィルタリング機能を持つ可能性が出てきた(*論文 534)。神経ペプチドニューロンを活性化するストレス刺激に関しては、痛み刺激、条件恐怖刺激、皮膚への接触刺激、社会的敗北刺激カイン酸、セクレチンが有効であった(*論文 534、538、539、

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

542)。このうち条件恐怖刺激による賦活化に関しては、内側扁桃体と延髄の PrRP 産生ニューロンが中継することを見出した(*論文 542)。一方、オキシトシンの働きについて、樹状突起から放出されたオキシトシンが内側扁桃体に作用して社会記憶を促進していること(*論文 537)が見いだされた。この成果は樹状突起から放出された神経ペプチドの生理的働きを解明したもので特筆に値する。また、親和的行動がオキシトシン放出を促進させてきたオキシトシンは親和行動を促進させるという正のフィードバック系があり、このフィードバック回路がイヌの家畜化の進化に貢献していること(*論文 541)を見出した。一方、敵対的状況下ではオキシトシンは社会的敗北姿勢の反応を促進するという親和的行動とは逆の働きも持つことを見出した(*論文 534)。

4. 生活習慣病における慢性炎症に関連する遺伝子変異の解析【人類遺伝学研究部】

慢性炎症は生活習慣病の修飾因子として重要であり、脂質は動脈硬化や非アルコール性脂肪肝炎(NASH)、肥満症などにおける炎症惹起物質として注目されている。当研究部はそれらに関連する遺伝子を複数同定することに成功した(*論文 107、113、114、115、117)。また、脂質レベル関連遺伝子が関わる調節メカニズムを機能的に明らかにし、新たなパスウェイを提唱した(*論文 111、112、115)。また、生活習慣病にどの程度レアバリエーションが関わっているのかを明らかにするため、日本人 950 人を対象に非アルコール性脂肪肝(NAFLD)関連遺伝子の大規模なリシーケンスを行い、低頻度機能性バリエーションの存在を明らかにした(*論文 102)。さらに、非肥満 NAFLD のゲノムワイド関連解析を東北メディカルメगाバンクとの共同研究によって実施し、新たな関連候補遺伝子の同定に成功した。現在、これを検証するための 3400 例を超えるゲノムパネルを構築中であり、その腸内細菌叢の解析も実施している。

5. エクソソーム解析による心血管病の新規バイオマーカーの開発【循環器内科学部門】

慢性炎症及び動脈硬化のバイオマーカーである高感度 CRP(hsCRP)、S100A12、CPP(Calcioprotein particle)に着目し、これらのバイオマーカーに影響を与える因子、疾患との関連を検討した。まず、安定冠動脈疾患患者 652 名において S100A12 を測定し、平均 973 日の予後追跡を行い、S100A12 と心血管イベントとの関連を検討した。また、心血管系リスク因子を 1 つ以上もつ外来通院患者 1440 名に 24 時間自由行動下血圧計の血圧指標と高感度 C 反応蛋白(Hs-CRP)との関連を検討した。同団体の 480 名においても S100A12 を測定し、潜在性動脈硬化の指標となるかを検討した。さらに、入院中の非透析患者 14 名において、食前・食後を含む 5 ポイントで CPP を測定し、CPP に影響を与える因子を検討するとともに、安定型狭心症および急性冠症候群 72 名を対象に、CPP と血管内超音波による冠動脈プラーク性状との関連を検討した。

6. 脂質代謝異常が惹起する炎症における自然免疫細胞の役割の解明【内分泌代謝学部門】

本研究では、NCEH1、HSL および CES3 の選択的阻害剤を用いてマウス腹腔マクロファージにおける CE 水解活性の寄与度を検討した。その結果、NCEH1 がマウス腹腔マクロファージにおいて主要な CE 水解酵素であることを報告した(*論文 134)。また、NCEH1 欠損マウス腹腔マクロファージにおける酸化コレステロールとアポトーシスとの関連について検討した。NCEH1 欠損腹腔マクロファージに酸化コレステロールの一種である 25-ヒドロキシコレステロール(25-HC)を添加することで小胞体ストレス関連分子の発現およびアポトーシスが顕著に誘導されることを見出した。この時、マクロファージ内の 25-HC エステル体の含量が小胞体で顕著に増加し、ACAT1 阻害剤を添加することでこれらの現象は抑制された。従って、NCEH1 欠損による 25-HC エステル体の小胞体における蓄積が小胞体ストレス誘導を惹起し、アポトーシスを引き起こすことが示唆された(*論文 133)。さらに、ACAT1 および NCEH1 の動脈硬化疾患への影響を検討するため、野生型マウス、ACAT1 欠損マウス、NCEH1 欠損マウスおよび ACAT1/NCEH1 ダブル欠損マウスの 4 系統のマウス骨髄細胞の動脈硬化モデルマウス(LDLr 欠損マウス)への移植実験を試みた。マウス体重及び血漿脂質は 4 群間において差は認められなかったが、NCEH1 欠損骨髄移植マウスの動脈硬化病巣面積は野生型骨髄移植マウスに比して増悪した。一方、ACAT1/NCEH1 二重欠損骨髄移植マウスは野生型や ACAT1 欠損骨髄移植マウスと同等レベルまで改善した。以上の結果から、骨髄由来細胞における ACAT1 の欠損は、NCEH1 欠損による CE 加水分解不全に起因する動脈硬化病変の悪化を改善する可能性が示唆された。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

7. 慢性腎臓病における自然炎症の分子機構の解明【腎臓内科学部門】

末期腎不全(血液透析)患者の血中 Fibroblast growth factor 21 (FGF21)を測定し、生命予後及び心血管疾患(CVD)発症の有無を検討し、慢性腎臓病における血中 FGF21 は、生命予後の予測マーカーになりうることを明らかにした(*論文 137、学会 162、163)。また、血中 FGF21 値と睡眠呼吸障害の関連を調べたところ、末期腎不全患者の血中 FGF21 高値は、睡眠時の間欠的低酸素血症と関連することが明らかとなった(*学会 160)。さらに、保存期慢性腎臓病患者での検討で、血中 FGF21 高値は、体液貯留の指標である細胞外水分量比の上昇と関連することが明らかとなった(*学会 161)。一方、腎・腹膜線維化の新規遺伝子治療法の開発を行い、microRNA-146a が炎症促進シグナル、線維化促進シグナル抑制を介して腎線維化を抑制することを明らかにするとともに(*論文 140)、ライポソームをベースとしたナノパーティクルをキャリアとした TGF- β -siRNA による TGF- β ノックダウンが腹膜線維症を抑制することを明らかにした(*論文 141)。

8. 関節リウマチ再燃過程解析による発症機構解明と治療標的分子の同定【アレルギー膠原病学部門】

関節リウマチ患者に対して、生物学的製剤(バイオ製剤)の使用により臨床的寛解を 1 年以上維持している患者において、同意を得たのちバイオ製剤を休薬して、再燃の有無とその再燃過程の患者毎の特徴を比較し解析した(*学会 170, 201)。さらに、バイオ製剤休薬後に再燃した患者と寛解を維持した患者の血液検体を用いて、再燃過程の経時的な遺伝子発現の変動をジーンチップの手法で、血清中の炎症性サイトカインおよびケモカイン濃度の変動を網羅的に解析した。これらの解析により、バイオ製剤休薬後の関節リウマチの再燃過程の解析による、ヒト関節リウマチの病態解析のための新たな解析システムを構築し、これを利用することで新規疾患活動性および再燃予測マーカーや、新規治療ターゲットの候補となる遺伝子・microRNA・炎症性サイトカイン・ケモカインを同定することができた。

9. 妊娠高血圧症候群における自然炎症機構の解明【産科学部門】

妊娠高血圧症候群患者における様々な因子を評価し、妊娠 28-29 週における LIGHT (TNF superfamily member14)の高値は、その後の妊娠高血圧腎症 (preeclampsia, PE)の発症を予知すること、妊娠 18-24 週の母体血中 Galectin-1 (Gal-1)の低下は、その後の早発型 PE、遅発型 PE、および妊娠高血圧 (gestational hypertension, GH)を予知することを明らかにした。また、妊婦の血中で活性化した白血球、Th17 細胞、NK 細胞、及び、樹状細胞を、6 カラーのフローサイトメトリーを用いて同定する方法を開発した。一方、マウス妊娠高血圧症モデルである STOX1 過剰発現マウスでホモを作成し、野生型マウスと STOX1 過剰発現ホモマウスを掛け合わせて、PE 様症状の発現を確認したが、早期に流産が起り、その確認が出来なかった。また、STOX1 を過剰発現させたヒト由来栄養膜細胞(JEG3)では、LPS 誘導性の IL-6 産生が欠如していることがわかった。

10. サイトカイン迅速測定による眼炎症性疾患オーダーメイド医療の開発【眼科学部門】

レチノール過剰摂取による網膜色素上皮細胞の血管内皮増殖因子(VEGF)発現亢進を介した脈絡膜新生血管悪化について(*論文 352)論文発表し、新たな滲出型加齢黄斑変性増悪機序を明らかにした。加齢黄斑変性治療における抗 VEGF 薬投与遅れと視力予後の関連について(*論文 350)報告し、病院側理由による投与遅れに警鐘を鳴らした。治療中の脈絡膜厚変化について(*論文 348)、硝子体出血を繰り返す網膜過誤腫にヘアピン状血管を認めたこと(*論文 341)、後部ぶどう腫に伴う網膜下液に抗 VEGF 薬の効くことがあること(*論文 340)抗 VEGF 治療による可逆性視力低下について(*論文 335)報告した。さらに加齢黄斑変性視力良好例に対するアフリベルセプト計画的投与の 1 年目成績(*学会 354)、2 年目成績(*学会 350)、事後解析としてポリープ状脈絡膜血管症のタイプ別解析(*学会 347)、視力維持の条件検討(*学会 345 *論文 333)報告した。より強力な抗 VEGF 薬ではむしろ視力予後が不良であること(*学会 352、353)、脈絡膜新生血管を伴わない網膜色素上皮剥離のベルテポルフィン半量光線力学療法を検討(*学会 351)を報告した。

全体として、眼科における本研究対象である炎症性眼疾患、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症について、主に前房水のサイトカインプロファイル測定から病態の詳細を明らかにし、現在行われている治療の問題点を明らかにし、より正確な診断と良い予後をもたらす治療方針を提示してきた。また、カラー眼底写真からの深層学習による脈絡膜厚推測(*学会 348、349)を報告し、深層学習を利用した画像からの診断技術を確立できた。深層学習は様々な医用画像に応用可能であり、その端緒を眼科の炎

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

症性疾患でつかむことができた。

11. 慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明 【抗加齢医学研究部】

リンは生命に必須の6大元素の一つであり、リン恒常性の維持は生存の絶対条件である。実際、ヒトやマウスでは、リン恒常性が破綻して体にリンが貯留すると、全身の臓器に老化類似の様々な病態が生じ、早死にする。しかし、リンがなぜ悪いのか、そのメカニズムは不明である。本研究開発の目的は、リン恒常性維持機構の適応と破綻がもたらす病態(Phosphatopathy)を理解し、その典型である慢性腎臓病(CKD)の新たな治療標的を同定することにある。細胞外液中のリンは、カルシウムと結合してリン酸カルシウム(CaPi)のナノ粒子となって析出すると、自然免疫反応や細胞障害を誘導する「病原体」に変貌する。この粒子は *calcioprotein particles* (CPP) と呼ばれ、生体内では血中や原尿中にコロイド状に分散している(*論文 514)。一方、CKD 患者を対象とした臨床研究で、血中 CPP レベルが動脈硬化、慢性炎症、生命予後の悪化と相関することが報告された。CPP の「病原体」としての活性を考えると、この相関関係は実は因果関係の可能性があるが、現時点では証明されていない。本研究開発では、「CPP が Phosphatopathy の原因物質である」という仮説、すなわち「CPP 病原体説」を証明することを目標としている。本研究の主要な成果は、高血圧や糖尿病などを始め、様々な原因で起こる CKD に共通の病理である腎線維症の発症・進行のメカニズムに、CPP による尿細管障害が関与することを明らかにし、新たな治療介入点と治療薬を複数同定したことである(*学会 534、535、536、537、538、542、543、546、547、548、549、550)。

12. 生体分子イメージング法の開発とこれを利用した心血管病の病態解明 【分子病態研究部】

我々の講座では心血管病や生活習慣病の新たな治療標的探索を目的としてイメージング装置ならびにフローサイトメーターを用いた検討を行った。さらに、それら知見をもとにヒト臨床に応用可能な新規イメージング装置の開発を行った。従来の顕微鏡観察技術は高い解像度と引き替えに時間分解能が低く、時々刻々と病態が変化・進行する心血管病や生活習慣病の十分な解析が出来なかった。西村は過去に生体深部を多色(4ch)・高解像度(200nm)・高速(30fps)で連続撮影するシステムを独自に開発し関連特許を取得している。この技術を応用し、病態形成の初期から発症後の生体反応までを一細胞のレベルでリアルタイムに解析することに成功した。フローサイトメーターによる細胞種の特異・定量法と併せた検討で種々の病的ストレスに対する生体応答を評価することができた。新規イメージング装置の開発では癌の診断・治療に有用と思われる手持ち式の小型顕微鏡、8k 撮像センサーを用いた高解像度と広視野を両立する顕微鏡、ロボット技術とヘッドマウントディスプレイを用いた複数モダリティ画像の同時評価撮影システム、イメージングをベースとした埋め込み型の体内環境センシングシステム、遺伝子編集や RNA 創薬の評価ができる蛍光と発光の同時イメージング装置などの開発を行った。

【がん・幹細胞領域】

1. 幹細胞と間質細胞とのネットワーク解析 【幹細胞制御研究部】

生体内において、がん幹細胞は間質細胞によって形成された微小環境内に存在する。このがん微小環境は酸素分圧が低く、かつ酸性という特殊な環境である。この特殊条件を *in vitro* で再現し、がん幹細胞を生体に近い環境で維持できる実験系を確立し、間質細胞との共培養によって骨髄腫細胞に抗がん剤耐性が賦与されることを確認した(*論文 419)。その際のシグナル伝達を解析し、接着によって PI3K-AKT 経路が活性化されることを明らかにした。引き続き、AKT の下流でおこるエピジェネティック変化をスクリーニングし、histone H3-lysine27 (H3K27) のメチル化が特異的に抑制されることを見いだした。この抑制は H3K27 に対する特異的ヒストンメチル化酵素 EZH2 が AKT によってリン酸化を受け、核移行が阻害されるためであった。この EZH2 の不活化により、IGF-1、BCL-2、HIF-1 などの標的遺伝子の転写が脱抑制され、抗がん剤抵抗性が獲得されることを示した(*論文 412)。同様に、急性骨髄性白血病においても抗がん剤耐性が誘導されることを明らかにした(*論文 409)。引き続き EZH2 の不活化による接着耐性獲得のエフェクター分子のスクリーニングを行い、non-canonical Toll-like receptor CD180/RP105 を同定した。上述の実験系を用いて、CD180 が骨髄間質細胞との接着ならびに低酸素環境にて骨髄腫細胞表面に特異的に発現することを確認した。マウスへの移植実験でも間質細胞との接着によって誘導され、とくに骨髄腫幹細胞に発現していることを明らかにした。CD180/RP105 はリポ多糖体(LPS)の受容体として知られている。そこで低酸素・接着条件で LPS を作用させると、*in vitro* の培養系ならびにマウス移植系の両方で骨髄

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

腫細胞の増殖促進が確認された。その際、siRNAを用いてCD180の発現を抑制すると効果が無くなることから、CD180が受容体として働いていることがわかった。これらの結果は微小環境によるがん幹細胞の新たな制御機構を明らかにしたもので、がん幹細胞を標的とする新たな治療戦略の開発に貢献すると期待される(*論文 408)。

2. がんミトコンドリア異常の網羅的解析による創薬標的の同定【機能生化学部門】

ミトコンドリアを中心としたエネルギー代謝の機能低下は加齢性疾患と密接に関連し、がんの発生・増殖や進展にも大きく関与すると予測される。本研究では、まずミトコンドリア機能に影響を与えるタンパク質の解析(*論文 359、363、364、特許 8-10)やミトコンドリア遺伝子(mtDNA)のコピー数や分配等を制御するミトコンドリアヌクレオイドタンパク質の機能を解明した(*論文 358、360、362)。mtDNA異常によるミトコンドリア脳筋症の発症にはヘテロプラスミーの割合が関与する。我々はヘテロプラスミーを制御する mtDNA の分配機構には TFAM のオリゴマー形成が重要であることを示した(*論文 360)。また、我々の同定したミトコンドリア膜タンパク質 M19/UQC2(*特許 8)が、新たなミトコンドリア脳筋症の原因遺伝子であることを明らかにした(*論文 363)。また、遺伝性疾患の原因遺伝子の上流にある uORF が新たなミトコンドリアタンパク質をコードすることを明らかにした(*論文 364)。さらに、ALSなどの神経変性疾患で形成される細胞質凝集体に、我々が同定した RNA 結合タンパク質(Drb1/RBM45)が局在するとの報告から、Drb1/RBM45は核と細胞質のシャトルタンパク質であること、変異の導入により神経細胞で細胞質凝集体を形成し、ミトコンドリア機能を障害することを in vitro で明らかにした(*論文 359)。迅速に遺伝子改変マウス個体を作製する方法を開発(*論文 361)する一方、ミトコンドリアヌクレオイドタンパク質と p53 遺伝子のダブルヘテロノックアウト(DKO)マウスを作製した。発がん率とミトコンドリア遺伝子の不安定性の関連性を検討した結果、有意な関連性を観察した。傍腫瘍小脳変性症は腫瘍に特異的な自己抗体により発症する。本症患者血清を用いて、エネルギー関連酵素のクレアチンキナーゼ B(CKB)を自己抗原として新規に同定し、診断マーカーとなることを示した(*論文 365、366)。

TCA 回路に由来する代謝物は発ガンや腫瘍進展に影響をあたえる。イソクエン酸脱水素酵素(IDH)の遺伝子変異は発ガンに寄与する一方、神経膠腫腫瘍では IDH 野生型に比べ IDH 変異型は予後良好であることが知られている。神経膠腫腫瘍の網羅的なメタボローム解析を行った結果、変異型 IDH を有する神経膠腫では脂肪酸代謝が極端に低下しており、脳腫瘍の進展にカルニチン代謝系が重要であることを初めて示した(*特許 6)。

3. がん遺伝子産物による炎症シグナル機構の解明【構造生化学部門】

プロトがん遺伝子産物 c-Myc とがん抑制遺伝子産物 Arf の機能的相互作用について解析した。Arf は c-Myc の結合タンパク質 DDX5 に結合し、c-Myc の形質転換能を抑制した。大腸がん検体を用いた解析では、腫瘍部位における c-Myc と DDX5 の協調的な高発現が観察された(*論文 378、382、学会 396)。DDX5 の新規結合蛋白質 NF-HEV/IL-33 は、がん化型 Ras 変異体(Ras (G12V))により発現が誘導され、Cyclin D1 のタンパク質合成に関与した(*論文 377、図書 33)。さらに、NF-HEV の下流で機能するチロシンキナーゼ MerTK を見出した(*学会 388)。一方、がん化型 Ras 変異体または Ras を介した細胞増殖刺激は ERK 経路、転写因子 STAT3 の活性化を介して ST2 の発現を誘導した(*論文 372、学会 391)。ST2 の強制発現は、がん化型 Ras 変異体の形質転換能に重要な役割を有することが明らかになった(*論文 369、380、383)。ST2/IL-33 シグナルを調節する新規タンパク質 IFITM3 を見出した(*学会 392)。さらに、Ras シグナルが転写因子 NF- κ B 活性化に与える影響を検討し、Ras (G12V)は TNF α 刺激による NF- κ B の活性化を顕著に増強すること、Ras (G12V)は p65/RelA サブユニットの Ser-276 のリン酸化を介して転写活性化を増強することを明らかにした。また、p65/RelA のリン酸化は、大腸がん病変部においても強く亢進していた(*学会 390、395、397)。さらに、新規 Ras ファミリー β -Ras について解析し、 β -Ras はその結合タンパク質 TRB3 との相互作用を介して Akt および mTORC1 の活性化を制御することを見出した(*学会 393、394)。

4. 肺がんにおける細胞間ネットワークと病態の関連の解析【統合病理学部門】

癌の浸潤・転移などの生物学的特性を制御する因子として間質との相互作用、微小環境が注目されている。癌細胞だけでなく、癌間質相互作用を制御するネットワークを解明することは、多様な形態、分子異常を示す肺癌を

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

体系的に理解し治療戦略を立てるうえで重要である。これまで分化形質やチロシナーゼの発現などから肺腺癌を上皮型と間葉型に大別できることを報告した。上皮型と間葉型ではドライバー変異の頻度や細胞形質に違いがあり、癌の発生・進展経路、分子標的、ひいては癌・間質相互作用において違いのあることが想定される。癌間質相互作用のネットワークを包括的に解析するため、ヒト肺癌細胞 40 株の xenograft を系統的に作成し、上皮型の癌細胞は線維性間質に富む腫瘍を形成するが、間葉型の癌細胞では髄様で線維性間質に乏しい腫瘍であることを示した。さらに次世代シーケンサによる Interactome 解析を行い、上皮型の癌では TGF- β 1/TGFR1, CXCL16/CXCR6, CX3CL1/CX3CR1 の系が、間葉型の癌細胞では Osteopontin/Integrin α の系がそれぞれ働いていることを明らかにした。

間葉型の肺腺癌では、EGFR、MET など既知のドライバー変異の頻度が低いが、クロマチンリモデリング因子の構成分子、なかでも BRG1、BRM の異常が間葉型の肺腺癌で特徴的にみられること、また未分化癌では、BRG1、BRM のほか ARID1A、ARID1B なども含めたクロマチンリモデリング因子の構成因子の発現喪失が複数みられることを示した (*論文 397)。間葉型の肺腺癌ではヒストン修飾酵素の1つである PRMT5 (Protein arginine methyltransferase 5)が高発現していることも明らかにした (*論文 393)。間葉型の肺腺癌では、epigenetics を介した細胞の分化ネットワークの異常が起きていることを示す結果と考えられた。上皮型の肺腺癌の多くは、肺のマスター遺伝子 TTF-1 陽性を示す TRU (terminal respiratory unit)-type の腺癌である。non-TRU-type の肺腺癌 43 例の全エクソーム解析を行い、マスター遺伝子 TTF-1 自体の失活変異が比較的高率 (7/43, 16.3%)みられることを明らかにした(*論文 388)。TTF-1 陰性の肺腺癌では、消化管上皮のマーカーを発現し分化異常を示す症例の頻度が高い。以上、肺腺癌が多彩な形態と分化形質を示す原因として、マスター遺伝子とクロマチンリモデリング因子の異常を介した分化ネットワークの異常が関与していることを示す結果と考えられた。

5. NASH から肝臓がんに至る細胞間ネットワーク解析 【消化器外科学部門】

褐色細胞腫患者の腫瘍周囲脂肪組織に褐色脂肪細胞が多く存在することに注目し、該当する患者から同意を得た上で腫瘍摘出時に採取した周囲の脂肪細胞を分離培養した。数回の継代培養の結果、約 30% の細胞で褐色細胞特異的に発現していることで知られている UCP1 遺伝子陽性を認めた。そこでヒト由来褐色脂肪細胞を用いた、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の抑制や肥満治療への可能性を模索すべく実験を行ってきた。しかし、培養細胞の褐色脂肪細胞の純度が低く、バルクでの vitro や vivo の実験ではその有効性は見いだせなかった。一方褐色脂肪細胞は、未だ特異的な膜抗原が確認されておらず、褐色脂肪細胞のみを分取可能とするため膜抗原の特定や純度の高い褐色脂肪細胞の収集を目指すこととした。今回新規に倫理委員会へ申請した後、該当する患者1名より脂肪細胞を入手した。前回同様数回の境内後、UCP-1 遺伝子に特異的に結合する GFP-aptamer を用いて FACS sorting を行うことにより、1.95% の GFP 陽性細胞を採取することができた。同細胞集団が褐脂肪細胞と考え現在その特徴を見るため網羅的遺伝子解析を行っている。

6. 婦人科がんの播種・転移・再発機構の解明 【婦人科学部門】

血管新生の調節因子である vasohibin を中心に研究を行い、vasohibin-1 を強制発現させた卵巣がん細胞では、動物モデルにおいて腫瘍血管新生が阻害され、それに伴い腫瘍増殖が抑制されることを見出した。また、卵巣がんの主要な進展様式である腹膜播種形成も低下し、最終的に宿主の生存期間が延長した(*論文 401)。さらに、これらの効果は、VEGF のみならず PDGF など様々な血管新生因子を産生する卵巣がんに対しても確認された(*論文 400)。一方、vasohibin-2 には、腫瘍血管新生促進作用があることが明らかとし、vasohibin-2 を標的とした siRNA をアテロコラーゲン保護下に卵巣がん動物モデルの腫瘍局所に投与したところ、腫瘍血管新生が阻害され、それに伴い腫瘍増殖が抑制された(*論文 402)。さらに vasohibin-2 活性部位を明らかにし、中和抗体の作成に成功した。この中和抗体は卵巣がん動物モデルに対し、抗 VEGF 抗体として臨床応用が進んでいる bevacizumab に匹敵する効果を示した(*論文 399)。

7. 消化管におけるがんや炎症性疾患の病態解析 【消化器内科学部門】

ダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) を用いることによりこれまで到達困難であった全小腸へのアプローチが可能になった。第 2 世代の DBE は CCD の改良とレンズ設計の工夫により 2mm までの近接観察と約 70 倍の拡大観察を可能にするとともに、チャンネル径の拡大により治療内視鏡を容易にし (EN-580T)、内視鏡径の縮小により高い挿入効率を実現した (EN-580XP)。これを応用して炎症性腸疾患 (IBD) の病態

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

解明や腸管狭窄の内視鏡治療に関して研究を行っている。IBD の病態には腸内細菌叢と腸管免疫が深く関与していると考えられているが、これまでの報告は主に糞便を用いたものである。IBD の一つであるクローン病は病変の主座が小腸であることから、小腸細菌叢が病態に関与していると考えられる。我々は慶応義塾大学と理化学研究所との共同研究において、DBE によって得られた小腸サンプルから次世代シーケンサーを用いた 16S rRNA メタ解析を行うことにより、疾患特異的な小腸細菌叢組成の解明を目指し研究を続けている。一方、潰瘍性大腸炎に合併する癌 (colitis-associated colorectal cancer; CAC) は形態診断単独での早期発見がしばしば困難である。潰瘍性大腸炎患者の正常に見える大腸粘膜における p53 の異常を調べることで dysplasia-carcinoma pathway の発動を評価し、その臨床的意義を検討することで CAC に対する早期介入の可能性を探るための研究が進行中である。

8. 歯周組織幹細胞の発生・分化・再生機構の解明【細胞生物研究部】

歯根膜は、咬合圧の受容や緩衝を担う靭帯組織であり、歯小嚢に由来する。歯小嚢からは繊維芽細胞、骨芽細胞、セメント芽細胞、などの複数の細胞種が生じることが知られている。それらへの分化能をもつ、多能性幹細胞が歯根膜層に存在する。本研究はホメオボックス転写因子である SIX1 が細胞増速や分化の key 遺伝子であるとの仮説のもとに、マウス歯根膜細胞およびヒト培養歯根膜細胞における SIX1 の発現、機能を解析し、幹細胞の増殖と分化の制御機構の解明と、歯根膜幹細胞を用いた再生医療への応用をめざした基盤確立を目的とした。以下が主な成果である。1) マウス臼歯歯根膜の成熟に至る過程での Six1 の発現と細胞増殖との相関、Six1 欠損マウスと野生型マウスにおける、歯小嚢での細胞増速効率の比較、およびヒト培養歯根膜細胞における SIX1 の増殖制御能について明らかにした (* 論文 434、学会 447、466)。2) Six1 欠損マウス下顎切歯における舌-唇軸非対称形成の異常、象牙芽細胞分化異常、切歯プラコードのパターン形成異常を明らかにした (* 学会 428)。3) 成体での SIX1 の機能解析を可能とする Six1 条件付きノックアウトマウス (Six1-floxed) の系統化に成功した (理化学研究所との共同研究)。

9. 大型動物を用いたヒト造血システムの構築と解析【再生医学研究部】

ヒト造血幹細胞は、その自己複製および分化に際して、骨髄など体内の微小環境との相互作用を必須とする。したがってヒト造血幹細胞のアッセイには、動物個体を用いたヒト造血再構築実験が必須である。これには、従来、免疫不全マウスを用いた評価が一般的であった。今回、ヒツジ胎仔を用いたヒト造血幹細胞の生体内評価系(ヒツジ子宮内移植系)を開発した。すなわち、ヒツジ体内においてヒト造血幹細胞を長期的に(3年以上にわたって)維持できた (* 論文 450、学会 490、501、505、510、511、515)。これほど長期間にわたるヒト造血幹細胞の維持は小型実験動物では困難であり、大型動物実験のメリットである。また、本実験系を利用し、CD34 陰性分画にも造血幹細胞が存在することを証明した (* 論文 448)。さらに、ヒツジ胎仔肝臓の微小環境を利用する本実験系をヒト iPS 細胞の造血分化誘導法として応用し、ヒト iPS 細胞由来造血幹細胞をもつヒツジの作製に成功した (* 学会 470、471、474、特許 21)。ヒツジ胎仔肝臓の微小環境において、移植細胞からは骨髄球系はもとより赤芽球系、巨核球系、リンパ球系細胞といった多系統の細胞への分化が観察された。また、造血幹細胞の発生に必須である Notch1 経路が活性化され、汎血球マーカーである CD45 が陽性化し、CD45 陽性細胞は骨髄内へと移行することがわかった。さらに、ヒツジ体内で発生したヒト iPS 細胞由来造血は、移植から 3 年以上の長期にわたって維持された。以上から、ヒツジ胎仔肝臓内の微小環境を利用して、ヒト iPS 細胞から造血幹細胞を分化誘導することに成功した。

10. iPS・間葉系幹細胞を用いた出血性疾患に対する新規治療法の開発【病態生化学部門】

細胞骨格蛋白質 Vinculin が移植後の造血幹細胞維持・Repopulation に必須の因子であることを見出した (Ohmori *et al.*, J Biol Chem 2010)。Vinculin による造血幹細胞機能の制御機構を明らかとするため、マイクロアレイ解析を用いて Vinculin 抑制により造血幹細胞 mRNA 発現が著明に低下する因子として転写因子 Foxf1a を同定した。本研究の目的は、Foxf1a ノックアウトマウスを作成し、生体における Foxf1a の役割を明らかにすることである。Foxf1a ノックアウトマウスは胎生致死なため、コンディショナルノックアウトマウスを作製した。Foxf1a は肺組織での発現が最も高く、ついで腸管、脾臓、肝臓での発現が高かった。発現パターンを参考にノックアウトマウスの作製をさらに進めた。造血細胞誘導性 Cre 発現 (Mx-Cre) マウスを作製した。Foxf1a 欠損造血幹細胞は、移植後の生着が低下し、細胞周期では S 期が亢進した。その結

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

果、Foxf1a欠損により、骨髄細胞数の増加を認めた。以上より、Foxf1aは造血幹細胞の静止期を保ち、造血幹細胞機能を維持すると考えられた。血小板／巨核球特異的欠損マウスは、インテグリンの発現、血小板機能に影響を認めなかった(*学会 519)。線維芽細胞特異的 Cre 発現(S100a4-Cre)、心筋細胞 Cre 発現(Myh6-Cre)発現、肺胞上皮特異的 Cre 発現(Nx2.1-Cre)マウスはメンデルの法則に基づき生誕した。また予備的結果として、Foxf1a が非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)の線維化に関与するデータが得られてきている。

11. キメラ抗原受容体を利用した新規養子免疫遺伝子療法の確立【遺伝子治療研究部】

難治性B細胞性悪性リンパ腫・白血病を対象としたキメラ抗原受容体(chimeric antigen receptor: CAR)発現Tリンパ球を用いた養子免疫遺伝子療法の基礎研究および臨床開発を行った。基礎研究としては、移植後再発B細胞性急性リンパ性白血病を対象に、多くの症例に適応可能なユニバーサル型CAR導入T細胞の開発を目指した。その際には移植片対宿主病(GVHD)の原因となる内在性T細胞受容体(TCR)の発現を抑制する方法の開発が必要であり、そのための手段としてCRISPR/Cas9システムの有効性を証明することができた。臨床開発としては臨床研究実施計画書「CD19抗原特異的キメラ抗原受容体発現Tリンパ球を用いた難治性B細胞性悪性リンパ腫に対する遺伝子治療臨床研究」が学内IRBと厚生労働省での承認を経て計7例の患者登録に及び、当該患者より採取したリンパ球を元にCAR導入T細胞を作製した。そのうち2例に対して輸注を実施するに至った。輸注後はこれまでのところ順調に推移しており、重篤な有害事象等は認めていない。

<優れた成果が上がった点>

本戦略事業により、数多くの優れた研究成果をあげることができた。例えば、慢性炎症領域では、NCDにおける自然炎症経路インフラマソームの制御機構の解明や希少糖アルロースによる肥満・糖代謝への作用機序の解明、神経ペプチド産生ニューロンの新たな可視化・定量法の開発、内臓脂肪蓄積に関連する遺伝因子 GIP/GIPR の同定、コレステロールエステル水解酵素 NCEH1 の同定とその役割の解明、慢性腎臓病・老化における新たな治療標的物質 CPP の発見とその治療への応用、深層学習による糖尿病網膜症病期分類の開発、組織慢性炎症や骨髄造血における新たな分子イメージング法の開発、深層学習による糖尿病網膜症病期分類の開発などがある。一方、がん・幹細胞領域では、抗がん剤耐性におけるエピジェネティック機構の解明やがん関連小脳変性症の新規自己抗原 CKB の同定、羊を利用したヒト iPS 細胞からの造血幹細胞の分化誘導、新規 Vasohibin 中和抗体の開発とその抗血管新生療法への応用、CAR 導入 T 細胞を用いた難治性造血器腫瘍に対する新規遺伝子治療などがあり、いずれも今後の発展が期待できる成果である。

<課題となった点>

慢性炎症領域、がん・幹細胞領域ともに、十分な質と量の成果発表が行われており、この点では当初の計画・目標を上回る研究成果を達成していると判断される。また、各部門とも、小さな課題は散見されたが、概ね順調に進展していると考えている。

<自己評価の実施結果と対応状況>

研究グループの進捗状況確認のための成果発表会を定期的を開催するとともに、3年目と5年目には各研究グループが成果を発表する全学的な公開シンポジウムを開催して、研究グループ相互による自己評価を行っている。また、本研究プロジェクトの中核を担っている分子病態治療研究センター主催の国際シンポジウムを毎年開催し、国内外の関連研究者を招聘して研究成果に関する議論を活発に行っている。この国際シンポジウムのテーマは、本研究プロジェクトと関連したテーマが選定されており、本戦略事業の促進に大きく寄与することができたと考えている。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

国際雑誌への原著論文発表、学会発表および特許申請により、客観的に評価している。また、HPでの情報公開やメディアへの発表も行い、関連する研究者や社会への還元を積極的に行うことで、外部から

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

の客観的な評価を受けることができた。一方、全学的な本戦略事業のシンポジウムを3年目と5年目に、国際シンポジウムを毎年開催している。これらは全て公開シンポジウムとして開催し、外部からの評価を受けている。また、本プロジェクトに関連する外部専門家として、戦略事業公開シンポジウムでは1名の外部講師を、国際シンポジウムでは毎年5名（に国内から3名、海外から2名）の研究者を招聘して、研究成果に関する議論を活発に行い、その評価結果をフィードバックすることにより、本研究プロジェクトの推進に努めてきた。これらのシンポジウムでは他の大学・研究機関からの参加者も多く、活発な議論が行われた。また、当該領域で国際的に評価の高い招待講演者からも高評価を受けたことから、客観的に評価されたものと考えられる。

<研究期間終了後の展望>

本研究プロジェクト5年間で、本学でのNCD研究に関する基盤整備が進行し、数多くの成果をあげること成功した。自治医科大学では、平成29年度から文科省・私立大学研究ブランディング事業に採択されている。このブランディング事業では、本学の使命である「地域住民の医療・福祉の増進」に貢献するため、地域において最も重要な課題の一つである「高齢化（老化）」を取り上げ、これに関連する疾患を減少させる「実践的な抗加齢医学の創出と普及（健康長寿）」を目指すことで、本学のブランディングを確立する事業計画となっている。老化に関連する疾患のほとんどはNCDに属すると考えられることから、本学の将来ビジョンを踏まえて、本戦略事業で培ってきた本学独自のNCD研究の成果を「地域社会においても実践できる抗加齢医学」の形にさらに発展させて行くことを希望している。

<研究成果の副次的効果>

本研究事業によって、特許申請や取得がなされた。（※別添表参照）

メディア報道としては、ヒツジ等の大型動物を用いた再生医療の研究成果に関して、日本経済新聞や読売新聞、下野新聞等で報道された。また、肥満・生活習慣病の研究成果に関して、日本経済新聞や朝日新聞、下野新聞、時事通信等で報道された。

トランスレーショナル・リサーチ等の実用化については、すでに本研究プロジェクトの成果を利用した臨床試験が開始されている。また、今後の臨床応用や実用化が期待されるものとしては、慢性腎不全の重症度を評価するバイオマーカーとしての血中CPPや遺伝子ノックアウトブタの作製、肥満・生活習慣病に関する各種測定方法や創薬シーズなどがある。

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

- (1) 非感染性疾患 (2) 慢性炎症 (3) がん
 (4) 幹細胞 (5) 生活習慣病 (6) 微小環境
 (7) ストレス応答 (8) 生体ネットワーク

13 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

※別添表参照

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

<図書>

※別添表参照

<学会発表>

※別添表参照

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

- 自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2015
(2015年7月6日 開催)
- 自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2017
(2017年7月10日 開催)
- 第10回 自治医科大学国際シンポジウム－Translational Epigenomics－
(2013年10月17日 開催)
- 第11回 自治医科大学国際シンポジウム－Inflammation, Cancer and Microenvironment－
(2014年10月30日 開催)
- 第12回 自治医科大学国際シンポジウム－Frontiers in Translational Neuroscience－
(2015年11月20日 開催)
- 第13回 自治医科大学国際シンポジウム
－Innovative Technologies for Developmental-and Aging-related Research－
(2016年10月28日 開催)
- 第14回 自治医科大学国際シンポジウム－Molecular Target Therapy and Diagnostics－
(2017年10月27日 開催)
- (URL: <http://www.jichi.ac.jp/kenkyushien/strategic/ncd.html>)

14 その他の研究成果等

1. 高橋将文 第35回日本炎症再生医学会・優秀演題賞
2. 高橋将文 最新医学 Vol.69. No.6 トップランナーに聞く 最先端の医療に挑む若手研究者へのインタビュー 新たな自然炎症経路・インフラマソームの研究(2014年6月10日)
3. 矢田俊彦 毎日新聞 希少糖「アルロース」、過食など改善に効果、自治医大など 創薬への応用期待(2018年1月10日)
4. 矢田俊彦 読売新聞 希少糖 肥満改善仕組み解明、自治医大などグループ、糖尿病治療に期待(2018年1月10日)
5. 矢田俊彦 下野新聞 希少糖作用の仕組みを解明、食事療法や創薬 応用期待、経口摂取で糖尿病改善、自治医大など研究チーム(2018年1月10日)
6. 矢田俊彦 日本経済新聞 希少糖の一種に肥満を防ぐ機能、自治医大、マウス実験(2018年1月10日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

日)

7. 矢田俊彦 朝日新聞 希少糖使い肥満・糖尿病改善に、自治医大の矢田教授ら、マウス実験で突き止める(2018年1月10日)
8. 矢田俊彦 毎日新聞 受容体阻害で効率アップ、1型糖尿病移植療法、自治医大矢田教授らグループ豪と共同研究(2017年9月13日)
9. 矢田俊彦 下野新聞 膵島移植効率化へ、自治医大・矢田教授・出崎准教授、受容体を欠損させ効果(2017年9月7日)
10. 矢田俊彦 読売新聞 高血糖で食欲抑制作用、自治医科大学など分泌物質効果発見、糖尿病治療に期待(2017年6月27日)
11. 矢田俊彦 読売新聞 善玉ホルモン血糖値が鍵、自治医科大学など発見、食欲作用肥満治療などへ期待(2016年9月4日)
12. 矢田俊彦 日本経済新聞 食欲調整酵素のしくみを解明、自治医大など(2015年7月6日)
13. 矢田俊彦 日経産業新聞 脳内酵素、食欲を低減、副作用少ない薬開発に光、自治医大など仕組み解明(2015年7月6日)
14. 矢田俊彦 下野新聞 肥満・糖尿病治療に光、ラットでメカニズム解明、脳内物質が内蔵脂肪減 - 自治医大・矢田教授ら(2013年10月9日)
15. 矢田俊彦 朝日新聞 インスリン新たな経路発見(2013年7月15日)
16. 矢田俊彦 日本工業新聞 膵臓分泌のインスリン、神経経由で脳に情報—自治医大が発見—(2013年6月28日)
17. 矢田俊彦 時事通信 膵臓神経から脳へ=インスリン感知に新ルート—増強剤で肥満治療も—(2013年6月27日)
18. 尾仲達史 安らぎをもたらす脳内ホルモン—オキシトシン。(後編)オキシトシンのストレス・社会行動における働き. 中学保健ニュース 第1655号:2-3, 2016. 高校保健ニュース 第560号:2-3, 2016
19. 尾仲達史 安らぎをもたらす脳内ホルモン—オキシトシン。(前編)オキシトシンの基本的な働き. 中学保健ニュース 第1652号:2-3, 2016. 高校保健ニュース 第557号:2-3, 2016
20. 花園豊 RADIO BERRY FM 栃木 B-UP Morning Update 栃木放射線 presents 教えてドクター(2017年7月3日、7月10日、7月17日、7月24日、7月31日)
21. 花園豊 日経産業新聞 難病克服へ iPS 活用 大型動物で再生医療研究(2015年2月10日)
22. 花園豊 日本経済新聞 万能細胞受精卵に近づく 培養容易に実用化へ一歩(2014年11月23日)
23. 花園豊 日本経済新聞 「臓器工場」実用化へ動く 動物の体内で人間の臓器を作る(2014年8月4日)
24. 花園豊 下野新聞 「ヒト型」を「マウス型」に 培養、分化能力に違い(2014年1月31日)
25. 花園豊 日本経済新聞 iPS 細胞の正体に迫る がん化と紙一重、謎多く(2013年12月22日)
26. 花園豊 読売新聞 豚使う細胞実験容易に センター増設手術支援ロボも(2013年12月6日)
27. 花園豊 日経北関東経済面 再生医療拠点を強化 プタ用手術ロボ導入(2013年12月6日)
28. 花園豊 時事通信社 免疫不全ブタ、半年で作製=再生医療研究を促進—明治大など(2013年10月10日)
29. 花園豊 日本経済新聞 再生医療研究に力 北関東の中核拠点めざす(2013年9月7日)
30. 花園豊 日本経済新聞 iPS 細胞から赤血球 輸血・貧血向け製剤(2013年8月27日)
31. 花園豊 下野新聞 ヒツジから膨らむ想像(2013年8月26日)
32. 花園豊 下野新聞 動物体内でヒト血液 iPS 研究本県でも進む(2013年8月20日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

33. 花園豊 iPS 細胞が拓く新しい医療:現状と課題 平成 25 年度自治医科大学公開講座(下野)(2013 年 7 月 13 日)
34. 花園豊 下野新聞 iPS 実用化へ5拠点 技術開発、自治医大に支援(2013 年 7 月 3 日)
35. 黒尾誠 NHK スペシャル「人体」第1集に出演
36. 黒尾誠 アステラス製薬(株)との共同研究契約「急性腎障害および慢性腎臓病の新規創薬標的としての Klotho-FGF 内分泌系」
37. 西村智 NHK サイエンスゼロ「ミクロの限界を超えろ！ 解き明かされる生命の神秘」(2017 年 9 月 24 日)
38. 西村智 可視化情報全国講演会 ベストプレゼンテーション賞[京都](2015 年 10 月 10 日)
39. 西村智 サイトメトリ学会 最優秀発表賞[東京](2015 年 7 月 11 日)
40. 西村智 動脈硬化学会 優秀ポスター賞[仙台](2015 年 7 月 10 日)
41. 西村智 花王研究奨励賞「表面の科学」医学・生物学分野[東京](2015 年 6 月 5 日)
42. 西村智 総合健診医学会第 43 回学術大会長奨励賞[富山](2015 年 2 月 20 日)
43. 西村智 第 9 回日本免疫学会研究奨励賞(2014 年 12 月 11 日)
44. 西村智 第 75 回日本血液学会学術集会奨励賞[大阪](2014 年 10 月 31 日)
45. 西村智 Royal Microscopy Society 2014 Scientific Imaging Competition, Short Video, 1st prize(2014 年 6 月 30 日)
46. 西村智 Milwaukee, SSC 2014 Best Oral Award(2014 年 6 月 23 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

組織に、連携を計る名目的でない実施リーダーが必要ではないか。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

留意事項として、組織体制についての指摘があったことから、研究代表者である学長の下に実施リーダーとして、慢性炎症領域では高橋将文(炎症・免疫研究部)、がん・幹細胞領域では古川雄祐(幹細胞制御研究部)の2名を配置した。この2名の実施リーダーが、各研究参加グループの定期的な進捗状況の確認や、基礎と臨床における共同研究の橋渡しなど、本研究プロジェクトのハブ的な役割を果たし、参加研究グループおよび各研究領域の連携を強化している。また、定期的な成果発表会、中間・最終報告のためのシンポジウム等についても、この2名が中心となって企画・運営しており、本研究プロジェクトの効率的な運営に大きく貢献している。

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	72,639	38,147	34,492				
	設備	153,846	51,281	102,565				
	研究費	50,000	27,059	22,941				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	25,717	24,283				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	25,448	24,552				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	27,798	22,202				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	27,251	22,749				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	72,639	38,147	34,492	0	0	0	0
	設備	153,846	51,281	102,565	0	0	0	0
	研究費	250,000	133,273	116,727	0	0	0	0
総計	476,485	222,701	253,784	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
自治医科大学NCD 研究拠点	平成23年度	15,893m ²	189	65	0	0	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

m²

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) BD FACS Aria セル ソーター	平成25年度	656700G2	1	1242 h	72,639	34,492	私学助成
(研究設備) 生体ネットワーク再現 システム	平成25年度	BR-180LF BZ-9000	1	680 h	30,681	20,454	私学助成
生体ネットワーク観察 システム	平成25年度	651155	1	424 h	39,112	26,075	私学助成
生体ネットワーク構成 細胞分離システム	平成25年度	655490-01 FSX100-PCSET-2	1	37.5 h	26,575	17,717	私学助成
ゲノム・エピゲノム解析 システム	平成25年度	186-3003JA VIIA7-09	1	1,552 h	24,057	16,038	私学助成
炎症関連タンパク質解 析システム	平成25年度	ZEN5600	1	680 h	33,421	22,281	私学助成
(情報処理関係設備)				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 25 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	35,711	研究用消耗品	35,711
光熱水費			
通信運搬費、論文投稿関係	618	運搬費、論文投稿料	486
印刷製本費	121	印刷費	121
旅費交通費	778	学会参加旅費	778
報酬・委託料	3,340	校正料、研究委託費用	3,472
雑費	108	参加費	108
修繕費	58	研究機器修繕費	58
()			
計	40,734		40,734
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	4,660	研究補助	4,660
			時給 830円, 年間時間数 2,280時間 実人数 4人
教育研究経費支出			時給 950円, 年間時間数 715時間 実人数 1人
計	4,660		4,660
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,606		4,606
			バイオフィーザー(221)、液体窒素容器(340) iBlot GEL TRANSFER DEVICE(143) マルチガスインキュベーター(798)、冷却遠心機(429) 高解像度画像解析システム(2,675)
図書			
計	4,606		4,606
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	2,263	インフラマソームの病態の解明	1,195
		歯根膜細胞の解析	598
		視床下部神経の解析	470
ポスト・ドクター	7,880	インフラマソームの病態の解明	3,227
		造血管細胞の移植実験	1,474
		Nesfat1-1の代謝・循環調節における役割	3,179
研究支援推進経費			
計	10,143		学内8人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	29,747	研究用消耗品	29,747
光熱水費			
通信運搬費、論文投稿関係	418	運搬費、論文投稿料	343
印刷製本費	254	印刷費	254
旅費交通費	471	学会参加旅費	471
報酬・委託料	4,189	研究委託費用	4,264
雑費	191	参加費	191
修繕費	461	研究機器修繕費	461
()			
計	35,731		35,731
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	7,684	研究補助	7,684
教育研究経費支出			
計	7,684		7,684
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	6,585		6,585
図 書			
計	6,585		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	3,786	インフラマソームの病態の解明	2,042
		造血管細胞の移植実験	548
		歯根膜細胞の解析	598
		視床下部神経の解析	598
ポスト・ドクター	15,678	インフラマソームの病態の解明	3,227
		造血管細胞の移植実験	6,374
		血栓止血のイメージング	2,877
		Nesfatin-1の代謝・循環調節における役割	3,200
研究支援推進経費			
計	19,464		学内12人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	31,337	研究用消耗品	31,337
光 熱 水 費			
通信運搬費、論文投稿関係	727	運搬費、論文投稿料	727
印刷製本費	177	印刷費	177
旅費交通費	653	学会参加旅費	653
報酬・委託料	5,667	研究委託費用	4,933
雑費	109	参加費	109
()			
計	38,670		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	7,340	研究補助	7,340
			時給 830円、年間時間数 3,445時間 実人数 6人
			時給 960円、年間時間数 2,759時間 実人数 6人
教育研究経費支出 計	7,340		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	3,990		3,990
			レゴ超低温槽(1,663)、液体窒素保存容器(500) 低温器具乾燥機(327) 超微量分光光度計(913) SimpliAmpサーマルサイクラー(587)
図 書			
計	3,990		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	4,632	インフラマソームの病態の解明	1,793
		造血幹細胞の移植実験	598
		歯根膜細胞の解析	598
		造血・血栓のイメージング研究	498
		視床下部神経の解析	1,145
ポスト・ドクター	3,214	インフラマソームの病態の解明	3,214
研究支援推進経費 計	7,846		
			学内3人 学内1人 学内1人 学内1人 学内2人 学内1人 学内9人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	38,423	研究用消耗品	38,423
光 熱 水 費			
通信運搬費、論文投稿関係	975	運搬費、論文投稿料	975
印刷製本費	291	印刷費	291
旅費交通費	130	学会参加旅費	130
報酬・委託料	4,251	研究委託費用	4,251
雑費	32	参加費	32
()			
計	44,102		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,768	研究補助	3,768
			時給 830円, 年間時間数 1,332時間 実人数 2人
			時給 960円, 年間時間数 1,619時間 実人数 3人
教育研究経費支出 計	3,768		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,130		2,130
			細胞数自動計測システム(1,318) 小動物用電気スイッチ(131) 小動物用イソフルラン麻酔器(681)
図 書			
計	2,130		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	5,878	肝疾患における炎症機構の解析	548
		造血幹細胞の移植実験	1,145
		川崎病の発症機構の解析	598
		LSD1阻害剤の作用機序の解明	598
		iPS細胞のがん化抑制	598
		ペプチド産生ニューロンの役割	598
		視床下部神経の解析	1,793
ポスト・ドクター	1,367	インフラマソームの病態の解明	1,367
研究支援推進経費			
計	9,375		学内11人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(千円)

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	37,311	研究用消耗品	37,311
光 熱 水 費			
通信運搬費、論文投稿関係	1,187	運搬費、論文投稿料	1,187
印刷製本費			
旅費交通費	1,034	学会参加旅費	1,034
報酬・委託料	5,285	研究委託費用	5,285
雑費	122	参加費	122
()			
計	44,939		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	2,933	研究補助	2,933
			時給 830円, 年間時間数 1,429時間 実人数 3人
			時給 960円, 年間時間数 1,288時間 実人数 2人
教育研究経費支出 計	2,933		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,128		2,128
			培養顕微鏡一式(810) バイオメディカルクーラー(300×2) バイオメディカルフリーザー(359×2)
図 書			
計	2,128		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	6,326	肝疾患における炎症機構の解析	598
		造血幹細胞の移植実験	1,195
		造血・血栓のイメージング研究	598
		川崎病の発症機構の解析	598
		LSD1阻害剤の作用機序の解明	598
		腹膜繊維症の病態解析	498
		マクロファージにおける心アラミン活性化機構の解析	548
		ペプチド産生ニューロンの役割	548
		視床下部神経の解析	1,145
ポスト・ドクター	6,261	インフラマソームの病態の解明	3,240
		ストレス負荷時の病態	3,021
研究支援推進経費			
計	14,715		学内13人

1 3 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

《 雑 誌 論 文 》

（部門名）炎症・免疫研究部

査読の有無	通し番号	
	論文1	Karasawa T, Kawashima A, Usui-Kawanishi F, Watanabe S, Kimura H, Kamata R, Shirasuna K, Koyama Y, Sato-Tomita A, Matsuzaka T, Tomoda H, Park SY, Shibayama N, Shimano H, Kasahara T, <u>Takahashi M</u> . Saturated fatty acids undergo intracellular crystallization and activate the NLRP3 inflammasome in macrophages. <i>Arterioscler Thromb Vasc Biol</i> 38:744-756, 2018
	論文2	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . The crystal-induced activation of NLRP3 inflammasomes in atherosclerosis. <i>Inflammation and Regeneration</i> 37: 18, 2017
	*論文3	Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Kimura H, Kamata R, Usui-Kawanishi F, Watanabe S, Ohta S, Funakoshi-Tago M, Yanagisawa K, Kasahara T, Suzuki K, <u>Takahashi M</u> . ARIH2 ubiquitinates NLRP3 and negatively regulates NLRP3 inflammasome activation in macrophages. <i>J Immunol</i> 199: 3614-3622, 2017
	論文4	Sadatomo A, Inoue Y, Ito H, Karasawa T, Kimura H, Watanabe S, Mizushina Y, Nakamura J, Kamata R, Kasahara T, Horie H, Sata N, <u>Takahashi M</u> . Interaction of neutrophils with macrophages promotes interleukin-1 β maturation and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury. <i>J Immunol</i> 199: 3306-3315, 2017
	論文5	Kobayashi M, Kawanishi-Usui F, Karasawa T, Kimura H, Watanabe S, Mise N, Kayama F, Kasahara T, Hasebe N, <u>Takahashi M</u> . The cardiac glycoside ouabain activates NLRP3 inflammasomes and promotes cardiac inflammation and dysfunction. <i>PLoS One</i> 12: 176676, 2017
	論文6	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . Role of NLRP3 inflammasomes in atherosclerosis. <i>J Atheroscler Thromb</i> 24: 443-451, 2017
	論文7	Sogawa Y, Nagasu H, Iwase S, Ihoriya C, Itano S, Uchida A, Kidokoro K, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> , Satoh M, Sasaki T, Suzuki T, Yamamoto M, Horng T, Kashihara N. Infiltration of M1, but not M2, macrophages is impaired after unilateral ureter obstruction in Nrf2-deficient mice. <i>Sci Rep</i> 7: 8801, 2017
	論文8	Terai S, Hashimoto Y, Orita K, Yamasaki S, Takigami J, Shinkuma T, Teraoka T, Nishida Y, <u>Takahashi M</u> , Nakamura H. The origin and distribution of CD68, CD163 and alpha SMA positive cells in the early phase after meniscal resection in a parabiotic rat model. <i>Connect Tissue Res</i> 6: 1-11, 2017
	論文9	Kimura H, Karasawa T, Usui F, Kawashima A, Endo Y, Kobayashi M, Sadatomo A, Nakamura J, Iwasaki Y, Yada T, Tsutsui H, Kasahara T, <u>Takahashi M</u> . Caspase-1 deficiency promotes high-fat diet-induced adipose tissue inflammation and the development of obesity. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab</i> 311: E881-890, 2016
	論文10	Kobayashi M, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Kimura H, Mizushina Y, Shirasuna K, Mizukami H, Kasahara T, Hasebe N, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 reduces macrophage interleukin-10 production and enhances the susceptibility to doxorubicin-induced cardiotoxicity. <i>Sci Rep</i> 6: 26489, 2016

	論文11	Omori K, Kobayashi E, Komatsu H, J Rawson, Agrawal G, Parimi M, Oancea A, Valiente L, Ferreri K, Al-Abdullah IS, Kandeel F, <u>Takahashi M</u> , Mullen Y. Involvement of a pro-apoptotic gene BBC3 in islet injury mediated by cold preservation and re-warming. Am J Physiol Endocrinol Metab 310: E1016-E1026, 2016
	論文12	Shirasuna K, Takano T, Seno K, Ohtsu A, Karasawa T, <u>Takahashi M</u> , Ohkuchi A, Suzuki H, Matsubara S, Iwata H, Kuwayama T. Palmitic acid induces interleukin-1beta secretion via NLRP3 inflammasomes and inflammatory responses through ROS production in human placental cells. J Reprod Immunol 116: 104-112, 2016
	論文13	Omori K, Kobayashi E, Jeffrey R, <u>Takahashi M</u> , Mullen Y. Mechanisms of islet damage mediated by pancreas cold ischemia/rewarming. Cyobiology 73: 126-134, 2016
有	論文14	Okada A, Kashima Y, Tomita T, Takeuchi T, Aizawa K, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Characterization of cardiac oxidative stress levels in patients with arterial fibrillation. Heart Vessels 31: 80-87, 2016
有	論文15	Kimura H, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Suzuki K, Iwasaki Y, Yada T, Caturegli P, <u>Takahashi M</u> . Immunoproteasome LMP7 deficiency improves obesity and metabolic disorders. Sci Rep 5: 15883, 2015
有	*論文16	Shirasuna K, Karasawa T, Usui F, Kobayashi M, Komada T, Kimura H, Kawashima A, Ohkuchi A, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 deficiency improves angiotensin II-induced hypertension but not fetal growth restriction during pregnancy. Endocrinology 156: 4281-4292, 2015
有	*論文17	Komada T, Usui F, Kawashima A, Kimura H, Karasawa T, Inoue Y, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Taniguchi S, Muto S, Nagata D, <u>Takahashi M</u> . Role of NLRP3 inflammasomes for rhabdomyolysis-induced acute kidney injury. Sci Rep 5: 10901, 2015
有	*論文18	Karasawa T, Kawashima A, Usui F, Kimura H, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Sagara J, <u>Takahashi M</u> . Oligomerized CARD16 promotes caspase-1 assembly and IL-1 β processing. FEBS Open Bio 5: 348-356, 2015
有	*論文19	Mizushina Y, Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Kimura H, Kobayashi M, Komada T, Inoue Y, Mato N, Yamasawa H, Latz E, Iwakura Y, Kasahara T, Bando M, Sugiyama Y, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 protein deficiency exacerbates hyperoxia-induced lethality through Stat3 protein signaling independent of interleukin-1beta. J Biol Chem 290: 5065-5077, 2015
有	*論文20	Usui F, Shirasuna K, Kimura H, Tatsumi K, Kawashima A, Karasawa T, Yoshimura K, Aoki H, Tsustui H, Noda T, Sagara J, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. Arterioscler Thromb Vasc Biol 35: 127-136, 2015
有	*論文21	Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kimura H, Kawashima A, Mizukami H, Ohkuchi A, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Ozawa K, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . Nanosilica-induced placental inflammation and pregnancy complications: Different roles of the inflammasome components NLRP3 and ASC. Nanotoxicology 9: 554-567, 2015
有	論文22	<u>Takahashi M</u> . Role of innate immune system in inflammation and cardiac remodeling after myocardial infarction. Curr Vascular Pharm (in press)
有	論文23	Usui F, Kobayashi M, <u>Takahashi M</u> . Letter regarding article "Inhibition of interleukin-1beta decrease aneurysm formation and progression in murine model of thoracic aortic aneurysm". Circulation 131: e399, 2015
有	論文24	Inoue Y, <u>Takahashi M</u> . Comment on "Radiation exposure induces inflammatory pathway activation in immune cells". J Immunol 194: 5039, 2015

有	論文25	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . Letter regarding article “Anti-inflammatory and anti-atherogenic effects of the inflammasome NLRP3 inhibitor, arglabin, in ApoE2.Ki mice fed a high fat diet” Circulation 24: 132, 2015
有	論文26	Inoue Y, Sadatomo A, <u>Takahashi M</u> . Role of NLRP3 inflammasomes in hepatic ischemia-reperfusion injury. Inflammation and Regeneration 35: 61-68, 2015
有	論文27	Kimura H, Caturegli P, <u>Takahashi M</u> , Suzuki K. New insights into the function of the immunoproteasome in immune and non-immune cells. J Immunol Res (in press)
有	論文28	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . RIP140 as a novel therapeutic target in the treatment of atherosclerosis. J Mol Cell Cardiol 81: 136-138, 2015
有	論文29	<u>Takahashi M</u> . High-mobility group box 1 protein in myocardial infarction: Should it be stimulated or inhibited? J Atheroscler Thromb 22: 553-554, 2015
有	論文30	Gautam M, Fujita D, Kimura K, Ichikawa H, Izawa A, Hirose M, Kashihara T, Yamada M, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U, Shiba Y. Transplantation of adipose-tissue-derived stem cells improves cardiac contractile function and electrical stability in a rat myocardial infarction model. J Mol Cell Cardiol 81: 139-149, 2015
有	論文31	Kadoya H, Sato M, Sasaki T, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> , Kashihara N. Excess aldosterone is a critical danger signal for inflammasome activation in the development of renal fibrosis in mice. FASEB J 15-271734, 2015
有	論文32	Okada A, Kashima Y, Tomita T, Takeuchi T, Aizawa K, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Characterization of cardiac oxidative stress levels in patients with arterial fibrillation. Heart Vessels (in press)
有	論文33	Nagayama S, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi K, Suzuki H, Hirashima C, Sakata A, Nishimura S, <u>Takahashi M</u> , Matsubara S. The frequency of peripheral blood CD4+Fox3+ regulatory T cells in women with preeclampsia and those with high risk factors for preeclampsia. Hypertens Preg (in press)
有	論文34	Yano K, Yasuda H, Takaoka K, <u>Takahashi M</u> , Nakamura H, Imai Y, Wakitani S. Fate, origin and roles of cells within free bone grafts. J Orthop Sci 20: 390-396, 2015
有	論文35	Hara K, Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kimura H, Kawashima A, Ohkuchi A, Matsuyama S, Kimura K, <u>Takahashi M</u> . IFNT attenuates uptake of nanoparticle and secretion of interleukin-1beta in macrophages. PLoS One 9: e113974, 2014
有	*論文36	Inoue Y, Shirasuna K, Kimura H, Usui F, Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Dezaki K, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Iwakura Y, Tsutsui H, Taniguchi S, Yanagisawa K, Yada T, Yasuda Y, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 regulates neutrophil function and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury independently of inflammasomes. J Immunol 192: 4342-4351, 2014
有	論文37	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvist S, Hirao A, Iwasaki Y, Yada T, Yanagisawa Y, Miyashita H, <u>Takahashi M</u> , Iwamoto S. TRIB1 down-regulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. J Mol Endocrinol 52: 145-158, 2014
有	*論文38	Komada T, Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Kimura H, Karasawa T, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Taniguchi S, Muto S, Nagata D, Kusano E, <u>Takahashi M</u> . ASC in renal collecting duct epithelial cells contributes to inflammation and injury after unilateral ureteral obstruction. Am J Pathol 184: 1287-1298, 2014
有	論文39	Motoki H, Koyama J, Aizawa K, Koshikawa M, Kasai H, Izawa A, Tomita T, Kumazaki S, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Impact of azelnidipine and amlodipine on left ventricular mass and longitudinal function in hypertensive patients with left ventricular hypertrophy. Echocardiography 31:1230-1238, 2014

有	論文40	Ninomiya T, Hiraga T, Hosoya A, Ohnuma K, Ito Y, <u>Takahashi M</u> , Ito S, Asashima M, Nakamura H. Enhanced bone-forming activity of side population cells in the periodontal ligament. Cell Transplant 23: 691-701, 2014
有	論文41	Okano T, Wakitani S, Okabe T, <u>Takahashi M</u> , Koike T, Nakamura H. Nucleated cells circulating in the peripheral blood contribute to the repair of osteochondral defects in the early phase of healing. J Tissue Eng Regen Med 8: 414-420, 2014
有	論文42	<u>Takahashi M</u> . NLRP3 inflammasome as a novel player in myocardial infarction. Int Heart J 55: 101-105, 2014
有	論文43	<u>Takahashi M</u> . Letter regarding article “Targeting interleukin-1 in heart disease”. Circulation 130: e62, 2014
有	論文44	<u>Takahashi M</u> . Reply to letter regarding article “NLRP3 inflammasome as a therapeutic target in myocardial infarction”. Int Heart J 55: 380, 2014
有	論文45	Yamasaki, Hashimoto Y, Takigami J, Terai S, <u>Takahashi M</u> , Nakamura H. Circulating blood cells contribute to early-phase meniscal healing. J Tissue Eng Regen Med 8: 414-420, 2014
有	論文46	Inoue Y, Yasuda Y, <u>Takahashi M</u> . Role of the inflammasome in inflammatory responses and subsequent injury after hepatic ischemia-reperfusion injury. Hepatology 58: 2212, 2013
有	論文47	Kashima Y, <u>Takahashi M</u> , Shiba Y, Itano N, Izawa A, Koyama J, Nakayama J, Sagara J, Taniguchi S, Kimata K, Ikeda U. Critical role of hyaluronan in neointimal formation after vascular injury. PLoS One 8: e58760, 2013
有	論文48	Koyama J, Minamisawa A, Aizawa K, Kasai H, Koshikawa M, Izawa A, Tomita T, Miyashita Y, Kumazaki S, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Peak systolic velocity of pulmonary venous flow and peak systolic mitral annular velocity are independent predictors of left ventricular global longitudinal strain in patients with cardiomyopathy. Int J Cardiol 168: 5462-5464, 2013
有	論文49	Ninomiya T, Hiraga T, Hosoya A, Ohnuma K, Ito Y, <u>Takahashi M</u> , Ito S, Asashima M, Nakamura H. Enhanced bone-forming activity of side population cells in the periodontal ligament. Cell Transplant 2013 Feb 5 [Epub ahead of print]
有	論文50	<u>Takahashi M</u> . NLRP3 in myocardial ischemia-reperfusion injury: Inflammasome- dependent or -independent role in different cell types. Cardiovasc Res 99: 4-5, 2013

(部門名) 統合生理学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文51	Okamoto S, Sato T, Tateyama M, Kageyama H, Maejima Y, Nakata M, Hirako S, Matsuo T, Kyaw S, Shiuchi T, Toda C, Sedbazar U, Saito K, Asgar NF, Zhang B, Yokota S, Kobayashi K, Fougelle F, Ferré P, Nakazato M, Masuzaki H, Shioda S, <u>Yada T</u> , Kahn BB, Minokoshi Y: Activation of AMPK-Regulated CRH Neurons in the PVH is Sufficient and Necessary to Induce Dietary Preference for Carbohydrate over Fat. Cell Rep. 22(3): 706-721, 2018.
有	*論文52	Iwasaki Y, Sendo M, Dezaki K, Hira T, Sato T, Nakata M, Goswami C, Aoki R, Arai T, Kumari P, Hayakawa M, Masuda C, Okada T, Hara H, Drucker DJ, Yamada Y, Tokuda M, <u>Yada T</u> : GLP-1 release and vagal afferent activation mediate the beneficial metabolic and chronotherapeutic effects of D-allulose. Nature Communications 9: 113, 2018.
有	論文53	Ota M, Yoshida S, Nakata M, <u>Yada T</u> , Kunugi H: The effects of adjunctive intranasal oxytocin in patients with schizophrenia. Postgrad Med. 130(1):122-128, 2018.

有	論文54	Loh K, Shi Y, Walters S, Bensellam M, Lee K, Dezaki K, Nakata M, Ip CK, Chan J, Gurzov E, Thomas H, Waibel M, Cantley J, Kay T, <u>Yada T</u> , Laybutt R, Grey S, Herzog H: Inhibition of Y1 receptor signaling improves islet transplant outcome. <i>Nature Communications</i> 8(1): 490, 2017.
有	*論文55	Suyama S, Ralevski A, Liu ZW, Dietrich MO, <u>Yada T</u> , Simonds SE, Cowley MA, Gao XB, Diano S, Horvath TL: Plasticity of calcium-permeable AMPA glutamate receptors in Pro-opiomelanocortin neurons. <i>Elife</i> 6: e25755, 2017.
有	論文56	Iwasaki Y, Goswami C, <u>Yada T</u> : Glucagon-like peptide-1 and insulin synergistically activate vagal afferent neurons. <i>Neuropeptides</i> 65: 77-82, 2017.
有	論文57	Yoshii Y, Inoue T, Uemura Y, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Nakabeppu Y, Noda M: Complexity of stomach-brain interaction induced by molecular hydrogen in Parkinson's disease model mice. <i>Neurochem Res.</i> 42(9): 2658-2665, 2017.
有	*論文58	Sasanuma H, Nakata M, Kumari P, Nakae J, <u>Yada T</u> : PDK1-FoxO1 pathway in AgRP neurons of arcuate nucleus promotes bone formation via GHRH-GH-IGF1 axis. <i>Mol Metab.</i> 6(5): 428-439, 2017.
有	論文59	Suyama S, Lei W, Kubota N, Kadowaki T, <u>Yada T</u> : Adiponectin at physiological level glucose-independently enhances inhibitory postsynaptic current onto NPY neurons in the hypothalamic arcuate nucleus. <i>Neuropeptides</i> 65: 1-9, 2017.
有	*論文60	Santoso P, Nakata M, Shiizaki K, Boyang Z, Parmila K, Otgon-Uul Z, Hashimoto K, Satoh T, Mori M, Kuro-O M, <u>Yada T</u> : Fibroblast growth factor 21, assisted by elevated glucose, activates paraventricular nucleus NUCB2/Nesfatin-1 neurons to produce satiety under fed states. <i>Scientific reports</i> 7: 45819, 2017.
有	論文61	Santoso P, Nakata M, Ueta Y, <u>Yada T</u> : Suprachiasmatic vasopressin to paraventricular oxytocin neurocircuit in the hypothalamus relays light reception to inhibition of feeding behavior. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab.</i> Feb 7, 2017. [Epub ahead of print]
有	*論文62	Nakata M, Yamamoto S, Okada T, <u>Yada T</u> : AAV-mediated IL-10 gene transfer counteracts inflammation in the hypothalamic arcuate nucleus and obesity induced by high-fat diet. <i>Neuropeptides</i> 62: 87-92, 2017.
有	論文63	Ito K, Dezaki K, Yoshida M, Yamada H, Miura R, Rita RS, Ookawara S, Tabei K, Kawakami M, Hara K, Morishita Y, <u>Yada T</u> , Kakei M: Endogenous α 2A-adrenoceptor-operated sympathoadrenergic tones attenuate insulin secretion via cAMP/TRPM2 signaling. <i>Diabetes</i> 66(3): 699-709, 2017.
有	論文64	Nakata M, Zhang B, Yang Y, Okada T, Shintani N, Hashimoto H, <u>Yada T</u> : High-fat diet augments VPAC1 receptor-mediated PACAP action on the liver, inducing LAR expression and insulin resistance. <i>J Diabetes Res.</i> 2016: 9321395, 2016.
有	論文65	Kohno D, Koike M, Ninomiya Y, Kojima I, Kitamura T, <u>Yada T</u> : Sweet taste receptor serves to activate glucose- and leptin-responsive neurons in the hypothalamic arcuate nucleus and participates in glucose responsiveness. <i>Frontiers in Neuroscience (section Neuroendocrine Science)</i> . 10: 502, 2016.
有	論文66	Kimura H, Karasawa T, Usui F, Kawashima A, Endo Y, Kobayashi M, Sadatomo A, Nakamura J, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Tsutsui H, Kasahara T, Takahashi M: Caspase-1 deficiency promotes high-fat diet-induced adipose tissue inflammation and the development of obesity. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab.</i> 311(5): E881-E890, 2016.

有	<u>*論文67</u>	Suyama S, Maekawa F, Maejima Y, Kubota N, Kadowaki T, <u>Yada T</u> : Glucose level determines excitatory or inhibitory effects of adiponectin on arcuate POMC neuron activity and feeding. <i>Scientific Reports</i> 6: 30796, 2016.
有	論文68	Li E, Nakata M, Shinozaki A, Yang Y, Zhang B, <u>Yada T</u> : Betatrophin expression is promoted in obese hyperinsulinemic type 2 but not type 1 diabetic mice. <i>Endocr J.</i> 63(7): 611-619, 2016.
有	論文69	Otogon-Uul Z, Suyama S, Onodera H, <u>Yada T</u> : Optogenetic activation of leptin-and glucose-regulated GABAergic neurons in dorsomedial hypothalamus promotes food intake via inhibitory synaptic transmission to paraventricular nucleus of hypothalamus. <i>Molecular Metabolism</i> 5(8): 709-715, 2016.
有	<u>*論文70</u>	Nakata M, Gantulga D, Santoso P, Zhang B, Masuda C, Mori M, Okada T, <u>Yada T</u> : Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 supports oxytocin and vasopressin neurons to control feeding behavior and fluid balance in male mice. <i>Endocrinology</i> 157(6): 2322-2332, 2016.
有	論文71	Fujitsuka N, Asakawa A, Morinaga A, Amitani MS, Amitani H, Katsuura G, Sawada Y, Sudo Y, Uezono Y, Mochiki E, Sakata I, Sakai T, Hanazaki K, <u>Yada T</u> , Yakabi K, Sakuma E, Ueki T, Niijima A, Nakagawa K, Okubo N, Takeda H, Asaka M, Inui A: Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1. <i>Mol Psychiatry</i> 21(11):1613-1623, 2016
有	論文72	Taguchi M, Dezaki K, Koizumi M, Kurashina K, Hosoya Y, Lefor AK, Sata N, <u>Yada T</u> : Total gastrectomy-induced reductions in food intake and weight are counteracted by rikkunshito by attenuating glucagon-like peptide-1 elevation in rats. <i>Surgery</i> 159(5):1342-1350, 2016
有	<u>*論文73</u>	Nakata M, Yamamoto S, Okada T, Darambazar G, Okano H, Ozawa K, <u>Yada T</u> : IL-10 gene transfer upregulates arcuate POMC and ameliorates hyperphagia, obesity and diabetes by substituting for leptin. <i>Int J Obes (Lond)</i> 40(3):425-433, 2016
有	論文74	Suyama S, Kodaira-Hirano M, Otgon-Uul Z, Ueta Y, Nakata M, <u>Yada T</u> : Fasted/fed states regulate postsynaptic hub protein DYNLL2 and glutamatergic transmission in oxytocin neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus. <i>Neuropeptides</i> 56:115-123, 2016
有	論文75	Kimura H, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Suzuki K, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Caturegli P, Takahashi M: Immunoproteasome subunit LMP7 Deficiency Improves Obesity and Metabolic Disorders. <i>Scientific Reports</i> 5:15883, 2015
有	論文76	Kurashina T, Dezaki K, Yoshida M, Rita RS, Ito K, Taguchi M, Miura R, Tominaga M, Ishibashi S, Kakei M, <u>Yada T</u> : The β -cell GHSR and downstream cAMP/TRPM2 signaling account for insulinostatic and glycemic effects of ghrelin. <i>Scientific Reports</i> 5:14041, 2015
有	論文77	Sasaki T, Kinoshita Y, Matsui S, Kakuta S, Yokota-Hashimoto H, Kinoshita K, Iwasaki Y, Kinoshita T, <u>Yada T</u> , Amano N, Kitamura T: N-methyl D-aspartate receptor co-agonist D-serine suppresses intake of high-preference food. <i>Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.</i> 309(5):R561-575, 2015
有	論文78	Kozuka C, Sunagawa S, Ueda R, Higa M, Ohshiro Y, Tanaka H, Shimizu-Okabe C, Takayama C, Matsushita M, Tsutsui M, Ishiuchi S, Nakata M, <u>Yada T</u> , Miyazaki JI, Oyadamari S, Shimabukuro M, Masuzaki H: A novel insulinotropic mechanism of whole grain-derived γ -oryzanol via the suppression of local dopamine D2 receptor signaling in mouse islet. <i>Br J Pharmacol</i> 172:4519-4534, 2015
有	<u>*論文79</u>	Kurita H, Xu KY, Maejima Y, Nakata M, Dezaki K, Santoso P, Yang Y, Arai T, Gantulga D, Muroya S, Lefor AK, Kakei M, Watanabe E, <u>Yada T</u> : Arcuate Na^+, K^+ -ATPase senses systemic energy states and regulates feeding behavior through glucose-inhibited neurons. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab.</i> 309(4):E320-E333, 2015

有	論文80	Iwasaki Y, Dezaki K, Kumari P, Kakei M, <u>Yada T</u> : Ghrelin counteracts insulin-induced activation of vagal afferent neurons via growth hormone secretagogue receptor. <i>Neuropeptides</i> 52:55-60, 2015
有	論文81	Kamiide Y, Inomata N, Furuya M, <u>Yada T</u> : Ghrelin ameliorates catabolic conditions and respiratory dysfunction in a chronic obstructive pulmonary disease model of chronic cigarette smoke-exposed rats. <i>Eur J Pharmacol.</i> 755:88-94, 2015
有	論文82	Kamiide Y, Furuya M, Inomata N, <u>Yada T</u> : Chronic exposure to cigarette smoke causes extrapulmonary abnormalities in rats. <i>Environ Toxicol Pharmacol.</i> 39(2):864-870, 2015
有	*論文83	Maejima Y, Rita RS, Santoso P, Aoyama M, Hiraoka Y, Nishimori K, Gantulga D, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Nasal oxytocin administration reduces food intake without affecting locomotor activity and glycemia with c-Fos induction in limited brain areas. <i>Neuroendocrinology</i> 101(1):35-44, 2015
有	*論文84	Iwasaki Y, Maejima Y, Suyama S, Yoshida M, Arai T, Katsurada K, Kumari P, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> : Peripheral oxytocin activates vagal afferent neurons to suppress feeding in normal and leptin-resistant mice: A route for ameliorating hyperphagia and obesity. <i>Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol</i> 308:R360-R369, 2015
有	論文85	Darambazar G, Nakata M, Okada T, Wang L, Li E, Shinozaki A, Motoshima M, Mori M, <u>Yada T</u> : Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 is directly targeted by leptin and mediates its anorexigenic effect. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(4):913-918, 2015
有	論文86	Ayush EA, Iwasaki Y, Iwamoto S, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> : Glucagon directly interacts with vagal afferent nodose ganglion neurons to induce Ca ²⁺ signaling via glucagon receptors. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(3):727-732, 2015
有	論文87	Rita R, Dezaki K, Kurashina T, Kakei M, <u>Yada T</u> : Partial blockade of Kv2.1 channel potentiates GLP-1's insulinotropic effects in islets and reduces its dose required for improving glucose tolerance in type 2 diabetic male mice. <i>Endocrinology</i> 156(1):114-123, 2015
有	論文88	Sedbazar U, Ayush EA, Maejima Y, <u>Yada T</u> : Neuropeptide Y and α -melanocyte-stimulating hormone reciprocally regulate nesfatin-1 neurons in the paraventricular nucleus of hypothalamus. <i>NeuroReport</i> 25(18):1453-1458, 2014
有	*論文89	Maejima Y, Sakuma K, Santoso P, Gantulga D, Katsurada K, Ueta Y, Hiraoka Y, Nishimori K, Tanaka S, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Oxytocinergic circuit from paraventricular and supraoptic nuclei to arcuate POMC neurons in hypothalamus. <i>FEBS Letters</i> 588(23):4404-4412, 2014
有	論文90	Katsurada K, Maejima Y, Nakata M, Kodaira M, Suyama S, Iwasaki Y, Kario K, <u>Yada T</u> : Endogenous GLP-1 acts on paraventricular nucleus to suppress feeding: Projection from nucleus tractus solitarius and activation of corticotropin-releasing hormone, nesfatin-1 and oxytocin neurons. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 451(2):276-281, 2014
有	論文91	Yoshida M, Dezaki K, Uchida K, Kodera S, Lam N, Ito K, Rita R, Yamada H, Shimomura K, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Tominaga M, <u>Yada T</u> , Kakei M: Involvement of cAMP-EPAC-TRPM2 activation in glucose- and incretin-induced insulin secretion. <i>Diabetes</i> 63(10):3394-3403, 2014
有	論文92	Yanagida K, Maejima Y, Santoso P, Otgon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Hexosamine pathway but not interstitial changes mediates glucotoxicity in pancreatic β -cells as assessed by cytosolic Ca ²⁺ response to glucose. <i>Aging (Albany NY)</i> 6(3):207-214, 2014

有	論文93	Inoue Y, Shirasuna K, Kimura H, Usui F, Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Dezaki K, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Iwakura Y, Tsutsui H, Taniguchi S, Yanagisawa K, <u>Yada T</u> , Yasuda Y, Takahashi M: NLRP3 regulates neutrophil functions and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury independently of Inflammasomes. J Immunol 192(9):4342-4351, 2014
有	論文94	Koizumi M, Hosoya Y, Dezaki K, <u>Yada T</u> , Hosoda H, Kangawa K, Nagai H, Lefor AT, Sata N, Yasuda Y: Serum ghrelin levels partially recover with the recovery of appetite and food intake after total gastrectomy. Surg Today 44(11):2131-2137, 2014
有	論文95	Kawamata R, Suzuki Y, Yada Y, Koike Y, Kono Y, <u>Yada T</u> , Takahashi N: Gut hormone profiles in preterm and term infants during the first 2 months of life. J Pediatr Endocrinol Metab 27(7-8):717-723, 2014
有	論文96	Uramura K, Maejima Y, Shimomura K, Santoso P, Katsuda S, Kobayashi D, Jodo E, Kodaira M, Otkon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Takigawa M, Hazama A, <u>Yada T</u> : Chronic phencyclidine treatment induces long-lasting glutamatergic activation of VTA dopamine neurons. Neuroscience Letters 564:72-77, 2014
有	論文97	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvisut S, Hirao A, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Yanagisawa Y, Miyashita H, Takahashi M, Iwamoto S: TRIB1 down-regulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. J Mol Endocrinol 52(2):145-158, 2014
有	論文98	Manaka K, Nakata M, Shimomura K, Rita RS, Maejima Y, Yoshida M, Dezaki K, Kakei M, <u>Yada T</u> : Chronic exposure to valproic acid promotes insulin release, reduces KATP channel current and does not affect Ca ²⁺ signaling in mouse islets. J Physiol Sci 64(1):77-83, 2014
有	論文99	Maekawa F, Fujiwara K, Toriya M, Maejima Y, Nishio T, Toyoda Y, Nohara K, Yashiro T, <u>Yada T</u> : Brain-derived neurotrophic factor in VMH as the causal factor for and therapeutic tool to treat visceral adiposity and hyperleptinemia in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats. Front Synaptic Neurosci 5(7):1-13, 2013
有	論文100	Maejima Y, Shimomura K, Sakuma K, Yang Y, Arai T, Mori M, <u>Yada T</u> : Paraventricular nucleus nesfatin-1 neurons are regulated by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP). Neuroscience Letters 551:39-42, 2013
有	論文101	Iwasaki Y, Shimomura K, Kohno D, Dezaki K, Ayush EA, Nakabayashi H, Kubota N, Kadowaki T, Kakei M, Nakata M, <u>Yada T</u> : Insulin activates vagal afferent neurons including those innervating pancreas via insulin cascade and Ca ²⁺ influx: its dysfunction in IRS2-KO mice with hyperphagic obesity. PLoS ONE 8(6):e67198, 2013

(部門名) 人類遺伝学研究部

査読の有無	通し番号	
有	*論文102	Boonvisut S, Yoshida K, Nakayama K, Watanabe K, Miyashita H, <u>Iwamoto S</u> . Identification of deleterious rare variants in MTTP, PNPLA3, and TM6SF2 in Japanese males and association studies with NAFLD. Lipids Health Dis. 2017;16:183.
有	論文103	Nakayama K, Saito S, Watanabe K, Miyashita H, Nishijima F, Kamo Y, Tada K, Ishizuka S, Niwa T, <u>Iwamoto S</u> , Shimizu H. Influence of AHRR Pro189Ala polymorphism on kidney functions. Biosci Biotechnol Biochem. 2017;81:1120-1124.
有	論文104	Nakayama K, Ohashi J, Watanabe K, Munkhtulga L, <u>Iwamoto S</u> . Evidence for Very Recent Positive Selection in Mongolians. Mol Biol Evol. 2017;34:1936-1946.

有	論文105	Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> . An adaptive variant of TRIB2, rs1057001, is associated with higher expression levels of thermogenic genes in human subcutaneous and visceral adipose tissues. J Physiol Anthropol. 2017;36:16.
有	論文106	Watanabe K, Nakayama K, Ohta S, Tago K, Boonvisut S, Millings EJ, Fischer SG, LeDuc CA, Leibel RL, <u>Iwamoto S</u> . ZNF70, a novel ILDR2-interacting protein, contributes to the regulation of HES1 gene expression. Biochem Biophys Res Commun. 2016;477:712-716.
有	*論文107	Boonvisut S, Nakayama K, Makishima S, Watanabe K, Miyashita H, Lkhagvasuren M, Kagawa Y, <u>Iwamoto S</u> .:Replication analysis of genetic association of the NCAN-CILP2 region with plasma lipid levels and non-alcoholic fatty liver disease in Asian and Pacific ethnic groups.Lipids Health Dis. 15:8,2016
有	論文108	Yang Z, Matsumoto A, Nakayama K, Jimbo EF, Kojima K, Nagata K, <u>Iwamoto S</u> , Yamagata T.:Circadian-relevant genes are highly polymorphic in autism spectrum disorder patients.Brain Dev.38:91-99,2016
有	論文109	Horiguchi S,Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> ,Ishijima A,Minezaki T,Baba M,Kontai Y,Horikawa C,Kawashima H,Shibata H,Kagawa Y,Kawabata T:Associations between a fatty acid desaturase gene polymorphism and blood arachidonic acid compositions in Japanese elderly. Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 105:9-14,2015
有	論文110	Fujita-Jimbo E, Tanabe Y, Yu Z, Kojima K, Mori M, Li H, <u>Iwamoto S</u> , Yamagata T, Momoi MY, Momoi T.:The association of GPR85 with PSD-95-neuroigin complex and autism spectrum disorder: a molecular analysis.Mol Autism. 6:17, 2015
無	*論文111	<u>Iwamoto S</u> , Boonvisut S, Makishima S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K.:The role of TRIB1 in lipid metabolism; from genetics to pathways.Biochem Soc Trans. 43:1063-1068,2015
有	*論文112	Makishima S, Boonvisut S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> : Sin3A-associated protein, 18 kDa, a novel binding partner of TRIB1, regulates MTTP expression.J Lipid Res.56:1145-1152,2015
有	*論文113	Nakayama K, Miyashita H, <u>Iwamoto S</u> .:Seasonal effects of the UCP3 and the RPTOR gene polymorphisms on obesity traits in Japanese adults.J Physiol Anthropol.33:38,2014
有	*論文114	Nakayama K, Watanabe K, Boonvisut S, Makishima S, Miyashita H, <u>Iwamoto S</u> .: Common variants of GIP are associated with visceral fat accumulation in Japanese adults.Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.307:G1108-1114,2014
有	*論文115	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvisut S, Hirao A, Iwasaki Y, Yada T, Yanagisawa Y, Miyashita H, Takahashi M, <u>Iwamoto S</u> :TRIB1 downregulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions.J Mol Endocrinol. 52:145-158,2014
有	論文116	Naka I, Hikami K, Nakayama K, Koga M, Nishida N, Kimura R, Furusawa T, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ataka Y, Ishida T, Inaoka T, <u>Iwamoto S</u> , Matsumura Y, Ohtsuka R, Tsuchiya N, Ohashi J: A functional SNP upstream of the beta-2 adrenergic receptor gene (ADRB2) is associated with obesity in Oceanic populations. International journal of obesity 37:1204-1210, 2013
有	*論文117	Nakayama K, Miyashita H, Yanagisawa Y, <u>Iwamoto S</u> .:Seasonal effects of UCP1 gene polymorphism on visceral fat accumulation in Japanese adults.PLoS One.8:e74720,2013

(部門名) 循環器内科学部門

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文118	Oba Y, Kabutoya T, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Association between nondipper pulse rate and measures of cardiac overload: The J-HOP Study. J Clin Hypertens 2017;19:402-409.
有	論文119	<u>Kario K</u> , Tomitani N, Kanegae H, Ishii H, Uchiyama K, Yamagiwa K, Shiraiwa T, Katsuya T, Yoshida T, Kanda K, Hasegawa S, Hoshide S. Comparative Effects of an Angiotensin II Receptor Blocker (ARB)/Diuretic vs. ARB/Calcium-Channel Blocker Combination on Uncontrolled Nocturnal Hypertension Evaluated by Information and Communication Technology-Based Nocturnal Home Blood Pressure Monitoring - The NOCTURNE Study. Circ J. 2017;81:948-957.
有	論文120	Hoshide S, Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J, <u>Kario K</u> ; J-HOP Study Group. Morning and Evening Home Blood Pressure and Risks of Incident Stroke and Coronary Artery Disease in the Japanese General Practice Population: The Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study. Hypertension. 2016;68:54-61.
有	論文121	Niijima S, Nagai M, Hoshide S, Takahashi M, Shimpo M, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Long sleep duration: A non-conventional indicator of arterial stiffness in Japanese at high risk of cardiovascular disease: the J-HOP Study. Journal of the American Society of Hypertension 2016 (In Press Accepted Manuscript)
有	論文122	Shibasaki S, Hoshide S, Eguchi K, Ishikawa J, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP) Study Group. Increase Trend in Home Blood Pressure on a Single Occasion Is Associated With B-Type Natriuretic Peptide and the Estimated Glomerular Filtration Rate. Am J Hypertens 28: 1098-105, 2015.
有	論文123	<u>Kario K</u> . Morning surge in blood pressure: a phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. Am J Hypertens 28: 7-9, 2015
有	論文124	<u>Kario K</u> , Hoshide S, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Yano Y, Eguchi K, Matsui Y, Shimizu M, Ishikawa J, Ishikawa S. J-HOP study group. Sleep Blood Pressure Self-Measured at Home as a Novel Determinant of Organ Damage: Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study. J Clin Hypertens (Greenwich) 17: 340-8, 2015
有	論文125	<u>Kario K</u> . Prognosis in relation to blood pressure variability: pro side of the argument. Hypertension 65: 1163-9, 2015
有	論文126	Shimizu M, Hoshide S, Ishikawa J, Yano Y, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Correlation of Central Blood Pressure to Hypertensive Target Organ Damages During Antihypertensive Treatment: The J-TOP Study. Am J Hypertens 28: 980-6, 2015
有	論文127	Hoshide S, Nagai M, Yano Y, Ishikawa J, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Association of high-sensitivity cardiac troponin T and N-terminal pro-brain-type natriuretic peptide with left ventricular structure: J-HOP study. J Clin Hypertens (Greenwich) 16: 354-61, 2014
有	論文128	<u>Kario K</u> , Kuwabara M, Hoshide S, Nagai M, Shimpo M: Effects of nighttime single-dose administration of vasodilating vs sympatholytic antihypertensive agents on sleep blood pressure in hypertensive patients with sleep apnea syndrome. J Clin Hypertens (Greenwich) 16: 459-66, 2014
有	論文129	Hoshide S, <u>Kario K</u> , Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J. J-HOP Study Group. Association of morning and evening blood pressure at home with asymptomatic organ damage in the J-HOP Study. Am J Hypertens 27: 939-47, 2014
有	論文130	Ishikawa J, Shimizu M, Sugiyama Edison E, Yano Y, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> . J-TOP (Japan Morning Surge-Target Organ Protection) Study Investigators Group. Assessment of the reductions in night-time blood pressure and dipping induced by antihypertensive medication using a home blood pressure monitor. J Hypertens 32:82-9, 2014

有	論文131	<u>Kario K.</u> Proposal of a new strategy for ambulatory blood pressure profile-based management of resistant hypertension in the era of renal denervation. Hypertens Res 2013 36: 478-84, 2013
有	論文132	Saito T, Hojo Y, Hirose M, Ikemoto T, Katsuki T, <u>Kario K.</u> High-sensitivity troponin T is a prognostic marker for patients with aortic stenosis after valve replacement surgery. J Cardiol May 61(5): 342-7, 2013

(部門名) 内分泌代謝学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文133	Sekiya M, Yamamuro D, Ohshiro T, Honda A, Takahashi M, Kumagai M, Sakai K, Nagashima S, Tomoda H, Igarashi M, Okazaki H, Yagyu H, Osuga JI, <u>Ishibashi S.</u> Absence of Nceh1 augments 25-hydroxycholesterol-induced ER stress and apoptosis in macrophages. J. Lipid Res 55(10): 2082-2092, 2014
有	*論文134	Sakai K, Igarashi M, Yamamuro D, Ohshiro T, Nagashima S, Takahashi M, Enkhtuvshin B, Sekiya M, Okazaki H, Osuga JI, <u>Ishibashi S.</u> Critical role of neutral cholesterol ester hydrolase 1 in cholesterol ester hydrolysis in murine macrophages. J Lipid Res 55(10): 2033-2040, 2014
有	論文135	Takahashi M, Yagyu H, Tazoe F, Nagashima S, Ohshiro T, Okada K, Osuga J, Goldberg IJ, <u>Ishibashi S.</u> Macrophage lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis but not adiposity. J Lipid Res 54: 1124-1134, 2013
有	論文136	Nagashima S, Yagyu H, Ohashi K, Tazoe F, Takahashi M, Ohshiro T, Bayasgalan T, Okada K, Sekiya M, Osuga J, <u>Ishibashi S.</u> Liver-specific deletion of 3-hydroxy-3-methylglutaryl coenzyme A reductase causes hepatic steatosis and death. Arterioscler Thromb Vasc Biol 32(8): 1824-1831, 2012

(部門名) 腎臓内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文137	Kohara M, Masuda T, Shiizaki K, Akimoto T, Watanabe Y, Honma S, Sekiguchi C, Miyazawa Y, Kusano E, Kanda Y, Asano Y, Kuro-O M, <u>Nagata D:</u> Association between circulating fibroblast growth factor 21 and mortality in end-stage renal disease. PLoS One 12: e0178971, 2017
無	論文138	増田貴博, <u>長田太助</u> , 黒尾誠 : FGF21-β Klotho内分泌系と老化. アンチ・エイジング医学 12: 44-48, 2016
有	論文139	Morishita Y, Yoshizawa H, Watanabe M, Imai R, Imai T, Hirahara I, Akimoto T, Ookawara S, Muto S, <u>Nagata D.</u> MicroRNA expression profiling in peritoneal fibrosis. Transl Res, 2015 [Epub ahead of print]
有	*論文140	Morishita Y, Imai T, Yoshizawa H, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, <u>Nagata D.</u> Delivery of microRNA-146a with polyethylenimine nanoparticles inhibits renal fibrosis in vivo. Int J Nanomedicine 10: 3475-3488, 2015
有	*論文141	Yoshizawa H, Morishita Y, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, Kusano E, <u>Nagata D.</u> TGF-β ₁ -siRNA delivery with nanoparticles inhibits peritoneal fibrosis. Gene Ther 22: 333-340, 2015

有	論文142	Morishita Y, Yoshizawa H, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, Kusano E, <u>Nagata D.</u> siRNAs targeted to Smad4 prevent renal fibrosis in vivo. Sci Rep 4 : 6424, 2014
---	-------	---

(部門名) アレルギー膠原病学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文143	Yamamoto, S., Nagatani, K., Sato, T., Ajima, T., Minota, S.: A Case of Raoultella planticola Bacteremia in a Patient with Early Gastric Cancer. Intern Med. 2017 [Epub ahead of print]
有	論文144	Yamamoto, S., Nagatani, K., Sato, T., Iwamoto, M., Takatori, S., <u>Minota, S.</u> : Unaffected reaction level in tuberculin skin test by long-term therapy with tumor necrosis factor inhibitors for rheumatoid arthritis. Int J Rheum Dis 20:584-588, 2017
有	論文145	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Extensive ecchymosis due to rotator cuff tear. J Rheumatol 44:1875, 2017
有	論文146	Kamata, Y., <u>Minota, S.</u> : Wide difference in biologics usage and expenditure for the treatment of patients with rheumatoid arthritis in each prefecture in Japan analyzed using "National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan". Rheumatol Int. 2017 [Epub ahead of print]
有	論文147	Shima, N., Murosaki, T., Nagashima, T., Iwamoto, M., Amano, Y., Nakano, N., Ohtsuki, M., <u>Minota, S.</u> : Multicentric reticulohistiocytosis with dermatomyositis-like eruptions. Intern Med 56:2063-6, 2017
有	論文148	Nagashima, T., Nakamura, J., Iwamoto, M., <u>Minota, S.</u> : Deep cutaneous ulcers in dermatomyositis. Intern Med 56:1749-50, 2017
有	論文149	Murosaki, T., Nagatani, K., Sato, T., Akiyama, Y., Ushijima, K., Lefor, AK, A., Fujimura, A., <u>Minota, S.</u> : Prediction of the therapeutic response to methotrexate at 24 weeks by methotrexate-polyglutamates concentration in erythrocytes at 8 weeks in patients with rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol 27:411-6, 2017
有	論文150	Murosaki, T., Sato, T., Akiyama, Y., Nagatani, K., <u>Minota, S.</u> : Difference in relapse-rate and clinical phenotype by autoantibody-subtype in Japanese patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Mod Rheumatol 27:95-101,2017
有	論文151	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Umbilical plaque in psoriatic arthritis. Intern Med 56:235-6, 2017
有	論文152	Yoshio, T., Okamoto, H., Kurasawa, K., Dei, Y., Hirohata, S., <u>Minota, S.</u> : IL-6, IL-8, IP-10, MCP-1 and G-CSF are significantly increased in cerebrospinal fluid but not in sera of patients with central neuropsychiatric lupus erythematosus. Lupus 25:997-1003, 2016
有	論文153	Yokota, S., Itoh, Y., Morio, T., Origasa, H., Sumitomo, N., Tomobe, M., Tanaka, K., <u>Minota, S.</u> : Tocilizumab in systemic juvenile idiopathic arthritis in a real-world clinical setting: results from 1 year of postmarketing surveillance follow-up of 417 patients in Japan. Ann Rheum Dis 75:1654-60, 2016
有	論文154	Ueda, N., Ida, H., Washio, M., Miyahara, H., Tokunaga, S., Tanaka, F., Takahashi, H., Kusuhara, K., Ohmura, K., Nakayama, M., Ohara, O., Nishikomori, R., <u>Minota, S.</u> , Takei, S., Fujii, T., Ishigatsubo, Y., Tsukamoto, H., Tahira, T., Horiuchi, T.: Clinical and genetic features of patients with TNFRSF1A variants in Japan: Findings of a nationwide survey. Arthritis Rheumatol 68:2760-71, 2016

有	論文155	Nakamura, J., Nagashima, T., Nagatani, K., Yoshio, T., Iwamoto, M., <u>Minota, S.</u> : Reactivation of hepatitis B virus in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs. <i>Int J Rheum Dis</i> 19:470-5, 2016
有	論文156	Nagashima, T., Obata, H., <u>Minota, S.</u> : Intraorbital granuloma in granulomatosis with polyangiitis. <i>Intern Med</i> 55:1403, 2016
有	論文157	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Autoimmune hemolytic anemia induced by adalimumab. <i>Intern Med</i> 55:715, 2016
有	論文158	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Air bubbles in the knee joint. <i>J Clin Rheumatol</i> 22:94-5, 2016
有	論文159	Miyoshi, F., Honne, K., <u>Minota, S.</u> , Okada, M., Ogawa, N., Mimura, T.: A novel method predicting clinical response using only background clinical data in RA patients before treatment with infliximab. <i>Mod Rheumatol</i> 5:1-4, 2016
有	論文160	Honne, K., Hallgrimsdottir, I., Wu, C., Sebro, R., Jewell, N., Sakurai, T., Iwamoto, M., <u>Minota, S.</u> , Jawaheer, D.: A longitudinal genome-wide association study of anti-tumor necrosis factor response among Japanese patients with rheumatoid arthritis. <i>Arthritis Res Ther</i> 18:12, 2016
有	論文161	Yokota, S., Itoh, Y., Morio, T., Sumitomo, N., Daimaru, K., <u>Minota, S.</u> : Macrophage activation syndrome in patients with systemic juvenile idiopathic arthritis under treatment with tocilizumab. <i>J Rheumatol</i> 42:712-722, 2015
有	論文162	Takeda, K., <u>Minota, S.</u> : Gross hematuria caused by the nutcracker syndrome. <i>Clin Exp Nephrol</i> 19:982-3, 2015
有	論文163	Takeda, K., Sato, T., Norizuki, M., Kamata, Y., Nagatani, K., Alan, Kawarai, Lefor., <u>Minota, S.</u> : Adult Kawasaki-like syndrome with eosinophilia and tenosynovitis in a patient with human immunodeficiency virus infection. <i>Rheumatology</i> 54:1531-2, 2015
有	論文164	Kamata, Y., <u>Minota, S.</u> : No increase in synovial fluid level of matrix metalloproteinase-3 by systemic administration of glucocorticoids in rheumatoid arthritis. <i>Eur J Intern Med</i> 26:371-2, 2015
有	論文165	Ogata, A., Atsumi, T., Fukuda, T., Hirabayashi, Y., Inaba, M., Ishiguro, N., Kai, M., Kawabata, D., Kida, D., Kohsaka, H., Matsumura, R., <u>Minota, S.</u> , Mukai, M., Sumida, T., Takasugi, K., Tamaki, S., Takeuchi, T., Ueda, A., Yamamoto, K., Yamanaka, H., Yoshifuji, H., Nomura, A., MUSASHI Study Investigators.: Sustainable efficacy of switching from intravenous to subcutaneous tocilizumab monotherapy in patients with rheumatoid arthritis: Extension of the MUSASHI study. <i>Arthritis Care Res</i> 67:1354-62, 2015
有	論文166	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Comment on: The efficacy of tacrolimus in patients with interstitial lung diseases complicated with polymyositis or dermatomyositis. <i>Rheumatology</i> 54:1128-9, 2015
有	論文167	Nakamura, J., Nagashima, T., Yoshio, T., <u>Minota, S.</u> : Arthritis mutilans in a patient with juvenile idiopathic arthritis. <i>Intern Med</i> 54:689, 2015
有	論文168	<u>Minota, S.</u> : Comments on the paper showing an exceptionally favorable response to tofacitinib among Japanese rheumatoid patients and an issue surrounding clinical trial led by pharmaceutical company. <i>Mod Rheumatol</i> 25:493-4, 2015
有	論文169	Murosaki, T., Mori, K., Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Hypertrophic Osteoarthropathy with associated esophageal cancer. <i>Intern Med</i> 54:357-8, 2015
有	論文170	Nagashima, T., <u>Minota, S.</u> : Caution is needed when interpreting changes of matrix metalloproteinase-3 in patients with rheumatoid arthritis. <i>Rheumatol Int</i> 34:1025-6, 2014

有	論文171	Murosaki, T., Nagashima, T., Honne, K., Aoki, Y., <u>Minota, S.</u> : Invasive sphenoid sinus aspergillosis mimicking giant cell arteritis. Int J Rheum Dis 17:476-8, 2014
有	論文172	Kamata, Y., <u>Minota, S.</u> : Effects of phosphodiesterase type 5 inhibitors on Raynaud's phenomenon. Rheumatol Int 34:1623-6, 2014
有	論文173	Hanai, S., Sato, T., Nagatani, K., <u>Minota, S.</u> : Pseudogout of the sternoclavicular joints. Intern Med 53:521-2, 2014
有	論文174	Takeda, K., Sato, T., Sugimoto, E., <u>Minota, S.</u> : MRI of spinal ligament enthesitis in a patient with spondyloarthritis. Intern Med 53:2657-8, 2014
有	論文175	Honne, K., Nagashima, T., Onishi, S., Nagatani, K., Iwamoto, M., <u>Minota, S.</u> : Fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for diagnostic imaging in relapsing polychondritis with atypical manifestations. J Clin Rheumatol 19:104-5, 2013
有	論文176	Yoshio, T., Okamoto, H., Hirohata, S., <u>Minota, S.</u> : IgG Anti-NR2 Glutamate receptor autoantibodies from patients with systemic lupus erythematosus activate endothelial cells. Arthritis Rheum 65:457-63, 2013
有	論文177	Nakamura, J., Nagashima, T., Akiyama, Y., <u>Minota, S.</u> : Radiographic Features of Rhus Arthropathy. Intern Med 52:2837, 2013
有	論文178	Nagashima, T., Fukushima, N., <u>Minota, S.</u> : Clinical features of a new disease concept, IgG4-related thyroiditis: comments on the article by Watanabe et al. Scand J Rheumatol 42:510-1, 2013
有	論文179	Maruyama, A., Nagashima, T., Ikenoya, K., Aoki, Y., Matsuyama, Y., Iwamoto, M., <u>Minota, S.</u> : Glucocorticoid-induced Normotensive Scleroderma Renal Crisis: A Report on Two Cases and a Review of the Literature in Japan. Intern Med 52:1833-7, 2013
有	論文180	Nakajima, A., Saito, K., Kojima, T., Amano, K., Yoshio, T., Fukuda, W., Inoue, E., Taniguchi, A., Momohara, S., <u>Minota, S.</u> , Takeuchi, T., Ishiguro, N., Tanaka, Y., Yamanaka, H.: No increased mortality in patients with rheumatoid arthritis treated with biologics: results from the biologics register of six rheumatology institutes in Japan. Mod Rheumatol 23:945-52, 2013
有	論文181	Nagashima, T., Matsumoto, K., Murosaki, T., Okada, M., Iwamoto, M., Makino, S., <u>Minota, S.</u> : Posterior ischemic optic neuropathy in a patient with granulomatosis with polyangiitis (Wegner's). Rheumatol Int 33:1915-6, 2013
有	論文182	Kamata, Y., <u>Minota, S.</u> : Three-pointed star sign of lupus enteritis. Rheumatology 52:1008, 2013

(部門名) 産科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文183	Baba Y, Furuta I, Zhai T, Ohkuchi A, Yamada T, Takahashi K, <u>Matsubara S</u> , Minakami H: The effects of urine creatinine levels during pregnancy on the dipstick test results. J Obstet Gynaecol Res 43:967-973,2017
有	論文184	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Suzuki H, Shirasuna K, <u>Matsubara S</u> : Independent risk factors for a small placenta and a small-for-gestational-age infant at 35-41 weeks of gestation: An association with circulating angiogenesis-related factor levels at 19-31 weeks of gestation. J Obstet Gynaecol Res 43:1285-1292,2017

有	*論文185	Hirashima C, Ohkuchi A, Nagayama S, Suzuki H, Takahashi K, Ogoyama M, Takahashi H, Shirasuna K, <u>Matsubara S</u> : Galectin-1 as a novel risk factor for both gestational hypertension and preeclampsia, specifically its expression at a low level in the second trimester and a high level after onset. <i>Hypertens Res</i> 41:45-52,2018 (doi: 10.1038/hr.2017.85. Epub 2017 Oct 5)
有	論文186	Koyanagi T, Suzuki Y, Komori K, Saga Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H, Sato Y: Targeting human vasohibin-2 by a neutralizing monoclonal antibody for anti-cancer treatment. <i>Cancer Sci</i> 108:512-519,2017
有	論文187	<u>Matsubara S</u> : Identifying the vaginal fornix in cesarean hysterectomy for an abnormally invasive placenta: An alternative technique. <i>Am J Obstet Gynecol</i> 217:493-494,2017
有	論文188	<u>Matsubara S</u> : Asymptomatic uterine rupture detected at cesarean section: Some different viewpoints. <i>Taiwan J Obstet Gynecol</i> 56:870-871,2017
有	論文189	<u>Matsubara S</u> : Aortic balloon occlusion and placenta percreta: Some concerns and clarifications. <i>J Trauma Acute Care Surg</i> 83:1213-1214,2017
有	論文190	<u>Matsubara S</u> : Prophylactic use of Bakri balloon for reduction of hemorrhage at cesarean for placenta previa: Addition and clarification. <i>Arch Gynecol Obstet</i> 296:613-614,2017
有	論文191	<u>Matsubara S</u> : Predelivery uterine artery embolization for placental anomalies: Some clarifications. <i>Radiol Med</i> 123:79-80,2017
有	論文192	<u>Matsubara S</u> : Conservative management of abnormally invasive placenta: An untold factor to consider. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 96:253,2017
有	論文193	<u>Matsubara S</u> : Aortic balloon occlusion: Justifiable for placenta previa without accreta? <i>Taiwan J Obstet Gynecol</i> 56:578-579,2017
有	論文194	<u>Matsubara S</u> : Obstetricians' intra-surgical 'eyes' keep on shining. Re: 'Moving from intra partum to prenatal diagnosis of placenta accreta: A quarter of a century in the making but still a long way to go'. <i>BJOG</i> 124:1287-1288,2017
有	論文195	<u>Matsubara S</u> , Morita T: Letter to "Silent uterine rupture occluded by intestinal adhesions following laparoscopic myomectomy: A case report": Do some remain permanently silent? <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 43:1887-1888,2017
有	論文196	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H: Intentional placental removal on suspicious placenta accreta spectrum: Still prohibited? <i>Arch Gynecol Obstet</i> 297:1-2,2018
有	論文197	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H: Uterine wall resection strategy for abnormally invasive placenta: Extirpative approach for control patients justifiable? <i>Arch Gynecol Obstet</i> 296:1039-1040,2017
有	論文198	<u>Matsubara S</u> , Matsubara D, Nakamura H: Letter to "Novel approach to uterine artery pseudoaneurysm embolization for delayed post-partum hemorrhage": Thrombin really necessary? <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 43:1511,2017
有	論文199	<u>Matsubara S</u> , Matsubara D, Takahashi H: Letter to "Successful treatment of uterine artery pseudoaneurysm with laparoscopic temporary clamping of bilateral uterine arteries, followed by hysteroscopic surgery": Pseudoaneurysm and vascular involution. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 43:1890-1891,2017

有	論文200	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y</u> : Predicting massive transfusion in placenta previa. J Anesthesia 31:642,2017
有	論文201	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y</u> : Handling aberrant vessels located in the posterior bladder wall in surgery for abnormally invasive placenta: A non/less-touch technique. Arch Gynecol Obstet 296:851-853,2017
有	論文202	<u>Matsubara S, Takahashi H, Lefor AK</u> : Intrauterine hemostatic balloon placement: Is less than 12-hours really better? Am J Obstet Gynecol 216:537-538, 2017
有	論文203	<u>Matsubara S, Takahashi H, Lefor AK</u> : The “morbidly adherent placenta” team: Recognition and respect are needed. Am J Obstet Gynecol 217:101-102,2017
有	論文204	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y</u> : Letter to “Uterine artery pseudoaneurysm bleeding one decade after caesarean section: A case report”: Pseudoaneurysm anywhere and anytime. J Obstet Gynaecol Res 43:1660-1661,2017
有	論文205	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y</u> : Prophylactic uterine artery embolization in mid-trimester pregnancy termination for placenta previa: Required for all patients? Cardiovasc Intervent Radiol 40:474–475,2017
有	論文206	<u>Matsubara S, Takahashi H, Matsubara D</u> : Sclerotherapy for placenta accreta: Some concerns. Taiwan J Obstet Gynecol 56:270,2017
有	論文207	<u>Matsubara S, Takahashi H, Suzuki T</u> : Retained placenta accreta with marked vascularity, uterine artery pseudoaneurysm, and placental polyp: Overlapping clinical entities? Arch Gynecol Obstet 297:269-270,2018
有	論文208	<u>Matsubara S, Takahashi H, Matsubara D, Ohkuchi A</u> : Re: “Peripartum hysterectomy: an economic analysis of direct healthcare costs using routinely collected data”: Some concerns from obstetricians’ viewpoint. BJOG (in press)
有	論文209	<u>Matsubara S, Takahashi H, Matsubara D, Baba Y</u> : Delivery or previous cesarean? A comment on "Antepartum hemorrhage from previous-cesarean-sectioned uterus as a potential sign of uterine artery pseudoaneurysm". J Zhejiang Univ-Sci B (Biomed & Biotechnol) 18:723-724,2017
有	論文210	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y, Lefor AK</u> : Re: Intrauterine balloon tamponade for management of severe postpartum haemorrhage in a perinatal network: a prospective cohort study: Exclusion criteria? BJOG 124:1792-1793,2017
有	論文211	<u>Matsubara S, Takahashi H, Matsubara D, Ohkuchi A</u> : Timing of surgery for placenta previa with suspected abnormally invasive placentation: A test of team competency? Acta Obstet Gynecol Scand 96:1029,2017
有	論文212	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y, Lefor AK</u> : Aortic balloon occlusion for placenta previa accreta: Surgical details are important. CardioVasc Intervent Radiol 40:478–479,2017
有	論文213	<u>Matsubara S, Takahashi H, Baba Y, Nakamura H</u> : The drier the surgical field, the better? Letter to the Editor on the article “Clinical evaluation of balloon occlusion of the lower abdominal aorta in patients with placenta previa and previous cesarean section: a retrospective study on 43 cases.” Int J Surg 39:148-149,2017
有	論文214	<u>Matsubara S, Matsubara D, Takahashi H, Lefor AK</u> : Re: Serious maternal complications in relation to severe pre - eclampsia: a retrospective cohort study of the impact of hospital volume; Severe maternal morbidity requires regionalisation of obstetric critical care; Guilt, blame and litigation: can an overenthusiastic ‘safety culture’ cause harm? BJOG 124:1621-1622,2017

有	論文215	<u>Matsubara S</u> , Nagayama S, Narumi R, Usui R, Suzuki T: Hysterectomy for cesarean scar pregnancy: No or minimal bladder separation technique. Acta Obstet Gynecol Scand 96:898-899,2017
有	論文216	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Arai-Saruyama M, Otachi H, Tada K: Uneventful vaginal delivery after spontaneous resolution of uterine artery pseudoaneurysm. Acta Obstet Gynecol Scand 96:128-129,2017
有	論文217	Ogoyama M, Takahashi H, Kobayashi Y, Usui R, <u>Matsubara S</u> : Ritodrine-induced rhabdomyolysis, infantile myotonic dystrophy, and then maternal myotonic dystrophy unveiled. J Obstet Gynaecol Res 43:403-407,2017
有	論文218	Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> : Prediction and prevention of hypertensive disorders of pregnancy. Hypertens Res 40:5-14,2017
有	論文219	Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> :. Response to Dr Sabour: 'Prediction and prevention of hypertensive disorders of pregnancy: a methodological mistake'. Hypertens Res 40:791,2017
有	論文220	Seno K, Sase S, Ozeki A, Takahashi H, Ohkuchi A, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Iwata H, Kuwayama T, Shirasuna K: Advanced glycation end products regulate interleukin-1 β production in human placenta. J Reprod Dev 63:401-408,2017
有	論文221	Suzuki H, Ohkuchi A, Baba Y, Hirashima C, Usui R, <u>Matsubara S</u> : Video images: How to insert a Bakri balloon and how to hold the cervix. Hypertens Res Pregnancy 4:108-110,2016
有	論文222	Tagawa M, Matsuda Y, Manaka T, Kobayashi, Ohwada M, <u>Matsubara S</u> : An Exploratory Analysis of the Textual Data from the Mother and Child Handbook Using a Text Mining Method (II): The Monthly Changes in the Words Recorded by Mothers. J Obstet Gynaecol Res 43:100-105,2017
有	論文223	Takahashi H, Matsubara T, Makino S, Horie K, <u>Matsubara S</u> : Color vision abnormality as the sole manifestation of posterior reversible encephalopathy due to postpartum HELLP (hemolysis, elevated liver enzymes, and low platelets) syndrome. J Obstet Gynaecol Res 43:592-594,2017
有	論文224	Takahashi H, Ohkuchi A, Usui R, Suzuki H, Baba Y, <u>Matsubara S</u> : Matsubara-Takahashi cervix-holding technique for massive postpartum hemorrhage in patients with placenta previa with or without placenta accreta spectrum disorders. Int J Gynaecol Obstet 140:357-364, 2018
有	論文225	Takahashi H, Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Baba Y, Suzuki H, Kyi TTC, <u>Matsubara S</u> , Saito S, Takizawa T: Endogenous and exogenous miR-520c-3p modulates CD44-mediated extravillous trophoblast invasion. Placenta 50:25-31,2017
有	論文226	Takeda S, Takeda J, Murakami K, Kubo T, Hamada H, Murakami M, Makino S, Itoh H, Ohba T, Naruse K, Tanaka H, Kanayama N, <u>Matsubara S</u> , Sameshima H, Ikeda T: Annual Report of the Perinatology Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2015: Proposal of urgent measures to reduce maternal deaths. J Obstet Gynaecol Res 43:5-7,2017
有	論文227	Takei Y, Takahashi Y, Machida S, Taneichi A, Takahashi S, Nagashima T, Morisawa H, Saga Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H: Response to and toxicity of gemcitabine for recurrent ovarian cancer according to number of previous chemotherapy regimens. J Obstet Gynaecol Res 43:358-364,2017

有	論文228	Schaap T, Bloemenkamp K, Deneux-Tharoux C, Knight M, Langhoff-Roos J, Sullivan E, van den Akker T, INOSS: (Rigouzzo A, Kristufkova A, Creanga A, Koopman A, Gemert V, Tapper AM, Dijkman A, Kwee A, Franx A, Veersema B, Nemethova B, Seelbach-Göbel B, Bateman B, Daelemans C, Zelop C, Andersson C, Nagata C, Farquhar C, Huisman C, von Kaisenberg C, Henriquez D, Ellwood D, Moolenaar D, Tuffnell D, Kuklina E, Main E, Woods E, Stekkinger E, Gollo E, Goffinet F, Kainer F, Mantel G, Stralen G, Kayem G, Duvekot H, Franz HG, Engjom H, Beenackers I, Al-Zirqi I, Danis J, Berlac F, Kurinczuk J, Langhof-Roos J, Zwart J, Roosmalen J, Klungsoer K, Lust K, Vetter K, Calsteren K, Roelens K, Krebs L, Colmorn B, MacKillop L, Tanaka M, Rijken M, Bonnet MP, Boer M, Jokinen M, Belfort M, Peek M, Gisler M, Foley M, Tikkanen M, Korbel M, Dugatova M, Laubach M, Schuitemaker N, Engel N, McDonnell N, Emonts P, Rozenberg P, Hillemanns P, Rauskolb R, Takeda S, Donati S, Ferrazzani S, <u>Matsubara S</u> , Saito S, Jesudason S, Satoh S, Vangen S, Clark S, Koenen S, Grüßner S, Miyashita S, Fischer T, Todros T, Todros T, Harskamp V, Mijatovic V, Basevi V, Pollock W, Callaghan W, Parsonage W, Henrich W, Schyns X, Fujita Y, Matsuda Y, Garnier Y, Dominica Z.) Defining definitions: a Delphi study to develop a core outcome set for conditions of severe maternal morbidity. BJOG. 2017 Jul 29. doi: 10.1111/1471-0528.14833. [Epub ahead of print]
有	論文229	<u>Matsubara S</u> , Ohki S, Lefor AK: A hidden, but possibly significant, cause of secondary postpartum hemorrhage: Uterine artery pseudoaneurysm. J Obstet Gynaecol Res 42:905,2016
有	論文230	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Misawa Y, Lefor AK: Letter to "Post-partum hemoperitoneum: Do not miss false aneurysm as a cause of bleeding." Extrauterine pseudoaneurysm. J Obstet Gynaecol Res 42:752,2016
有	論文231	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Ohkuchi A, Lefor AK: Insertion of the Bakri balloon: The earlier, the better? Aust N Z J Obstet Gynaecol 56:117,2016
有	論文232	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Takei Y, Lefor AK: Re: Caesarean hysterectomy for placenta praevia/accreta using an approach via the pouch of Douglas. BJOG 123:1404-1405,2016
有	論文233	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Takei Y, Lefor AK: Re: Abnormally invasive placenta - prevalence, risk factors and antenatal suspicion: results from a large population-based pregnancy cohort study in the Nordic countries. BJOG 123:1031-1032, 2016
有	論文234	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H. Pseudoaneurysm hidden behind secondary postpartum hemorrhage. Birth 43:184-185,2016
有	論文235	Shirasuna K, Shimamura N, Seno K, Ohtsu A, Shiratsuki S, Ohkuchi A, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Nagayama S, Iwata H, Kuwayama T: Moderate hypoxia down-regulates interleukin-6 secretion and TLR4 expression in human Sw.71 placental cells. Cell Physiol Biochem 36:2149-2160,2015
有	論文236	Yamada T, Abe K, Baba Y, Inubashiri E, Kawabata K, Kubo T, Maegawa Y, Fuchi N, Nomizo M, Shimada M, Shiozaki A, Hamada H, <u>Matsubara S</u> , Akutagawa N, Kataoka S, Maeda M, Masuzaki H, Sagawa N, Nakai A, Saito S, Minakami H: Vaccination during the 2013 - 2014 influenza season in pregnant Japanese women. Eur J Clin Microbiol Infect Dis 34:543-548,2015
有	論文237	Yamada T, Kawakami S, Yoshida Y, Kawamura H, Ohta S, Abe K, Hamada H, Dohi S, Ichizuka K, Takita H, Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Mochizuki J, Unno N, Maegawa Y, Maeda M, Inubashiri E, Akutagawa N, Kubo T, Shiota T, Oda Y, Yamada T, Yamagishi E, Nakai A, Fuchi N, Masuzaki H, Urabe S, Kudo Y, Nomizo M, Sagawa N, Maeda T, Mamitomo M, Kawabata K, Kataoka S, Shiozaki A, Saito S, Sekizawa A, Hisanori M: Influenza 2014 – 2015 among pregnant Japanese women: primiparous vs. multiparous women. Eur J Clin Microbiol Infect Dis 35:665-671,2016

有	論文238	Yamada T, Mochizuki J, Hanaoka M, Hashimoto E, Ohkuchi A, Ito M, Kubo T, Nakai A, Saito S, Unno N, <u>Matsubara S</u> , Minakami H: Effects of campaign for postpartum vaccination on seronegative rate against rubella among Japanese women. BMC Infect Dis 14:152,2014
有	論文239	Nagayama S, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi K, Suzuki H, Hirashima C, Sakata A, Nishimura S, Takahashi M, <u>Matsubara S</u> : The frequency of peripheral blood CD4+FoxP3+ regulatory T cells in women with pre-eclampsia and those with high-risk factors for pre-eclampsia. Hypertens Pregnancy 34:443-455,2015
有	論文240	Iwashita A, Baba Y, Usui R, Ohkuchi A, Muto S, <u>Matsubara S</u> : Respiratory arrest in an obese pregnant woman with hyperemesis gravidarum. Case Rep Obstet Gynecol 2015;ID 278391
有	論文241	<u>Matsubara S</u> : Re: The prevention and treatment of postpartum haemorrhage: what do we know, and where do we go to next?: The treatment of postpartum haemorrhage: holding the intrauterine balloon 'there'. BJOG 122:1846-1846,2015
有	論文242	<u>Matsubara S</u> : On-site hemostatic suturing for placenta previa: Concerns and clarifications. Arch Gynecol Obstet 293:223-224,2016
有	論文243	<u>Matsubara S</u> : Re: The Hayman uterine compression suture. B-Lynch suture: How to coin a concept in medicine. BJOG 122:1715-1716,2015
有	論文244	Takahashi Y, Saga Y, Koyanagi T, Takei Y, Machida S, Taneichi A, Mizukami H, Sato Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H: The angiogenesis regulator vasohibin-1 inhibits ovarian cancer growth and peritoneal dissemination and prolongs host survival. Int J Oncol 47:2057-2063,2015
有	論文245	<u>Matsubara S</u> , Fujiwara H, Ohkuchi A, Takahashi H, Lefor AK: Surgical management of abnormally invasive placenta: Is decreased blood loss due to participation of gynecologic oncologists? Acta Obstet Gynecol Scand 95:119,2016
有	論文246	Nagayama S, Ohkuchi A, Usui R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: The role of the father in the occurrence of preeclampsia. Med J Obstet Gynecol 2:1029,2014
有	論文247	Imai K, Ohkuchi A, Nagayama S, Saito S, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Pancytopenia in the first trimester: an indicator of hidden hyperthyroidism. J Obstet Gynaecol Res 41:1991-1994,2015.
有	論文248	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Baba Y, Usui R, Igarashi T, Lefor AK: Intra-abdominal adhesions: Vaginal or abdominal delivery? Arch Gynecol Obstet 292:953-954,2015
有	論文249	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Lefor AK: Comments on "Alternate sequential suture tightening: a novel technique for uncontrolled postpartum hemorrhage". Obstet Gynecol Intern Volume 2015: ID 279513, 3 pages, 2015
有	論文250	Morisawa H, Makino S, Takahashi H, Sorita M, <u>Matsubara S</u> : Retinal detachment at hemolysis, elevated liver enzymes, and low platelet count (HELLP) syndrome: Color vision abnormality as the first and predominant manifestation. J Obstet Gynaecol Res. 41:1835-1838,2015
有	論文251	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Ohkuchi A. Need for systematic classification of various uterine compression sutures. J Obstet Gynaecol Res 41:1676,2015
有	論文252	Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Shirasuna K, Suzuki H, Ariga H, Kobayashi M, Hirose N, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: A trio of risk factors for the onset of preeclampsia in the second and early third trimesters. Pregnancy Hypertens 4:224-230,2014

有	論文253	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Baba Y, Usui R: Inserting Bakri balloon during cesarean section in patients with narrow cervix: Nelaton method (Matsubara). Acta Obstet Gynecol Scand 94:1147-1148,2015
有	論文254	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Lefor AK: A commentary on “A new removable uterine compression by a brace suture in the management of severe postpartum hemorrhage”. Front Surg 2:17,2015
有	論文255	Matsuda Y, Ogawa M, Nakai A, Hayashi m, Satoh S, <u>Matsubara S</u> : Fetal/Placental weight ratio in term Japanese pregnancy: Its difference among gender, parity, and infant growth. Int J Med Sci 12:301-305,2015
有	論文256	Ishida Y, Zhao D, Ohkuchi A, Kuwata T, Yoshitake H, Yuge K, Takizawa T, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M, Saito S, Takizawa T. Maternal peripheral blood natural killer cells placenta-associated microRNAs during pregnancy. Int J Mol Med 35:1511-1524,2015
有	論文257	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> : Authors' reply: No vaginal bleeding does not indicate no bleeding: Still valid for Bakri balloon and also for "holding the cervix". Acta Obstet Gynecol Scand 94:557,2015
有	論文258	<u>Matsubara S</u> :. Re: removable uterine compression sutures for postpartum haemorrhage: Two questions. BJOG 122:755-756,2015
有	論文259	Eguchi K, Ohmaru T, Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, Kario K, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Ambulatory BP monitoring and clinic BP in predicting small-for-gestational-age infants during pregnancy. J Hum Hypertens 30:62-67,2016
有	論文260	Ishikawa T, Takizawa T, Iwaki J, Mishima T, Ui-Tei K, Takeshita T, <u>Matsubara S</u> , Takizawa T: Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. Int J Mol Med 35:1273-1289,2015.
有	論文261	<u>Matsubara S</u> , Lefor AT, Ohkuchi A: Purse-string double-layer closure for cesarean incision (Turan technique): Some concerns. J Obstet Gynaecol Res. 41:828-829,2015
有	論文262	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> : Intrauterine hypo-echoic mass cephalad to cesarean scar pregnancy. Acta Obstet Gynecol Scand. 94:670-671,2015
有	論文263	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Suzuki H, Kimura M, Takahashi H, Fujiwara H: Cesarean hysterectomy: Amputation-first technique (Matsubara). Acta Obstet Gynecol Scand 94:552-553,2015
有	論文264	<u>Matsubara S</u> , Baba Y: Transverse uterine fundal incision for placenta praevia with accreta: Concern regarding its 'overuse'. BJOG 122:448,2015
有	論文265	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Takahashi H: Preventing Bakri balloon from sliding out during "holding the cervix": "fishing for the balloon shaft" technique (Matsubara). Acta Obstet Gynecol Scand 94:910-911,2015
有	論文266	<u>Matsubara S</u> , Baba Y: Uterine artery pseudoaneurysm after non-traumatic vaginal delivery as a cause of postpartum hemorrhage: Determination of its mechanism is urgently needed. Acta Obstet Gynecol Scand 94:788-789,2015
有	論文267	Matsumoto M, Koike S, <u>Matsubara S</u> , Kashima S, Ide H, Yasunaga H: Selection and concentration of obstetric facilities in Japan: A longitudinal study based on national census data. J Obstet Gynaecol Res 41:919-25,2015
有	論文268	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Kobayashi M, Ohkuchi A: Drainage failure of Bakri balloon: No drainage does not indicate no bleeding. Acta Obstet Gynecol Scand. 94:336,2015
有	論文269	<u>Matsubara S</u> : A stepwise cesarean section for placenta percreta: Effective only for “separable” placenta percreta? Arch Gynecol Obstet 291:243-244,2015

有	論文270	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Takahashi H, Kimura Y: Diagnosis of placental mesenchymal dysplasia: Magnetic resonance imaging or color Doppler? J Obstet Gynaecol Res 41:488,2015
有	論文271	Kambe S, Yoshitake H, Yuge K, Ishida Y, Ali MM, Takizawa T, Kuwata T, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M, Takeshita T, Saito S, Takizawa T. Human exosomal placenta-associated miR-517a-3p 1modulates the expression of PRKG1 mRNA in Jurkat cells. Biol Reprod 91:129,2014
有	論文272	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Kamesaki T, Ishikawa S, Nakamura Y, Matsumoto M: Clinical Research Support Team (CRST)-Jichi. Supporting rural remote physicians to conduct a study and write a paper: Experience of Clinical Research Support Team (CRST)-Jichi. Rural Remote Health 14:2883,2014
有	論文273	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Ohkuchi A: Cesarean incision in case of placenta previa: Does the transplacental approach cause fetal anemia? Acta Obstet Gynecol Scand 94:226-227,2015
有	論文274	<u>Matsubara S</u> : Perimortem cesarean section: Three possible procedures to overcome atonic bleeding after successful resuscitation. Acta Obstet Gynecol Scand 94:121,2015
有	論文275	Baba Y, Ohkuchi A, Usui R, Suzuki H, Kuwata T, <u>Matsubara S</u> : Calculating probability of requiring allogeneic blood transfusion using three preoperative risk factors on cesarean section for placenta previa. Arch Gynecol Obstet 291:281-285,2015
有	論文276	<u>Matsubara S</u> : Cervical tourniquet for anterior placenta previa: Clarification and concern. J Obstet Gynaecol Res. 40:2086-2087,2014
有	論文277	Takahashi H, Baba Y, <u>Matsubara S</u> : Brain damage of surviving co-twin following single fetal death in monochorionic diamniotic twin pregnancy at 8-9 weeks gestation. Acta Obstet Gynecol Scand 93:1336,2014
有	論文278	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Ohkuchi A: Is anterior placentation per se a risk for cesarean section-related morbidity in placenta previa? J Perinatol. 34:649-649,2014
有	論文279	<u>Matsubara S</u> : Uterine fundal pressure: Is it really a culprit of poor maternal and neonatal outcome? J Obstet Gynaecol Res 40:1956-1956,2014
有	論文280	<u>Matsubara S</u> : New prophylaxis methods for adverse events of uterine compression sutures: Removing compression threads. Acta Obstet Gynecol Scand 93:1069-1070,2014
有	論文281	<u>Matsubara S</u> : An easy insertion procedure of Bakri balloon during cesarean section for placenta previa: Use of Nelaton rubber catheter. Arch Gynecol Obstet 290:613-614,2014
有	論文282	Takahashi H, Yuge K, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Suzuki M, Takizawa T: Differential expression of ADAM (a Disintegrin and Metalloproteinase) genes between human first trimester villous and extravillous trophoblast cells. J Nippon Med Sch.
有	論文283	Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Uchida S, Ohkuchi A: Ovary hyperstimulation syndrome accompanying molar pregnancy: Case report and review of the literature. Arch Gynecol Obstet 290:803-806,2014
有	論文284	<u>Matsubara S</u> : Placenta percreta: Multidisciplinary team may not be enough. Aust N Z J Obstet Gynaecol 54:291,2014
有	論文285	Takahashi K, Ohkuchi A, Furukawa R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Establishing measurements of subcutaneous and visceral fat area ratio in the early second trimester by magnetic resonance imaging in obese pregnant women. J Obstet Gynaecol Res 40:1304-1307,2014

有	論文286	Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Usui R, Kuwata T, Suzuki H, Takahashi H, Suzuki M. Anterior placentation as a risk factor for massive hemorrhage during cesarean section in patients with placenta previa. J Obstet Gynaecol Res 40:1243-1248,2014.
有	論文287	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Nonaka H, Ito H, Lefor AK: Prolapse of the small intestine from the uterine perforation at dilatation and curettage. Case Rep Obstet Gynecol. 2014:164356,2014
有	論文288	<u>Matsubara S</u> : Some clarification and concerns regarding a novel VV uterine compression suture. J Obstet Gynaecol Res 40:1165-1166,2014
有	論文289	Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Ohkuchi A, Usui R, Saruyama M, Nakata M, Suzuki M: Uterine artery pseudoaneurysm: Not a rare condition occurring after non-traumatic delivery or non-traumatic abortion. Arch Gynecol Obstet 290:435-440,2014
有	論文290	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Saito K, Bando M: Good obstetric outcome after embolization of pulmonary arteriovenous malformation in hereditary hemorrhagic telangiectasia: planned pregnancy may be important also in this condition. Aus N Z J Obstet Gynaecol 54:191-
有	論文291	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: A novel three-step approach for predicting the imminent onset of preeclampsia within 4 weeks after blood sampling at 19-31 weeks of gestation. Hypertens Res 37:519-25,2014
有	論文292	<u>Matsubara S</u> , Takahashi Y, Kawai A. Uterine artery pseudoaneurysm manifesting at the time of evacuation for abortion: pseudoaneurysm without preceding events. Acta Obstet Gynecol Scand 93:723-724,2014
有	論文293	<u>Matsubara S</u> : Ureteral catheter is useful to prevent ureteral injuries not only for gynecologic surgery but also for cesarean hysterectomy for placenta previa accreta: the obstetrician's opinion. Urologia 81:187-188,2014
有	論文294	<u>Matsubara S</u> , Nonaka H, Kobayashi M, Kawai A, Fujii H: Uterine artery pseudoaneurysm after dilatation and curettage in a woman with multiple hepatic and pulmonary cavernous hemangiomas. Int J Gynaecol Obstet 125:84-85,2014
有	論文295	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Baba Y, Usui R, Suzuki H, Takahashi H, Ohkuchi A, Suzuki M: A novel "uterine sandwich" for haemorrhage at caesarean section for placenta praevia. Aust N Z J Obstet Gynaecol 54:283-286,2014
有	論文296	Takahashi H, Takizawa T, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Matsumoto H, Sato Y, Fujiwara H, Okamoto A, Suzuki M, Takizawa T: Extravillous trophoblast cell invasion is promoted by the CD44-hyaluronic acid interaction. Placenta 35:163-170,2014
有	論文297	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Saruyama M, Usui R, Ohkuchi A, Takizawa T, Suzuki M: Changes in expression of VEGF-D related genes in placental mesenchymal dysplasia. J Obstet Gynaecol Res 40:1145-1149,2014
有	論文298	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Ohkuchi A, Mukoda Y, Saito K, Usui R, Suzuki M: Maternal manifestation of Ballantyne's syndrome occurring concomitantly with the development of fetal congenital mesoblastic nephroma. J Obstet Gynaecol Res 40:1114-
有	論文299	<u>Matsubara S</u> : Uterine necrosis after B-Lynch suture in classical caesarean section. Aust NZ J Obstet Gynaecol 53:595-596,2013
有	論文300	Yamada T, Kubo T, Mochizuki J, Hashimoto E, Ohkuchi A, Ito M, Hanaoka M, Nakai A, Saito S, Unno N, <u>Matsubara S</u> , Minakami H: Immune status among Japanese during nationwide rubella outbreak in Japan 2012-2013. J Immunol 68:300-302,2014
有	論文301	<u>Matsubara S</u> , Kobayashi M, Baba Y, Usui R: Uterine artery pseudoaneurysm rupture as a culprit of postpartum hemorrhage: not always after cesarean section. J Emerg Med 46:e97-98,2014
有	論文302	Kuwata T, Takahashi H, <u>Matsubara S</u> : 'stained glass' sign for placental mesenchymal dysplasia. Ultrasound Obstet Gynecol 43:355,2014

有	論文303	<u>Matsubara S</u> : Combination of an intrauterine balloon and the “holding the cervix” technique for hemostasis of postpartum hemorrhage and for prophylaxis of acute recurrent uterine inversion. Acta Obstet Gynecol Scand 93:314-315,2014
有	論文304	<u>Matsubara S</u> , Nakata M, Baba Y, Suzuki H, Nakamura H, Suzuki M: Uterine artery pseudoaneurysm hidden behind septic abortion: pseudoaneurysm without preceding procedure. J Obstet Gynaecol Res 40:586-589,2014
有	論文305	Horie K, Suzuki H, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> , Ikemoto T, Suzuki M: Thrombus just beneath a retrievable IVC filter in a pregnant woman with deep vein thrombosis: its removal requiring catheter thrombus fragmentation with fibrinolysis. J Obstet Gynaecol Res 40:590-594,2014
有	論文306	<u>Matsubara S</u> : An untold factor that may influence the rate of cesarean section. Acta Obstet Gynecol Scand 93:218-218,2014
有	論文307	<u>Matsubara S</u> : Uterine compression suture: not yet complete. Aust NZ J Obstet Gynaecol 53:505-506,2013
有	論文308	Takahashi K, Ohkuchi A, Suzuki H, Usui R, Kuwata T, Shirasuna K, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Biophysical interaction between blood pressure and uterine artery Doppler for the occurrence of early-onset preeclampsia: A prospective cohort study. Pregnancy Hypertension 3:270-277,2013
有	論文309	Ando H, <u>Matsubara S</u> , Oi A, Usui R, Suzuki M, Fujimura A: Two nursing mothers treated with zonisamide: should breastfeeding be avoided? J Obstet Gynaecol Res 40:275-278,2014
有	論文310	Suzuki H, Kuwata T, Ohkuchi A, Yada Y, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Maternal perception of decreased fetal movement in one twin: a clue leading to the early detection of absent variability due to acute twin-to-twin transfusion syndrome. Case Rep Obstet Gynecol 2013;345808,2013
有	論文311	Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Onset threshold of the plasma levels of soluble fms-like tyrosine kinase 1/placental growth factor ratio for predicting the imminent onset of preeclampsia within 4 weeks after blood sampling at 19-31 weeks of gestation. Hypertens Res. 36:1073-1080,2013
有	論文312	<u>Matsubara S</u> : Reply: Cesarean hysterectomy for placenta previa accreta; extrapolating measures may have merits for ordinary obstetricians. Acta Obstet Gynecol Scand 92:1431-1432,2013
有	論文313	<u>Matsubara S</u> : Practical consideration of inserting intrauterine balloon during cesarean section for placenta previa. Acta Obstet Gynecol Scand 93:120-121,2014
有	論文314	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Suzuki H, Matsuda Y, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Additive effects of mean blood pressure and bilateral notching in the second trimester on subsequent angiogenesis-related factors. Hypertens Res 37:76-81,2014
有	論文315	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Usui Rie, Ohkuchi A: Uterine artery pseudoaneurysm: A master of deception. Arch Gynecol Obstet 289:469-70,2014
有	論文316	<u>Matsubara S</u> : Reply to Ngene et al. (2013): Uterotonic agents should be avoided during cesarean hysterectomy for placenta previa accreta until evidence is forthcoming. Acta Obstet Gynecol Scand 92:1339-1339,2013
有	論文317	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Fukui S: Fetal movement count may prevent fetal death as early as 26 weeks. Acta Obstet Gynecol Scand 92:1426-1426,2013

有	論文318	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Suzuki H, Suzuki H, Nagashima T, Suzuki M: Uterine compression suture combined with holding the cervix technique: A measure to achieve hemostasis for atonic bleeding during or after cesarean section. Acta Obstet Gynecol Scand 92:1234-1235,2013
有	論文319	<u>Matsubara S</u> , Yano H, Kuwata T, Usui R, Ohkuchi A: Is it time to classify various uterine compression suture techniques? Arch Gynecol Obstet 288:1195-6,2013
有	論文320	<u>Matsubara S</u> , Usui R, Sato T, Kuwata T, Ohkuchi A, Nakata M. Adenomyomectomy, curettage, and then uterine artery pseudoaneurysm occupying the entire uterine cavity. J Obstet Gynaecol Res 39:1103-1106,2013
有	論文321	Yanagisawa S, Maeda K, Tazuke Y, Tsuji Y, Kubota I, Koike Y, Yada Y, Kono Y, Takahashi N, <u>Matsubara S</u> : Do neonates conceived after assisted reproductive technology require neonatal surgery more frequently? A 5-year-long single-center experience. J Obstet Gynaecol Res 39:974-978,2013
有	論文322	<u>Matsubara S</u> , Yano H, Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Suzuki M: Uterine compression suture for postpartum hemorrhage: An overview. Acta Obstet Gynecol Scand 92:378-385,2013
有	論文323	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Usui R, Watanabe T, Izumi A, Ohkuchi A, Suzuki M, Nakata M: Important surgical measures and techniques at cesarean hysterectomy for placenta previa accreta. Acta Obstet Gynecol Scand 92:372-377,2013
有	論文324	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Usui R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Prediction of early-onset preeclampsia using angiogenesis-related factors. Med J Obstet Gynecol 2:1025,2014
有	論文325	Hirose N, Ohkuchi A, Usui R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Risk of preeclampsia in women with CKD, dialysis or kidney transplantation. Med J Obstet Gynecol 2:1028,2014
有	論文326	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Yoshida T, Usui R, Ohkuchi A: Uterine compression suture for cesarean hysterectomy: possible applications to conditions other than atonic bleeding. J Clin Case Rep. 4:5,2014
有	論文327	Minakami H, Maeda T, Fujii T, Hamada H, Iitsuka Y, Itakura A, Itoh H, Iwashita T, Kanagawa T, Kanai M, Kasuga Y, Kawabata M, Kobayashi K, Kotani T, Kudo Y, Makino Y, <u>Matsubara S</u> , Matsuda H, Miura K, Murakoshi T, Murotsuki J, Ohkuchi A, Ohno Y, Ohshiba Y, Satoh S, Sekizawa A, Sugiura M, Suzuki S, Takahashi T, Tsukahara Y, Unno N, Yoshikawa H: Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and (JAOG) 2014 edition. J Obstet Gynaecol Res 40:1469-1499,2014
有	論文328	Ohkuchi A, Takahashi K, Hirashima C, Usui R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Prediction of early-onset preeclampsia using uterine artery Doppler. Med J Obstet Gynecol 2:1026,2014
有	論文329	Ohmaru T, Ohkuchi A, Muto S, Hirashima C, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Increased antiangiogenic factors in severe proteinuria without hypertension in pregnancy: is kidney biopsy necessary? CEN Case Rep 3:86-89,2014
有	論文330	Suzuki H, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi H, Usui R, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Animal model of preeclampsia: Insight into possible biomarker candidates for predicting preeclampsia. Med J Obstet Gynecol 2:1031,2014
有	論文331	Takahashi H, Ohkuchi A, Usui R, Takizawa T, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Importance of chromosome 19 miRNA cluster in pregnancy. Med J Obstet Gynecol 2:1032,2014
有	論文332	Takahashi K, Ohkuchi A, Kobayashi M, <u>Matsubara S</u> , Suzuki M: Recurrence risk of hypertensive disease in pregnancy. Med J Obstet Gynecol 2:1023,2014

(部門名) 眼科学

査読の有無	通し番号	
有	*論文333	Sakamoto S, <u>Takahashi H</u> , Inoue Y, Arai Y, Inoda S, Kakinuma N, Fujino Y, Tanabe T, Kawashima H, Yanagi Y: Intravitreal Aflibercept for Exudative Age-Related Macular Degeneration with Good Visual Acuity: 2-Year Results of a Prospective Study. Clin Ophthalmol. 2018 in press
有	論文334	Sakamoto S, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Inoue Y, Nomura Y, Arai Y, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Changes in Multiple Cytokine Concentrations in the Aqueous Humor of Neovascular Age-related Macular Degeneration after Two Months of Ranibizumab Therapy. Br J Ophthalmol 102: 448-445, 2018
有	*論文335	<u>Takahashi H</u> , Inoue Y, Tan X, Inoda S, Sakamoto S, Arai Y, Yanagi Y, Fujino Y, Kawashima H: Visual acuity loss associated with excessive “dry macula” in exudative age-related macular degeneration. Clin Ophthalmol in press 2018
有	論文336	Yamashiro K, Mori K, Honda S, Kano M, Yanagi Y, Obana A, Sakurada Y, Sato T, Nagai Y, Hikichi T, Kataoka Y, Hara C, Koyama Y, Koizumi H, Yoshikawa M, Miyake M, Nakata I, Tsuchihashi T, Horie-Inoue K, Matsumiya W, Ogasawara M, Obata R, Yoneyama S, Matsumoto H, Ohnaka M, Kitamei H, Sayanagi K, Ooto S, Tamura H, Oishi A, Kabasawa S, Ueyama K, Miki A, Kondo N, Bessho H, Saito M, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Azuma K, Kikushima W, Mukai R, Ohira A, Gomi F, Miyata K, Takahashi K, Kishi S, Iijima H, Sekiryu T, Iida T, Awata T, Inoue S, Yamada R, Matsuda F, Tsujikawa A, Negi A, Yoneya S, Iwata T, Yoshimura N: A prospective multicenter study on genome wide associations to ranibizumab treatment outcome for age-related macular degeneration. Sci Rep 7: 9196, 2017
有	論文337	Shimizu K, Hashimoto Y, Azuma K, Nomura Y, Obata R, <u>Takahashi H</u> , Yanagi Y: Changes of outer retinal microstructures after photodynamic therapy for chronic central serous chorioretinopathy. Clin Ophthalmol 11: 1505-1512, 2017
有	論文338	<u>Takahashi H</u> , Tampo H, Arai Y, Inoue Y, Kawashima H: Applying artificial intelligence to disease staging: Deep learning for improved staging of diabetic retinopathy. PLoS One 12: e0179790, 2017
有	論文339	<u>Takahashi H</u> , Nakagawa S, Wu Y, Kawabata Y, Numabe A, Yanagi Y, Tamaki Y, Uehara Y, Araie M: A High-salt Diet Enhances Leukocyte Adhesion in Association with Kidney Injury in Young Dahl Salt-sensitive Rats. Hypertens Res 40: 912-920, 2017
有	*論文340	Tsubota Y, <u>Takahashi H</u> , Sugisaki K, Tanabe T, Fujino Y: Effective Intravitreal Injections of Bevacizumab in a Case of Serous Macular Detachment from the Superior Border of Posterior Staphyloma. Case Rep Ophthalmol 8: 49-54, 2017
有	*論文341	Soeta M, Arai Y, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Tanabe T, Inoue Y, Kawashima H: Novel Preretinal Hair Pin-Like Vessel in Retinal Astrocytic Hamartoma with Vitreous Hemorrhage. Retin Cases Brief Rep Aug 6, 2016 [Epub ahead of print]
有	論文342	Azuma K, Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Obata R, Yanagi Y: Angiographic findings of ranibizumab-resistant polypoidal choroidal vasculopathy after switching to a treat and extend regimen with intravitreal aflibercept. Retina 36: 2158-2165, 2016
有	論文343	<u>Takahashi H</u> , Nomura Y, Nishida J, Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H: Vascular endothelial growth factor (VEGF) concentration is underestimated by enzyme-linked immunosorbent assay in the presence of anti-VEGF drugs. Invest Ophthalmol Vis Sci in press 2016

有	論文344	Wu Y, Nakagawa S, <u>Takahashi H</u> , Kawabata Y, Suzuki E, Uehara Y: The Angiotensin II Receptor Antagonist, Losartan, Enhances Regulator of G Protein Signaling 2 mRNA Expression in Vascular Smooth Muscle Cells of Wistar Rat. Hypertens Res advance online publication 14 January 2016
有	論文345	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Association between aqueous humor C-X-C motif chemokine ligand 13 levels and subfoveal choroidal thickness in normal older subjects. Retina 36:192-198, 2016
有	論文346	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Effect of posterior vitreous detachment on aqueous humor level of vascular endothelial growth factor in exudative age-related macular degeneration patients. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 254:53-57, 2016
有	論文347	Wu Y, <u>Takahashi H</u> , Suzuki E, Kruzliak P, Soucek M, Uehara Y: Impaired response of regulator of Gαq signaling-2 mRNA to angiotensin II and hypertensive renal injury in Dahlsalt-sensitive rats. Hypertens Res advance online publication 26 November 2015
有	*論文348	Sakamoto S, Arai Y, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Obata R, Yanagi Y, Kawashima H: Two Cases of Rapid Thinning of the Choroid Prior to Appearance of Polypoid Lesions. JSM Ophthalmology 3:1033, 2015
有	論文349	<u>Takahashi H</u> , Nomura Y, Tan X, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Effects of posterior vitreous detachment on aqueous humour levels of VEGF and inflammatory cytokines. Br J Ophthalmol 99:1065-1069, 2015
有	*論文350	<u>Takahashi H</u> , Ohkubo Y, Sato A, Takezawa M, Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H: RELATIONSHIP BETWEEN VISUAL PROGNOSIS AND DELAY OF INTRAVITREAL INJECTION OF RANIBIZUMAB WHEN TREATING AGE-RELATED MACULAR DEGENERATION. Retina 35:1331-1338, 2015
有	論文351	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Obata R, Yanagi Y: Widespread choroidal thickening and abnormal midperipheral fundus autofluorescence characterize exudative age-related macular degeneration with choroidal vascular hyperpermeability. Clin Ophthalmol 9:297-304, 2015
有	*論文352	Tan X, <u>Takahashi H</u> , Nishida J, Aoki A, Inoue T, Yanagi Y: Excessive retinol intake exacerbates choroidal neovascularization through upregulated vascular endothelial growth factor in retinal pigment epithelium in mice. Exp Eye Res 131:77-83, 2015
有	論文353	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Fujimura S, Obata R, Yanagi Y: Effects of vitreomacular adhesion on ranibizumab treatment in Japanese patients with age-related macular degeneration. Jpn J Ophthalmol 58:443-447, 2014
有	論文354	<u>Takahashi H</u> , Hayashi T, Tsuneoka H, Nakano T, Yamada H, Katagiri S, Fujino Y, Noda Y, Yoshimoto M, Kawashima H: Occult macular dystrophy with bilateral chronic subfoveal serous retinal detachment associated with a novel RPIL1 mutation (p.S1199P). Doc Ophthalmol 129:49-56, 2014
有	論文355	Yamamoto K, <u>Takahashi H</u> , Kanno M, Noda Y, Fujino Y: Changes in parafoveal retinal thickness and subfoveal choroidal thickness in a patient with dengue fever-associated maculopathy. J Ophthalmic Inflamm Infect 3:63, 2013
有	論文356	Fujimura S, Ueta T, <u>Takahashi H</u> , Obata R, Smith RT, Yanagi Y: Characteristics of fundus autofluorescence and drusen in the fellow eyes of Japanese patients with exudative age-related macular degeneration. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 251:1-9, 2013
有	論文357	Obata R, <u>Takahashi H</u> , Ueta T, Yuda K, Kure K, Yanagi Y: Tomographic and angiographic characteristics of eyes with macular focal choroidal excavation. Retina 33:1201-1210, 2013

査読の有無	通し番号	
有	*論文358	Sumitani M, Kondo M, Kasashima K, <u>Endo H</u> , Nakamura K, Misawa T, Tanaka H, and Sezutsu H: Characterization of Bombyx mori mitochondrial transcription factor A, a conserved regulator of mitochondrial DNA. Gene, 608:103–113, 2017.
有	*論文359	Mashiko T, Sakashita E, Kasashima K, Tominaga K, Kuroiwa K, Nozaki Y, Matsuura T, Hamamoto T, and <u>Endo H</u> : Developmentally regulated RNA-binding protein 1 (Drb1)/RNA-binding motif protein 45 (RBM45), a nuclear-cytoplasmic trafficking protein, forms TAR DNA-binding protein 43 (TDP-43)-mediated cytoplasmic aggregates. J Biol Chem. 291: 14996-15007, 2016.
有	*論文360	Kasashima K. and <u>Endo H</u> : Interaction of human TFAM in mitochondria: its involvement in the dynamics of mitochondrial DNA nucleoids. Genes to Cells, 20:1017–1027, 2015.
有	*論文361	Yamamoto S, Nagao Y, Kuroiwa K, Hakamata Y, Ichida M, Saito-Ohara F, Tominaga K, and <u>Endo H</u> : Rapid selection of XO embryonic stem cells using Y chromosome-linked GFP transgenic mice. Transgenic Res. 23:757–765, 2014.
有	*論文362	Kasashima K, Nagao Y, and <u>Endo H</u> : Dynamic regulation of mitochondrial genome maintenance in germ cells. Reprod Med Biol, 13 (1), 11-20, 2014.
有	*論文363	Tucker E J, Wanschers BFJ, Szklarczyk R, Mountford HS, Wijeyeratne X W, van den Brand MAM, Leenders AM, Rodenburg RJ, Reljic B, Compton AG, Frazier AE, Bruno D L, Christodoulou J, <u>Endo H</u> , Ryan MT, Nijtmans LG, Huynen MA, and Thorburn DR: Mutations in the UQCC1-Interacting Protein, UQCC2, Cause Human Complex III Deficiency Associated with Perturbed Cytochrome b Protein Expression. PLoS genetics, 9(12), e1004034, 2013.
有	*論文364	Akimoto C, Sakashita E, Kasashima K, Kuroiwa K, Tominaga K, Hamamoto T, and <u>Endo H</u> : Translational repression of the McKusick-Kaufman syndrome transcript by unique upstream open reading frames encoding mitochondrial proteins with alternative polyadenylation sites. Biochem Biophys Acta. 1830: 2728-2738, 2013
有	*論文365	Tetsuka S, Tominaga K, Ohta E, Kuroiwa K, Sakashita E, Kasashima K, Hamamoto T, Namekawa M, Morita M, Natsui S, Morita T, Tanaka K, Takiyama Y, Nakano I, and <u>Endo H</u> : Paraneoplastic cerebellar degeneration associated with an onconeural antibody against creatine kinase, brain-type. J Neurol Sci. 335: 48-57, 2013
有	*論文366	川西康太郎、森田光哉、中原圭一、手塚修一、幸喜富、富永薫、遠藤仁司、屋代隆、田中恵子、中野今治。抗神経抗体が存在が確認できた膀胱癌を伴う傍腫瘍小脳変性症の1例。Brain and Nerve, 65 (11): 1401-1405, 2013

(部門名) 構造生化学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文367	Miyamoto Y, Torii T, <u>Tago K</u> , Tanoue A, Takashima S, Yamauchi J. BIG1/Arfgef1 and Arf1 regulate the initiation of myelination by Schwann cells in mice. Science Adv. 4: eaar4471 (2018) (Accepted: Feb 20)

有	論文368	Uchihara Y, Kidokoro T, <u>Tago K</u> , Mashino T, Tamura H, Funakoshi-Tago M. A major component of vitamin E, α -tocopherol inhibits the anti-tumor activity of crizotinib against cells transformed by EML4-ALK. Eur J Pharmacol. 825: 1-9. (2018)
有	*論文369	<u>Tago K</u> , Ohta S, Kashiwada M, Funakoshi-Tago M, Matsugi J, Tominaga SI, Yanagisawa K. ST2 gene products critically contribute to cellular transformation caused by an oncogenic Ras mutant. Heliyon. 2017 Oct 31;3(10):e00436.
有	論文370	Uchihara Y, Ueda F, <u>Tago K</u> , Nakazawa Y, Ohe T, Mashino T, Yokota S, Kasahara T, Tamura H, Funakoshi-Tago M. Alpha-tocopherol attenuates the anti-tumor activity of crizotinib against cells transformed by NPM-ALK. PLoS One. 2017 Aug 14;12(8):e0183003.
有	論文371	Maki C, Funakoshi-Tago M, Aoyagi R, Ueda F, Kimura M, Kobata K, <u>Tago K</u> , Tamura H. Coffee extract inhibits adipogenesis in 3T3-L1 preadipocytes by interrupting insulin signaling through the downregulation of IRS1. PLoS One. 2017 Mar 10;12(3):e0173264.
有	*論文372	<u>Tago K</u> , Ohta S, Funakoshi-Tago M, Aoki-Ohmura C, Matsugi J, Tominaga SI, Yanagisawa K. STAT3 and ERK pathways are involved in cell growth stimulation of the ST2/IL1RL1 promoter. FEBS Open Bio. 2017 Jan 19;7(2):293-302.
有	論文373	Sugiyama K, <u>Tago K</u> , Matsushita S, Nishikawa M, Sato K, Muto Y, Nagase T, Ueda H. Heterotrimeric G protein G α s subunit attenuates PLEKHG2, a Rho family-specific guanine nucleotide exchange factor, by direct interaction. Cell Signal. 2017 Apr;32:115-123.
有	論文374	Funakoshi-Tago M, Moriwaki T, Ueda F, Tamura H, Kasahara T, <u>Tago K</u> . Phosphorylated CIS suppresses the Epo or JAK2 V617F mutant-triggered cell proliferation through binding to EpoR. Cell Signal. 2017 Feb;31:41-57.
有	論文375	Ueda F, <u>Tago K</u> , Tamura H, Funakoshi-Tago M. Three Tyrosine Residues in the Erythropoietin Receptor Are Essential for Janus Kinase 2 V617F Mutant-induced Tumorigenesis. J Biol Chem. 2017 Feb 3;292(5):1826-1846.
有	論文376	Funakoshi-Tago M, Miyagawa Y, Ueda F, Mashino T, Moriwaki Y, <u>Tago K</u> , Kasahara T, Tamura H. A bis-malonic acid fullerene derivative significantly suppressed IL-33-induced IL-6 expression by inhibiting NF- κ B activation. Int Immunopharmacol. 2016 Nov;40:254-264.
有	*論文377	Ohta S, <u>Tago K</u> , Funakoshi-Tago M, Matsugi J, Yanagisawa K. Intracellular NF-HEV/IL-33 harbors essential roles in Ras-induced cellular transformation by contributing to cyclin D1 protein synthesis. Cell Signal. 2016 Aug;28(8):1025-36.
有	*論文378	多胡 憲治、多胡めぐみ ” がん抑制遺伝子産物ARFの新しい標的タンパク質DDX5” 生化学 2016年4月、88(2) 207-210
有	論文379	Funakoshi-Tago M, Hattori T, Ueda F, <u>Tago K</u> , Ohe T, Mashino T and Tamura H. A proline type fullerene derivative inhibits adipogenesis through preventing PPAR γ activation. Biochem. Biophys. Rep. (In press)
有	*論文380	Tominaga SI, Ohta S, <u>Tago K</u> . Soluble form of the ST2 gene product exhibits growth promoting activity in NIH-3T3 cells. Biochem. Biophys. Rep. (In press)
有	論文381	Funakoshi-Tago M, Okamoto K, Izumi R, <u>Tago K</u> , Yanagisawa K, Narukawa Y, Kiuchi F, Kasahara T, Tamura H. Anti-inflammatory activity of flavonoids in Nepalese propolis is attributed to inhibition of the IL-33 signaling pathway. Int Immunopharmacol. 25 (1): 189-198. (2015)

有	*論文382	Tago K, Funakoshi-Tago M, Itoh H, Furukawa Y, Kikuchi J, Kato T, Suzuki K, Yanagisawa K. Arf tumor suppressor disrupts the oncogenic positive feedback loop including c-Myc and DDX5. <i>Oncogene</i> . 34 (3):314-322. (2015)
有	*論文383	Tominaga S, <u>Tago K</u> , Tsuda H, Komine M. Dual function of IL-33 on proliferation of NIH-3T3 cells. <i>Cytokine</i> , 72 (1):105-108. (2015)
有	論文384	Torii T, Miyamoto Y, <u>Tago K</u> , Sango K, Nakamura K, Sanbe A, Tanoue A, Yamauchi J. Arf6 guanine nucleotide exchange factor cytohesin-2 binds to CCDC120 and is transported along neurites to mediate neurite growth. <i>J. Biol Chem</i> , 289 (49):33887-33903. (2014)
有	論文385	Funakoshi-Tago M, Tsukada M, Watanabe T, Mameda Y, <u>Tago K</u> , Ohe T, Nakamura S, Mashino T, Kasahara T. Effect of chemical modification on the ability of pyrrolidinium fullerene to induce apoptosis of cells transformed by JAK2 V617F mutant. <i>Int Immunopharmacol</i> . 20 (1): 258-263. (2014)
有	論文386	Ueda F, Sumi K, <u>Tago K</u> , Kasahara T, Funakoshi-Tago M. Critical role of FANCC in JAK2 V617F mutant-induced resistance to DNA cross-linking drugs. <i>Cell Signal</i> . 25 (11): 2115-2124. (2013)

(部門名) 統合病理学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文387	Amano Y, Matsubara D, Yoshimoto T, Tamura T, Nishino H, Mori Y, Niki T. Expression of protein arginine methyltransferase-5 in oral squamous cell carcinoma and its significance in epithelial-to-mesenchymal transition. <i>Pathol Int</i> . 2018 Mar 30. doi: 10.1111/pin.12666.
有	*論文388	Matsubara D, Soda M, Yoshimoto T, Amano Y, Sakuma Y, Yamato A, Ueno T, Kojima S, Shibano T, Hosono Y, Kawazu M, Yamashita Y, Endo S, Hagiwara K, Fukayama M, Takahashi T, Mano H, <u>Niki T</u> . Inactivating mutations and hypermethylation of the NKX2-1/TTF-1 gene in non-terminal respiratory unit-type lung adenocarcinomas. <i>Cancer Sci</i> . 108:1888-1896, 2017. doi: 10.1111/cas.13313.
有	論文389	Nakano T, Kanai Y, Amano Y, Yoshimoto T, Matsubara D, Shibano T, Tamura T, Oguni S, Katashiba S, Ito T, Murakami Y, Fukayama M, Murakami T, Endo S, <u>Niki T</u> . Establishment of highly metastatic KRAS mutant lung cancer cell sublines in long-term three-dimensional low attachment cultures. <i>PLoS One</i> . 2017;12:e0181342. doi: 10.1371/journal.pone.0181342. eCollection 2017.
有	論文390	Yamaguchi M, Hirai S, Tanaka Y, Sumi T, Miyajima M, Mishina T, Yamada G, Otsuka M, Hasegawa T, Kojima T, <u>Niki T</u> , Watanabe A, Takahashi H, Sakuma Y. Fibroblastic foci, covered with alveolar epithelia exhibiting epithelial-mesenchymal transition, destroy alveolar septa by disrupting blood flow in idiopathic pulmonary fibrosis. <i>Lab Invest</i> . 97:232-242, 2017.
有	論文391	Ito T, Matsubara D, Tanaka I, Makiya K, Tanei ZI, Kumagai Y, Shiu SJ, Nakaoka HJ, Ishikawa S, Isagawa T, Morikawa T, Shinozaki-Ushiku A, Goto Y, Nakano T, Tsuchiya T, Tsubochi H, Komura D, Aburatani H, Dobashi Y, Nakajima J, Endo S, Fukayama M, Sekido Y, <u>Niki T</u> , Murakami Y. Loss of YAP1 defines neuroendocrine differentiation of lung tumors. <i>Cancer Sci</i> 107:1527-1538, 2016.

有	論文392	Ui T, Morishima K, Saito S, Sakuma Y, Fujii H, Hosoya Y, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Yasuda Y. The Hsp 90 inhibitor, 17-N-allylamino-17-demethoxy geldanamycin (17-AAG) synergizes with cisplatin and induces apoptosis in cisplatin-resistant esophageal squamous cell carcinoma cell lines via the Akt/XIAP pathway. <i>Oncol Rep</i> 2014;31: 619-624.
有	*論文393	Ibrahim R, Matsubara D, Osman W, Morikawa T, Goto A, Morita S, Ishikawa S, Aburatani H, Takai D, Nakajima J, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Murakami Y. Expression of PRMT5 in lung adenocarcinoma and its significance in epithelial mesenchymal transition. <i>Hum Pathol</i> 45:1397-1405, 2014
有	論文394	Saito S, Morishima K, Ui T, Matsubara D, Tamura T, Oguni S, Hosoya Y, Sata N, Lefor AT, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . Stromal fibroblasts are predictors of disease-related mortality in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Oncol Rep</i> 32:348-54, 2014
有	論文395	Matsubara D, Kishaba Y, Yoshimoto T, Sakuma Y, Sakatani T, Tamura T, Endo S, Sugiyama Y, Murakami Y, <u>Niki T</u> . Immunohistochemical analysis of the expression of E-cadherin and ZEB1 in non-small cell lung cancer. <i>Pathol Int</i> 64:560-568, 2014
有	論文396	Saito S, Morishima K, Ui T, Hoshino H, Matsubara D, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, Hosoya Y, Sata N, Lefor AK, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . The role of HGF/MET and FGF/FGFR in fibroblast-derived growth stimulation and lapatinib-resistance of esophageal squamous cell carcinoma. <i>BMC Cancer</i> 2015 Feb 25;15:82. doi: 10.1186/s12885-015-1065-8.
有	*論文397	Yoshimoto T, Matsubara D, Nakano T, Tamura T, Endo S, Sugiyama Y, <u>Niki T</u> . Frequent loss of the expression of multiple subunits of the SWI/SNF complex in large cell carcinoma and pleomorphic carcinoma of the lung. <i>Pathol Int</i> 65:595-602, 2015
有	論文398	Sakuma Y, Nishikiori H, Hirai S, Yamaguchi M, Yamada G, Watanabe A, Hasegawa T, Kojima T, <u>Niki T</u> , Takahashi H. Prolyl isomerase Pin1 promotes survival in EGFR-mutant lung adenocarcinoma cells with an epithelial-mesenchymal transition phenotype. <i>Lab Invest</i> 96:391-398, 2016.

(部門名) 婦人科学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文399	Koyanagi T, Suzuki Y, Komori K, Saga Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H, Sato Y: Targeting human vasohibin-2 by a neutralizing monoclonal antibody for anti-cancer treatment. <i>Cancer Sci</i> 108: 512-519, 2017.
有	*論文400	Takahashi Y, Saga Y, Koyanagi T, Takei Y, Machida S, Taneichi A, Mizukami H, Sato Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H: Vasohibin-1 expression inhibits advancement of ovarian cancer producing various angiogenic factors. <i>Cancer Sci</i> 107: 629-637, 2016.
有	*論文401	Takahashi Y, Saga Y, Koyanagi T, Takei Y, Machida S, Taneichi A, Mizukami H, Sato Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H: The angiogenesis regulator vasohibin-1 inhibits ovarian cancer growth and peritoneal dissemination and prolongs host survival. <i>Int J Oncol</i> 47: 2057-2063, 2015.

有	*論文402	Koyanagi T, Suzuki Y, Saga Y, Machida S, Takei Y, Fujiwara H, <u>Suzuki M</u> , Sato Y: In vivo delivery of siRNA targeting vasohibin-2 decreases tumor angiogenesis and suppresses tumor growth in ovarian cancer. <i>Cancer Sci</i> 104: 1705-1710, 2013.
---	--------	---

(部門名) 消化器内科学部門

査読の有無	通し番号	
	論文403	矢野智則、坂本博次、小林泰俊、永山学、東條浩子、宮原晶子、関谷万里子、砂田圭二郎、 <u>山本博徳</u> ; クローン病小腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術. <i>日本消化器内視鏡学会雑誌</i> . Vol. 60, No. 5, 2018 in press
有	論文404	Sunada K, Shinozaki S, Nagayama M, Yano T, Takezawa T, Ino Y, Sakamoto H, Miura Y, Hayashi Y, Sato H, Lefor AK, <u>Yamamoto H</u> : Long-term Outcomes in Patients with Small Intestinal Strictures Secondary to Crohn's Disease After Double-balloon Endoscopy-assisted Balloon Dilation. <i>Inflamm Bowel Dis</i> . 22: 380-6, 2016.
有	論文405	Sakamoto H, Asahara T, Chonan O, Yuki N, Mutoh H, Hayashi S, <u>Yamamoto H</u> , Sugano K: Comparative analysis of gastrointestinal microbiota between normal and Cdx2 transgenic mice. <i>Intestinal Research</i> 13: 39-49, 2015
有	論文406	Sakamoto H, Mutoh H, Miura Y, Sashikawa M, <u>Yamamoto H</u> , Sugano K: SOX9 Is Highly Expressed in Nonampullary Duodenal Adenoma and Adenocarcinoma in Humans. <i>Gut Liver</i> 7: 513-518, 2015
有	論文407	Hayashi Y, <u>Yamamoto H</u> , Yano T, Kitamura A, Takezawa T, Ino Y, Sakamoto H, Miura Y, Shinhata H, Sato H, Sunada K, Sugano K: A calibrated, small-caliber tip, transparent hood to aid endoscopic balloon dilation of intestinal strictures in Crohn's disease: successful use of prototype. <i>Endoscopy</i> 45 Suppl 2: E373-4, 2013

(部門名) 幹細胞制御研究部

査読の有無	通し番号	
有	*論文408	Kikuchi, J., Kuroda, Y., Koyama, D., Osada, N., Izumi, T., Yasui, H., Ichinohe, T. and <u>Furukawa, Y.</u> : Myeloma Cells Are Activated in Bone Marrow Microenvironment by the CD180/MD-1 Complex which Senses Lipopolysaccharide. Cancer Res. , published online on January 23, 2018.
有	*論文409	Kikuchi, J., Kuroda, Y., Koyama, D. and <u>Furukawa, Y.</u> : Cell Adhesion-induced Phosphorylation and Inactivation of EZH2 Confer Drug Resistance to Acute Myeloid Leukemia Cells. Int. J. Hematol. 107: 383-385, 2018.
有	論文410	Osada, N., Kikuchi, J., Umehara, T., Sato, S., Urabe, M., Abe, T., Hayashi, N., Sugitani, M., Hanazono, Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : Lysine-specific Demethylase 1 Inhibitors Prevent Teratoma Development from Human induced Pluripotent Stem Cells. Oncotarget 9: 6450-6462, 2018.

有	論文411	Takahashi, K., Inukai, T., Imamura, T., Yano, M., Tomoyasu, C., Lucas, D.M., Nemoto, A., Sato, H., Huang, M., Abe, M., Kagami, K., Shinohara, T., Watanabe, A., Somazu, S., Oshiro, H., Akahane, K., Goi, K., Kikuchi, J., <u>Furukawa, Y.</u> , Goto, H., Minegishi, M., Iwamoto, S. and Sugita, K.: Anti-leukemic Activity of Bortezomib and Carfilzomib on B-cell Precursor ALL Cell Lines. PLoS One 12: e0188680, 2017.
有	*論文412	Kikuchi, J., Koyama, D., Wada, T., Izumi, T., Hofgaard, P.O., Bogen, B. and <u>Furukawa, Y.</u> : Phosphorylation-mediated EZH2 Inactivation Promotes Drug Resistance in Multiple Myeloma J. Clin. Invest. 125: 4375-4390, 2015.
有	論文413	Wada, T., Koyama, D., Kikuchi, J., Honda, H. and <u>Furukawa, Y.</u> : Overexpression of the Shortest Isoform of Histone Demethylase LSD1 Primes Hematopoietic Stem Cells for Malignant Transformation. Blood 125: 3731-3746, 2015.
有	論文414	Tago, K., Funakoshi-Tago, M., Itoh, H., <u>Furukawa, Y.</u> , Kikuchi, J., Kato, T., Suzuki, K. and Yanagisawa, K.: Arf Tumor Suppressor Disrupts the Oncogenic Positive Feedback Loop Including c-Myc and DDX5. Oncogene 34: 310-318, 2015.
有	論文415	Nemoto, A., Saida, S., Kato, I., Kikuchi, J., <u>Furukawa, Y.</u> , Maeda, Y., Akahane, K., Honna-Oshiro, H., Goi, K., Kagami, K., Kimura, S., Sato, Y., Okabe, S., Niwa, A., Watanabe, K., Nakahata, T., Heike, T., Sugita, K. and Inukai, T.: Specific Anti-leukemic Activity of PD0332991, a CDK4/6 inhibitor, against Philadelphia Chromosome-positive Lymphoid Leukemia Mol. Cancer Ther. 15: 94-105, 2016.
有	論文416	Koyama, D., Sato, Y., Aizawa, M., Maki, T., Kurosawa, M., Kuro-o, M. and <u>Furukawa, Y.</u> : Soluble α Klotho as a Candidate for the Biomarker of Aging. Biochem. Biophys. Res. Commun. 467: 1019-1025, 2015.
有	論文417	Koyama, D., Kikuchi, J., Hiraoka, N., Wada, T., Kurosawa, H., Chiba, S. and <u>Furukawa, Y.</u> : Proteasome Inhibitors Exert Cytotoxicity and Increase Chemosensitivity via Transcriptional Repression of Notch1 in T-cell Acute Lymphoblastic Leukemia. Leukemia 28: 1216-1226, 2014.
有	論文418	Hiraoka, N., Kikuchi, J., Yamauchi, T., Koyama, D., Wada, T., Uesawa, M., Akutsu, M., Mori, S., Nakamura, Y., Ueda, T., Kano, Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : Purine Analog-like Properties of Bendamustine Underlie Rapid Activation of DNA Damage Response and Synergic Effects with Pyrimidine Analogues in Lymphoid Malignancies. PLoS One 9: e90675, 2014.
有	*論文419	Kikuchi, J., Koyama, D., Mukai, H.Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : Suitable Drug Combination with Bortezomib for Multiple Myeloma under Stroma-free Conditions and in Contact with Fibronectin or Bone Marrow Stroma. Int. J. Hematol. 99: 726-736, 2014.
有	論文420	Sripayap, P., Nagai, T., Hatano, K., Kikuchi, J., <u>Furukawa, Y.</u> and Ozawa, K.: Romidepsin Overcomes Cell Adhesion-mediated Drug Resistance in Multiple Myeloma Cells. Acta Haematol. 132: 1-4, 2014.
有	論文421	Kikuchi, J., Yamada, S., Koyama, D., Wada, T., Nobuyoshi, M., Izumi, T., Akutsu, M., Kano, Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : The Novel Orally Active Proteasome Inhibitor K-7174 Exerts Anti-myeloma Activity <i>in Vitro</i> and <i>in Vivo</i> by Down-regulating the Expression of Class I Histone Deacetylases. J. Biol. Chem. 288: 25593-25602, 2013.
有	論文422	Kikuchi, J., Shibayama, N., Yamada, S., Wada, T., Nobuyoshi, M., Izumi, T., Akutsu, M., Kano, Y., Sugiyama, K., Ohki, M., Park, S.-Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : Homopiperazine Derivatives as a Novel Class of Proteasome Inhibitors with a Unique Mode of Proteasome Binding. PLoS One 8: e60649, 2013.

有	論文423	Kuroda, I., Inukai, T., Zhang, X., Kikuchi, J., <u>Furukawa, Y.</u> , Nemoto, A., Akahane, K., Hirose, K., Honna-Ooshiro, H., Goi, K., Kagami, K., Yagita, H., Tauchi, T., Maeda, Y. and Sugita, K.: BCR-ABL Regulates Death Receptor Expression for TNF-related Apoptosis-inducing Ligand (TRAIL) in Philadelphia Chromosome-positive Leukemia. Oncogene 32: 1670-1681, 2013.
有	論文424	Hiraoka, N., Kikuchi, J., Koyama, D., Wada, T., Mori, S., Nakamura, Y. and <u>Furukawa, Y.</u> : Alkylating Agents Induce Histone H3K18 Hyperacetylation and Potentiate HDAC Inhibitor-mediated Global Histone Acetylation and Cytotoxicity in Mantle Cell Lymphoma. Blood Cancer J. 3: e169, 2013.

(部門名) 細胞生物研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文425	Sugimoto H, Ikeda K, <u>Kawakami K.</u> <i>Atp1a3</i> deficient heterozygous mice show lower rank in the hierarchy and altered social behavior. <i>Genes Brain Behav.</i> in press, 2018
有	論文426	Unekawa M, Ikeda K, Tomita Y, <u>Kawakami K.</u> , Suzuki N. Enhanced susceptibility to cortical spreading depression in two types of Na ⁺ , K ⁺ -ATPase α 2 subunit-deficient mice as a model of familial hemiplegic migraine 2. <i>Cephalalgia</i> , in press, 2018
有	論文427	Onimaru H, Nakamura S, Ikeda K, <u>Kawakami K.</u> , Inoue T. Confocal calcium imaging analysis of respiratory-related burst activity in the parafacial region. <i>Brain Res. Bull.</i> in press, 2018
有	論文428	Sato S, Go S, Kiyonari H, Furuta Y, <u>Kawakami K.</u> Regulation of continuous but complex expression pattern of Six1 during early sensory development. <i>Developmental Dynamics</i> , 247, 250-261, 2018
有	論文429	Nagoya K, Ikeda K, Onimaru H, Yoshida A, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Sato F, <u>Kawakami K.</u> , Takahashi K, Inoue, T. Distinctive features of Phox2b-expressing neurons in the rat reticular formation dorsal to the trigeminal motor nucleus. <i>Neuroscience</i> , 358, 211-226, 2017
有	論文430	Ikeda K, Onimaru H, <u>Kawakami K.</u> Knockout of sodium pump α 3 subunit gene (<i>Atp1a3</i> ^{-/-}) results in perinatal seizure and defective respiratory rhythm generation. <i>Brain Res.</i> 1666, 27-37, 2017
有	論文431	Tani M, Kotani S, Hayakawa C, Lin S-T, Irie S, Ikeda K, <u>Kawakami K.</u> and Onimaru, H. Effects of a TRPV1 agonist capsaicin on respiratory rhythm generation in brainstem spinal cord preparation from newborn rats. <i>Pflugers Arch.</i> 469, 327-338, 2017
有	論文432	Ikeda K, <u>Kawakami K.</u> , Okada Y, Yokota S, Koshiya N, Oku Y, Iizuka M, Koizumi, H, Onimaru, H. The respiratory control mechanisms in the brainstem and spinal cord: Integrative views of the neuroanatomy and neurophysiology. <i>J. Physiol. Sci.</i> 67, 45-62, 2017
有	論文433	Yajima H, <u>Kawakami K.</u> Low Six4 and Six5 gene dosage improves dystrophic phenotype and prolongs life span of mdx mice. <i>Dev. Growth Differ.</i> 58, 546-561, 2016
有	*論文434	Kawasaki T, Takahashi M, Yajima H, Mori Y and <u>Kawakami K.</u> : Six1 is required for mouse dental follicle cell and human periodontal ligament-derived adult stem cell proliferation. <i>Dev. Growth Diff.</i> 58, 530-545, 2016

有	論文435	Sato S, Yajima H, Furuta Y, Ikeda K and <u>Kawakami K</u> : Activation of Six1 expression in vertebrate sensory neurons. PLoS One, 10, e0136666, 2015
有	論文436	Ikeda K, Takahashi M, Sato S, Igarashi H, Ishizuka T, Yawo H, Arata S, Southard-Smith E M, <u>Kawakami K</u> and Onimaru H: A Phox2b BAC transgenic rat line useful for understanding respiratory rhythm generator neural circuitry. PLoS One, 10, e0132475, 2015
有	論文437	Tani M, Yazawa I, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> , and Onimaru H: Long-lasting facilitation of respiratory rhythm by treatment with TRPA1 agonist, cinnamaldehyde, J. Neurophys. 114, 989-98, 2015
有	論文438	Tsuzawa K, Yazawa I, Shakuo T, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> and Onimaru H: Effects of ouabain on respiratory rhythm generation in brainstem-spinal cord preparation from newborn rats and in decerebrate and arterially perfused in situ preparation from juvenile rats. Neuroscience, 286, 404-411, 2015
有	論文439	Sugimoto H, Ikeda K and <u>Kawakami K</u> : Heterozygous mice deficient in Atp1a3 exhibit motor deficits by chronic restraint stress. Behavioural Brain Res. 272, 100-110, 2014
有	論文440	Yajima H, Suzuki M, Ochi H, Ikeda K, Sato S, Yamamura K, Ogino H, Ueno N, <u>Kawakami K</u> : Six1 is a key regulator of the developmental and evolutionary architecture of sensory neurons in craniates. BMC Biology, 12:40, 2014
有	論文441	Onimaru H, Ikeda K, Mariho T and <u>Kawakami K</u> : Cytoarchitecture and CO2 sensitivity of Phox2b-positive parafacial neurons in the newborn rat medulla. Prog Brain Res. 209, 57-71, 2014
有	論文442	Ono K, Kita T, Sato S, O'Neill P, Mark S S, Paschaki M, Ito M, Gotoh N, <u>Kawakami K</u> , Sasai Y and Ladher R K: FGFR1-Frs2/3 signalling maintains sensory progenitors during inner ear hair cell formation. PLoS Genet. 10: e1004118, 2014
有	論文443	Fujimoto Y, Tanaka S S, Yamaguchi Y L Kobayashi H, Kuroki S, Tachibana M, Shinomura M, Kanai Y, Morohashi K, <u>Kawakami K</u> and Nishinakamura R: Homeoproteins Six1 and Six4 regulate male sex determination and mouse gonadal development. Dev. Cell, 26, 416-430, 2013
有	論文444	Ikeda K, Satake S, Onaka T, Sugimoto H, Takeda N, Imoto K and <u>Kawakami K</u> : Enhanced inhibitory neurotransmission in the cerebellar cortex of Atp1a3-deficient heterozygous mice. J. Physiol, 591, 3433-3449, 2013

(部門名) 再生医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文445	Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Enosawa S, Umeyama K, Uchikura A, Yashima S, Fukuda T, Klymiuk N, Kurome M, Kessler B, Wuensch A, Zakhartchenko V, Wolf E, <u>Hanazono Y</u> , Nagaya M, Umezawa A, Nakauchi H, Nagashima H. Modeling lethal X-linked genetic disorders in pigs with ensured fertility. Proc Natl Acad Sci USA. 2018 Jan 8. doi: 10.1073/pnas.1715940115

有	論文446	Hara H, Shibata H, Nakano K, Abe T, Uosaki H, Ohnuki T, Hishikawa S, Kunita S, Watanabe M, Nureki O, Nagashima H, <u>Hanazono Y</u> . Production and rearing of germ-free X-SCID pigs. <i>Exp Anim</i> . 2017 Nov 21. doi: 10.1538/expanim.17-0095.
有	論文447	Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> , Kunita S. Swine used in the medical university-overview of 20 years of experience. <i>Exp Anim</i> . 2017 Oct 7. doi: 10.1538/expanim.17-0086.
有	*論文448	Abe T, Matsuoka Y, Nagao Y, Sonoda Y, and <u>Hanazono Y</u> : CD34-negative hematopoietic stem cells show distinct expression profiles of homing molecules that limit engraftment in mice and sheep. <i>Int J Hematol</i> , DOI 10.1007/s12185-017-2290-5, 2017
有	論文449	Abe T, Kono S, Ohnuki T, Hishikawa S, Kunita S, and <u>Hanazono Y</u> : A swine model of acute thrombocytopenia with prolonged bleeding time produced by busulfan. <i>Exp Anim</i> , 65(4): 345-351, 2016
有	*論文450	Abe T, <u>Hanazono Y</u> , Nagao Y: A long-term follow-up study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep. <i>Exp Anim</i> 63(4): 475-481, 2014 (doi:10.1538/expanim.63.475)
有	論文451	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> : MHC-matched induced pluripotent stem cells can attenuate cellular and humoral immune responses but are still susceptible to innate immunity. <i>PLOS ONE</i> 13;9(6): e98319, 2014 (doi: 10.1371/journal.pone.0098319)
有	論文452	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Matsuda T, Maehara M, Kanai T, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Takayanagi S, Arai Y, Umeyama K, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H: Generation of interleukin-2 receptor gamma gene knockout pigs from somatic cells genetically modified by zinc finger nuclease-encoding mRNA. <i>PLOS ONE</i> . 9; 8(10): e76478, 2013 (doi: 10.1371/journal.pone.0076478)
有	論文453	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S-H, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H: DNA methylation profiles provide a viable index for porcine pluripotent stem cells. <i>Genesis</i> 51(11): 763-776, 2013 (doi: 10.1002/dvg.22423)
有	論文454	Nakano K, Watanabe M, Matsunari H, Matsuda T, Honda K, Maehara M, Kanai T, Hayashida G, Kobayashi M, Kuramoto M, Arai Y, Umeyama K, Fujishiro S-H, Mizukami Y, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H: Generating porcine chimeras using inner cell mass cells and parthenogenetic preimplantation embryos. <i>PLOS ONE</i> 23; 8(4): e61900, 2013 (doi: 10.1371/journal.pone.0061900)
有	論文455	Fujishiro SH, Nakano K, Mizukami Y, Azami T, Arai Y, Matsunari H, Ishino R, Nishimura T, Watanabe M, Abe T, Furukawa Y, Umeyama K, Yamanaka S, Ema M, Nagashima H, <u>Hanazono Y</u> : Generation of naive-like porcine induced pluripotent stem cells capable of contributing to embryonic and fetal development. <i>Stem Cells Dev</i> . 22(3): 473-482, 2013 (doi: 10.1089/scd.2012.0173)

(部門名) 病態生化学部門

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文456	Niijima S, <u>Ohmori T</u> , Kario K. Differential impact of diabetes mellitus on antiplatelet effects of prasugrel and clopidogrel. <i>Thrombosis journal</i> 16:5, 2018
有	論文457	<u>Ohmori T</u> , Nagao Y, Mizukami H, Sakata A, Muramatsu S, Ozawa K, Tominaga S, Hanazono Y, Nishimura S, Nureki O, Sakata Y. CRISPR/Cas9-mediated genome editing via postnatal administration of AAV vector cures haemophilia B mice. <i>Scientific Reports</i> . 7:4159, 2017
有	論文458	Kimura A, <u>Ohmori T</u> , Sakata A, Endo T, Inoue H, Nishimura S, Takeshita K. Hemostatic function to regulate perioperative bleeding in patients undergoing spinal surgery: a prospective observational study. <i>PLOS One</i> . 12:e0179829, 2017
有	論文459	<u>Ohmori T</u> , Mizukami H, Ozawa K, Sakata Y, and Nishimura S. New approaches to gene and cell therapy for hemophilia, <i>J Thrombosis and Haemostasis</i> 13:S133-S142, 2015
有	論文460	Nishimura S, Nagasaki M, Kunishima S, Sawaguchi A, Sakata A, Sakaguchi H, <u>Ohmori T</u> , Manabe I, Italiano JE Jr, Ryu T, Takayama N, Komuro I, Kadowaki T, Eto K, Nagai R. IL-1 α induces thrombopoiesis through megakaryocyte rupture in response to acute platelet needs. <i>J Cell Biol</i> 209:453-66, 2015
有	論文461	Nishimura S, Nagasaki M, Okudaira S, Aoki J, <u>Ohmori T</u> , Ohkawa R, Nakamura K, Igarashi K, Yamashita H, Eto K, Uno K, Hayashi N, Kadowaki T, Komuro I, Yatomi Y, Nagai R. ENPP2 contributes to adipose tissue expansion in diet-induced obesity. <i>Diabetes</i> 63:4154-4164, 2014
有	論文462	Sakata A, <u>Ohmori T</u> , Nishimura S, Suzuki H, Madoiwa S, Mimuro J, Kario K, and Sakata Y. Paxillin is an intrinsic negative regulator of platelet activation in mice. <i>Thrombosis J</i> 12:e1, 2014
有	論文463	Mimuro J, Mizukami H, Shima M, Matsushita T, Taki M, Muto S, Higasa S, Sakai M, <u>Ohmori T</u> , Madoiwa S, Ozawa K, and Sakata Y. The prevalence of neutralizing antibodies against adeno-associated virus capsids is reduced in young Japanese individuals. <i>J Med Virol</i> 86:1990-1997, 2014
有	論文464	Kashiwakura Y, <u>Ohmori T</u> , Mimuro J, Madoiwa S, Inoue M, Hasegawa M, Ozawa K, and Sakata Y. Production of functional coagulation factor VIII from iPSCs using a lentiviral vector. <i>Haemophilia</i> 20:e40-44, 2014
有	論文465	Madoiwa S, Kitajima I, <u>Ohmori T</u> , Sakata Y, and Mimuro J. Distinct reactivity of the commercially available monoclonal antibodies of d-dimer and plasma FDP testing to the molecular variants of fibrin degradation products. <i>Thromb Res</i> 132:457-464, 2013
有	論文466	Yasumoto A, Madoiwa S, Kashiwakura Y, Ishiwata A, <u>Ohmori T</u> , Mizukami H, Ozawa K, Sakata Y, Mimuro J. Overexpression of factor VII ameliorates bleeding diathesis of factor VIII-deficient mice with inhibitors. <i>Thromb Res</i> 131:444-449, 2013
有	論文467	Mimuro J, Mizukami H, Hishikawa S, Ikemoto T, Ishiwata A, Sakata A, <u>Ohmori T</u> , Madoiwa S, Ono F, Ozawa K, Sakata Y. Minimizing the Inhibitory Effect of Neutralizing Antibody for Efficient Gene Expression in the Liver With Adeno-associated Virus 8 Vectors. <i>Mol Ther</i> 21: 318-323, 2013
有	論文468	Watanabe N, Ohashi K, Tatsumi K, Utoh R, Shim IK, Kanegae K, Kashiwakura Y, <u>Ohmori T</u> , Sakata Y, Inoue M, Hasegawa M, Okano T. Genetically modified adipose tissue-derived stem/stromal cells, using simian immunodeficiency virus-based lentiviral vectors, in the treatment of hemophilia B. <i>Hum Gene Ther</i> 24:283-294, 2013

査読の有無	通し番号	
有	論文469	Kurosaki, F., Uchibori, R., Sehara, Y., Saga, Y., Urabe, M., <u>Mizukami, H.</u> , Hagiwara, K., Kume, A.: AAV6-mediated IL-10 expression in the lung ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. <i>Hum Gene Ther, in press</i> .
有	論文470	Sato, N., Saga, Y., Uchibori, R., Tsukahara, T., Urabe, M., Kume, A., Fujiwara, H., Suzuki, M., Ozawa, K., <u>Mizukami, H.</u> : Eradication of cervical cancer in vivo by an AAV vector that encodes shRNA targeting human papillomavirus type 16 E6/E7. <i>Int J Oncol.</i> 52:687-696, 2018.
有	論文471	Ohmori, T., Nagao, Y., <u>Mizukami, H.</u> , Sakata, A., Muramatsu, SI., Ozawa, K., Tominaga, SI., Hanazono, Y., Nishimura, S., Nureki, O., Sakata, Y.: CRISPR/Cas9-mediated genome editing via postnatal administration of AAV vector cures haemophilia B mice. <i>Sci Rep</i> , 7:4159, 2017.
有	論文472	Kurosaki, F., Uchibori, R., Mato, N., Sehara, Y., Saga, Y., Urabe, M., <u>Mizukami, H.</u> , Sugiyama, Y., Kume, A.: Optimization of adeno-associated virus vector-mediated gene transfer to the respiratory tract. <i>Gene Ther</i> , 24:290-297, 2017.
有	論文473	Wang, D., Saga, Y., Sato, N., Nakamura, T., Takikawa, O., <u>Mizukami, H.</u> , Matsubara, S., Fujiwara, H.: The hepatocyte growth factor antagonist NK4 inhibits indoleamine-2,3-dioxygenase expression via the c-Met-phosphatidylinositol 3-kinase-AKT signaling pathway. <i>Int J Oncol</i> , 48:2303-9, 2016.
有	論文474	Tsukahara, T., Iwase, N., Kawakami, K., Iwasaki, M., Yamamoto, C., Ohmine, K., Uchibori, R., Teruya, T., Ido, H., Yasushi, S., Urabe, M., <u>Mizukami, H.</u> , Kume, A., Nakamura, M., Brentjens, R., Ozawa, K.: The Tol2 transposon system mediates the genetic engineering of T-cells with CD19-specific chimeric antigen receptors for B-cell malignancies. <i>Gene Ther</i> , 22:209-15, 2015.
有	論文475	Tsukahara, T., Ohmine, K., Yamamoto, C., Uchibori, R., Ido, H., Teruya, T., Urabe, M., <u>Mizukami, H.</u> , Kume, A., Nakamura, M., Mineno, J., Takesako, K., Riviere, I., Sadelain, M., Brentjens, R., Ozawa, K.: CD19 target-engineered T-cells accumulate at tumor lesions in human B-cell lymphoma xenograft mouse models. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> , 438:84-9, 2013.

(部門名) 抗加齢医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文476	Kimura T, Shiizaki K, Kurosu H, Akimoto T, Shinzato T, Shimizu T, Kurosawa A, Kubo T, Nanmoku K, <u>Kuro-o M</u> & Yagisawa T. The impact of preserved Klotho gene expression on anti-oxidative stress activity in healthy kidney. <i>Am J Physiol Renal Physiol</i> 2018.
無	論文477	Voelkl J, Tuffaha R, Luong TTD, Zickler D, Masyout J, Feger M, Verheyen N, Blaschke F, <u>Kuro-o M</u> , Tomaschitz A, Pilz S, Pasch A, Eckardt KU, Scherberich JE, Lang F, Pieske B & Alesutan I. Zinc Inhibits Phosphate-Induced Vascular Calcification through TNFAIP3-Mediated Suppression of NF-kappaB. <i>J Am Soc Nephrol</i> 2018.

有	論文478	Navarro-Garcia JA, Fernandez-Velasco M, Delgado C, Delgado JF, <u>Kuro-o M</u> , Ruilope LM & Ruiz-Hurtado G. PTH, vitamin D, and the FGF-23-klotho axis and heart: Going beyond the confines of nephrology. <i>Eur J Clin Invest</i> 48: e12902, 2018.
有	論文479	Miura Y, Iwazu Y, Shiizaki K, Akimoto T, Kotani K, Kurabayashi M, Kurosu H, & <u>Kuro-o M</u> . Identification and quantification of plasma calciprotein particles with distinct physical properties in patients with chronic kidney disease. <i>Scientific reports</i> 8:1256, 2018.
無	論文480	<u>Kuro-o M</u> . Ageing-related receptors resolved. <i>Nature</i> 553:409-410, 2018.
有	論文481	Stenvinkel P, Painer J, <u>Kuro-o M</u> , Lanaspa M, Arnold W, Ruf T, Shiels PG, & Johnson RJ. Novel treatment strategies for chronic kidney disease: insights from the animal kingdom. <i>Nat Rev Nephrol</i> 14:265-284, 2018.
有	論文482	Watanabe R, Fujita N, Sato Y, Kobayashi T, Morita M, Oike T, Miyamoto K, <u>Kuro-o M</u> , Michigami T, Fukumoto S, Tsuji T, Toyama Y, Nakamura M, Matsumoto M, & Miyamoto T. Enpp1 is an anti-aging factor that regulates Klotho under phosphate overload conditions. <i>Scientific reports</i> 7:7786, 2017.
有	論文483	Yamada H, <u>Kuro-o M</u> , Ishikawa SE, Funazaki S, Kusaka I, Kakei M, & Hara K. Daily variability in serum levels of calciprotein particles and their association with mineral metabolism parameters: A cross-sectional pilot study. <i>Nephrology (Carlton)</i> 23:226-230, 2017.
有	論文484	Santoso P, Nakata M, Shiizaki K, Boyang Z, Parmila K, Otgon-Uul Z, Hashimoto K, Satoh T, Mori M, <u>Kuro-o M</u> , & Yada T. Fibroblast growth factor 21, assisted by elevated glucose, activates paraventricular nucleus NUCB2/Nesfatin-1 neurons to produce satiety under fed states. <i>Scientific reports</i> 7:45819, 2017.
有	論文485	<u>Kuro-o M</u> . The FGF23 and Klotho system beyond mineral metabolism. <i>Clin Exp Nephrol</i> 21:64-69, 2017.
有	論文486	Kawakami K, Takeshita A, Furushima K, Miyajima M, Hatamura I, <u>Kuro-o M</u> , Furuta Y, & Sakaguchi K. Persistent fibroblast growth factor 23 signalling in the parathyroid glands for secondary hyperparathyroidism in mice with chronic kidney disease. <i>Scientific reports</i> 7:40534, 2017.
有	論文487	Hu MC, Shi M, Gillings N, Flores B, Takahashi M, <u>Kuro-o M</u> , & Moe OW. Recombinant alpha-Klotho may be prophylactic and therapeutic for acute to chronic kidney disease progression and uremic cardiomyopathy. <i>Kidney Int</i> 91:1104-1114, 2017.
有	論文488	Yamada H, <u>Kuro-o M</u> , Hara K, Ueda Y, Kusaka I, Kakei M, & Ishikawa SE. The Urinary Phosphate to Serum Fibroblast Growth Factor 23 Ratio Is a Useful Marker of Atherosclerosis in Early-Stage Chronic Kidney Disease. <i>PLoS One</i> 11:e0160782, 2016.

有	論文489	Wehling-Henricks M, Li Z, Lindsey C, Wang Y, Welc SS, Ramos JN, Khanlou N, <u>Kuro-o M</u> , & Tidball JG. Klotho gene silencing promotes pathology in the mdx mouse model of Duchenne muscular dystrophy. <i>Hum Mol Genet</i> 25:2465-2482, 2016.
有	論文490	Tanno J, Gatate Y, Kasai T, Nakano S, Senbonmatsu T, Sato O, Ichioka S, <u>Kuro-o M</u> , & Nishimura S. A Novel Index Using Ankle Hemodynamic Parameters to Assess the Severity of Peripheral Arterial Disease: A Pilot Study. <i>PLoS One</i> 11:e0164756, 2016.
有	論文491	Shen ZJ, Hu J, Shiizaki K, <u>Kuro-o M</u> , & Malter JS. Phosphate-Induced Renal Fibrosis Requires the Prolyl Isomerase Pin1. <i>PLoS One</i> 11:e0150093, 2016.
有	論文492	Ravikumar P, Li L, Ye J, Shi M, Taniguchi M, Zhang J, <u>Kuro-o M</u> , Hu MC, Moe OW, & Hsia CC. alphaKlotho deficiency in acute kidney injury contributes to lung damage. <i>Journal of applied physiology (Bethesda, Md. : 1985)</i> 120:723-732, 2016.
有	論文493	Leibrock CB, Voelkl J, <u>Kuro-o M</u> , Lang F, & Lang UE. 1,25(OH)2D3 dependent overt hyperactivity phenotype in klotho-hypomorphic mice. <i>Scientific reports</i> 6:24879, 2016.
有	論文494	Leibrock CB, Voelkl J, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> , & Lang F. Bicarbonate-sensitive calcification and lifespan of klotho-deficient mice. <i>Am J Physiol Renal Physiol</i> 310:F102-108, 2016.
有	論文495	Leibrock CB, Feger M, Voelkl J, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> , & Lang F. Partial Reversal of Tissue Calcification and Extension of Life Span following Ammonium Nitrate Treatment of Klotho-Deficient Mice. <i>Kidney Blood Press Res</i> 41:99-107, 2016.
有	論文496	Hu MC, Shi M, Zhang J, Addo T, Cho HJ, Barker SL, Ravikumar P, Gillings N, Bian A, Sidhu SS, <u>Kuro-o M</u> , & Moe OW. Renal Production, Uptake, and Handling of Circulating alphaKlotho. <i>J Am Soc Nephrol</i> 27:79-90, 2016.
有	論文497	Schmid E, Yan J, Hosseinzadeh Z, Almilaji A, Shumilina E, <u>Kuro-o M</u> , Borst O, Gawaz M, & Lang F. Up-regulation of megakaryocytic Na(+)/Ca(2+) exchange in klotho-deficient mice. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 460:177-182, 2015.
有	論文498	Otani-Takei N, Masuda T, Akimoto T, Honma S, Watanabe Y, Shiizaki K, Miki T, Kusano E, Asano Y, <u>Kuro-o M</u> , & Nagata D. Association between Serum Soluble Klotho Levels and Mortality in Chronic Hemodialysis Patients. <i>International journal of endocrinology</i> 2015:Article ID 406269, 406210 pages, 2015.
有	論文499	Masuda M, Miyazaki-Anzai S, Keenan AL, Okamura K, Kendrick J, Chonchol M, Offermanns S, Ntambi JM, <u>Kuro-o M</u> , & Miyazaki M. Saturated phosphatidic acids mediate saturated fatty acid-induced vascular calcification and lipotoxicity. <i>J Clin Invest</i> 125:4544-4558, 2015.

有	論文500	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Pakladok T, Michael D, Schleicher E, Kamyabi-Moghaddam Z, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> , & Lang F. NH ₄ Cl Treatment Prevents Tissue Calcification in Klotho Deficiency. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26:2423-2433, 2015.
有	論文501	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Michael D, Castor T, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, Kubler L, Mannheim JG, Pichler BJ, Rosenblatt KP, <u>Kuro-o M</u> , & Lang F. Acetazolamide sensitive tissue calcification and aging of klotho-hypomorphic mice. <i>J Mol Med (Berl)</i> 94:95-106, 2015.
有	論文502	Koyama D, Sato Y, Aizawa M, Maki T, Kurosawa M, <u>Kuro-o M</u> , & Furukawa Y. Soluble alphaKlotho as a candidate for the biomarker of aging. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 467:1019-1025, 2015.
有	論文503	Hu MC, Shi M, Cho HJ, Adams-Huet B, Paek J, Hill K, Shelton J, Amaral AP, Faul C, Taniguchi M, Wolf M, Brand M, Takahashi M, <u>Kuro-o M</u> , Hill JA, & Moe OW. Klotho and phosphate are modulators of pathologic uremic cardiac remodeling. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26:1290-1302, 2015.
有	論文504	Dubal DB, Zhu L, Sanchez PE, Worden K, Broestl L, Johnson E, Ho K, Yu GQ, Kim D, Betourne A, <u>Kuro-o M</u> , Masliah E, Abraham CR, & Mucke L. Life Extension Factor Klotho Prevents Mortality and Enhances Cognition in hAPP Transgenic Mice. <i>J Neurosci</i> 35:2358-2371, 2015.
有	論文505	Brobey RK, German D, Sonsalla PK, Gurnani P, Pastor J, Hsieh CC, Papaconstantinou J, Foster PP, <u>Kuro-o M</u> , & Rosenblatt KP. Klotho Protects Dopaminergic Neuron Oxidant-Induced Degeneration by Modulating ASK1 and p38 MAPK Signaling Pathways. <i>PLoS One</i> 10:e0139914, 2015.
有	論文506	Brobey RK, Dheghani M, Foster PP, <u>Kuro-o M</u> , & Rosenblatt KP. Klotho Regulates 14-3-3zeta Monomerization and Binding to the ASK1 Signaling Complex in Response to Oxidative Stress. <i>PLoS One</i> 10:e0141968, 2015.
有	論文507	Barker SL, Pastor J, Carranza D, Quinones H, Griffith C, Goetz R, Mohammadi M, Ye J, Zhang J, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Moe OW, & Sidhu SS. The demonstration of alphaKlotho deficiency in human chronic kidney disease with a novel synthetic antibody. <i>Nephrol Dial Transplant</i> 30:223-233, 2015.
有	論文508	Borst O, Munzer P, Schmid E, Schmidt EM, Russo A, Walker B, Yang W, Leibrock C, Sztejn K, Schmidt S, Elvers M, Faggio C, Shumilina E, <u>Kuro-o M</u> , Gawaz M & Lang F. 1,25(OH) ₂ vitamin D ₃ -dependent inhibition of platelet Ca ²⁺ signaling and thrombus formation in klotho-deficient mice. <i>FASEB J</i> 28, 2108-2119, 2014.
有	論文509	Dubal DB, Yokoyama JS, Zhu L, Broestl L, Worden K, Wang D, Sturm VE, Kim D, Klein E, Yu GQ, Ho K, Eilertson KE, Yu L, <u>Kuro-o M</u> , De Jager PL, Coppola G, Small GW, Bennett DA, Kramer JH, Abraham CR, Miller BL & Mucke L. Life extension factor klotho enhances cognition. <i>Cell reports</i> 7, 1065-1076, 2014.
有	論文510	Haenzi B, Bonny O, Masson R, Lienhard S, Dey JH, <u>Kuro-o M</u> & Hynes NE. Loss of Memo, a novel FGFR regulator, results in reduced lifespan. <i>FASEB J</i> 28, 327-336, 2014.
有	論文511	Hu MC, <u>Kuro-o M</u> & Moe OW. alphaKlotho and vascular calcification: an evolving paradigm. <i>Curr Opin Nephrol Hypertens</i> 23, 331-339, 2014.

有	論文512	Hu MC, Shi M, Cho HJ, Adams-Huet B, Paek J, Hill K, Shelton J, Amaral AP, Faul C, Taniguchi M, Wolf M, Brand M, Takahashi M, <u>Kuro-o M</u> , Hill JA & Moe OW. Klotho and phosphate are modulators of pathologic uremic cardiac remodeling. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 1290-1302, 2015.
有	論文513	Jiang L, Xiao L, Sugiura H, Huang X, Ali A, <u>Kuro-o M</u> , Deberardinis RJ & Boothman DA. Metabolic reprogramming during TGFbeta1-induced epithelial-to-mesenchymal transition. <i>Oncogene</i> 0, 2014.
有	*論文514	<u>Kuro-o M</u> . Calciprotein particle (CPP): a true culprit of phosphorus woes? <i>Nefrologia</i> 34, 1-4, 2014.
有	論文515	Moe OW & <u>Kuro-o M</u> . Fibroblast growth factor 23 and uremic vascular calcification: is it time to escalate from biomarker status to pathogenic agent? <i>Kidney Int</i> 85, 1022-1023, 2014.
有	論文516	Ravikumar P, Ye J, Zhang J, Pinch SN, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Hsia CC & Moe OW. Alpha-Klotho protects against oxidative damage in pulmonary epithelia. <i>Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol</i> 307, L566-575, 2014.
有	論文517	Xie J, Yoon J, An SW, <u>Kuro-o M</u> & Huang CL. Soluble Klotho Protects against Uremic Cardiomyopathy Independently of Fibroblast Growth Factor 23 and Phosphate. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 1150-1160, 2014.
有	論文518	Barker SL, Pastor J, Carranza D, Quinones H, Griffith C, Goetz R, Mohammadi M, Ye J, Zhang J, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Moe OW & Sidhu SS. The demonstration of alphaKlotho deficiency in human chronic kidney disease with a novel synthetic antibody. <i>Nephrol Dial Transplant</i> 30, 223-233, 2015.
有	論文519	Dubal DB, Zhu L, Sanchez PE, Worden K, Broestl L, Johnson E, Ho K, Yu GQ, Kim D, Betourne A, <u>Kuro-o M</u> , Masliah E, Abraham CR & Mucke L. Life Extension Factor Klotho Prevents Mortality and Enhances Cognition in hAPP Transgenic Mice. <i>J Neurosci</i> 35, 2358-2371, 2015.
有	論文520	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Michael D, Castor T, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, Kubler L, Mannheim JG, Pichler BJ, Rosenblatt KP, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. Acetazolamide sensitive tissue calcification and aging of klotho-hypomorphic mice. <i>J Mol Med (Berl)</i> , 2015.
有	論文521	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Pakladok T, Michael D, Schleicher E, Kamyabi-Moghaddam Z, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. NH4Cl Treatment Prevents Tissue Calcification in Klotho Deficiency. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 2423-2433, 2015.
有	論文522	Koyama D, Sato Y, Aizawa M, Maki T, Kurosawa M, Kuro-o M & Furukawa Y. Soluble alphaKlotho as a candidate for the biomarker of aging. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 467, 1019-1025, 2015.
有	論文523	Leibrock CB, Voelkl J, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. Bicarbonate-Sensitive Calcification and Life Span of klotho-deficient mice. <i>Am J Physiol Renal Physiol</i> 310, ajprenal.00037.02015, 2015.
有	論文524	Otani-Takei N, Masuda T, Akimoto T, Honma S, Watanabe Y, Shiizaki K, Miki T, Kusano E, Asano Y, <u>Kuro-o M</u> & Nagata D. Association between Serum Soluble Klotho Levels and Mortality in Chronic Hemodialysis Patients. <i>Int J Endocrinol</i> 2015, 406269, 2015.
有	論文525	Hu MC, Shi M, Zhang J, Addo T, Cho HJ, Barker SL, Ravikumar P, Gillings N, Bian A, Sidhu SS, <u>Kuro-o M</u> & Moe OW. Renal Production, Uptake, and Handling of Circulating alphaKlotho. <i>J Am Soc Nephrol</i> 27, 79-90, 2016.

査読の有無	通し番号	
有	論文526	Ohmori T, Nagao Y, Mizukami H, Sakata A, Muramatsu SI, Ozawa K, Tominaga SI, Hanazono Y, <u>Nishimura S</u> , Nureki O, Sakata Y: CRISPR/Cas9-mediated genome editing via postnatal administration of AAV vector cures haemophilia B mice. Scientific reports. 23;7(1)4159
	論文527	Hirata S, Murata T, Suzuki D, Nakamura S, Jono-Onishi R, Hirose H, Sawaguchi A, Nishimura S, Sugimoto N, Eto K, Selective inhibition of ADAM17 efficiency mediates glycoprotein Ibalpha retention during ex vivo generation of human induced pluripotent stem cell derived platelets. Stem Cells Trans Med. 2017 Mar;6(3):720-730
有	論文528	Nishimura D, Sakai H, Sato T, Sato F, <u>Nishimura S</u> , Toyama-Sorimachi N, Bartsch J, Sebara-Fuiasawa A: Roles of ADAM8 in eliminatin of injured muscle fibers prior to skeletal muscle regeneration.Mechanisms of Development. 135:58-67,2015
有	論文529	<u>Nishimura S</u> , Nagasaki M, Kunishima S, Sawaguchi A, Sakata A, Sakaguchi H, Ohmori T, Manabe I, J Italiano, Ryu T, Takayama N, Komuro I, Kadowaki T, Eto K, Nagai R: IL-1alph induces thrombopoiesis through megakaryocyte rupture in response to acute platelet needs.J Cell Biology.11;209(3):453-66,2015
有	論文530	Ueno M, Maeno T, <u>Nishimura S</u> , Ogata F, Masubuchi H, Hara K, Yamaguchi K, Aoki F, Suga T, Nagai R, Kurabayashi M:Alendronate inhalation ameliorates elastase-induced pulmonary emphysema in mice by induction of apoptosis of alveolar macrophages.Nat Communnications.10(6):6332,2015
有	論文531	<u>Nishimura S</u> , Nagasaki M, Okudaira S, Aoki J, Ohmori T, Ohkawa R, Nakamura K, Igarashi K, Yamashita H, Eto K, Uno K, Hayashi N, Kadowaki T, Komuro I, Yatomi Y, Nagai R:ENPP2 contributes to adipose Tissue expansion and insulin resistance in diet-induced obesity.Diabetes. 63(12):4154-64, 2014
有	論文532	Tanaka M, Ikeda K, Suganami T, Komiya C, Ochi K, Shirakawa I, Hamaguchi M, <u>Nishimura S</u> , Manabe I, Matsuda T, Kimura K, Inoue H, Inagaki Y, Aoe S, Yamasaki S, Ogawa Y:Macrophage-inducible C-type lectin underlies obesity-induced adipose tissue fibrosis. Nat Communnications. 19(5):4982,2014
有	論文533	Noda S, Asano Y, <u>Nishimura S</u> , Taniguchi T, Fujiu K, Manabe I, Nakamura K, Yamashita T, Saigusa R, Akamata K, Takahashi T, Ichimura Y, Toyama T, Tsuruta D, Trojanowska M, Nagai R, Sato S:Simultaneous downregulation of KLF5 and Fli1 is a key feature underlying systemic sclerosis. Nat Commun.5:5797,2014

(部門名) 神経脳生理学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文534	Nasanbuyan N, Yoshida M, Takayanagi Y, Inutsuka A, Nishimori K, Yamanaka A, <u>Onaka T</u> : Oxytocin-oxytocin receptor systems facilitate social defeat posture in male mice. Endocrinology 159: 763-775, 2018

有	論文535	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu SI, Takino N, Ito M, Aoki S, Jimbo EF, Shimazaki K, <u>Onaka T</u> , Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T: Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. Mol Genet Metab Rep 10: 67-74, 2017
有	論文536	Matsuura T, Kawasaki M, Hashimoto H, Yoshimura M, Motojima Y, Saito R, Ueno H, Maruyama T, Ishikura T, Sabanai K, Mori T, Ohnishi H, <u>Onaka T</u> , Sakai A, Ueta Y: Possible involvement of the rat hypothalamo-neurohypophysial/ -spinal oxytocinergic pathways in acute nociceptive responses. J Neuroendocrinol. (2016 Jun) 28(6). doi: 10.1111/jne.12396.
有	*論文537	Takayanagi Y, Yoshida M, Takashima A, Takanami K, Yoshida S, Nishimori K, Nishijima I, Sakamoto H, Yamagata T, <u>Onaka T</u> : Activation of supraoptic oxytocin neurons by secretin facilitates social recognition. Biol Psychiat 81(3): 243-251, 2017
有	*論文538	<u>Onaka T</u> , Okabe S, Takayanagi Y, Yoshida M.: Noxious or Non-Noxious Inputs to Oxytocin Neurons: Possible Roles in the Control of Behaviors. Interdiscipl Inform Sci 21 : 189-195, 2015
有	*論文539	Okabe S, Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : Activation of hypothalamic oxytocin neurons following tactile stimuli in rats. Neurosci Lett 600: 22-27, 2015
有	論文540	Yoshimura M, Ohkubo JI, Hashimoto H, Matsuura T, Maruyama T, <u>Onaka T</u> , Suzuki H, Ueta Y: Effects of a subconvulsive dose of kainic acid on the gene expressions of the arginine vasopressin, oxytocin and neuronal nitric oxide synthase in the rat hypothalamus. Neurosci Res 99: 62-68, 2015
有	*論文541	Nagasawa M, Mitsui S, En S, Ohtani N, Ohta M, Sakuma Y, <u>Onaka T</u> , Mogi K, Kikusui T: Social evolution. Oxytocin-gaze positive loop and the coevolution of human-dog bonds. Science 348: 333-336, 2015
有	*論文542	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : The medial amygdala -medullary PrRP-synthesizing neuron pathway mediates neuroendocrine responses to contextual conditioned fear in male rodents. Endocrinology 155: 2996-3004, 2014
有	論文543	Ikeda K, Satake S, <u>Onaka T</u> , Sugimoto H, Takeda N, Imoto K, Kawakami K: Enhanced inhibitory neurotransmission in the cerebellar cortex of the Atp1a3-deficient heterozygous mice. J Physiol 591: 3433-3449, 2013

《 図 書 》

(部門名) 炎症・免疫研究部

通し番号	
図書1	<u>高橋将文</u> ：動脈・静脈疾患と炎症。日本臨床 75, Suppl 5 : 1038-1042, 2017
図書2	<u>高橋将文</u> ：心血管疾患の発症とインフラマソーム。循環PLUS 17 : 7-9, 2017

図書3	高橋将文：自然免疫と自己免疫疾患. 医学と医療の最前線 日本内科学会雑誌 40:747-752, 2016
図書4	高橋将文：心血管病における無菌性炎症とインフラマソーム. 岩手医科大学歯学雑誌 41:19-28, 2016
図書5	小林基、高橋将文：心血管疾患とインフラマソーム. 循環器内科78 (5) : 505-511, 2015
図書6	臼井文武、高橋将文. 疾患モデルの作製と利用 脂質代謝異常と関連疾患<<下巻>> 第三節 ASC、株式会社エル・アイ・シー、東京、2015、p43-51
図書7	高橋将文. 心血管病における無菌性炎症とインフラマソーム. 日本臨床検査自動科学会会誌40(3)：191-197, 2015
図書8	唐澤直義、高橋将文. シグナル伝達を理解するために必要な知識：インフラマソーム. 分子消化器病 2: 78-82, 2014
図書9	井上賢之、高橋将文. 敗血症に関する基礎医学の最新知見. 炎症. Intesivist 6:479-492, 2014
図書10	小林基、高橋将文. Vascular inflammationとはどのような概念か. 血液内科 69:321-327, 2014
図書11	高橋将文. 新たな自然炎症経路・インフラマソームの研究. 最新医学69:112-119, 2014
図書12	高橋将文. 動脈硬化におけるインフラマソームの役割. 「Annual Review糖尿病・代謝・内分泌2013」 (編集：寺内康夫、伊藤裕、石橋俊) 中外医学社, 106-111, 2013
図書13	高橋将文. 血管での慢性炎症の分子機序を知る. Vascular Medicine 9 : 23-28, 2013
図書14	高橋将文. 無菌性炎症とインフラマソーム. トピックス. Organ Biology 20: 164-165, 2013
図書15	高橋将文. 動脈硬化とインフラマソーム. 日本血栓止血学会誌24: 12-16, 2013

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
図書16	岩崎有作、矢田俊彦：食関連ホルモンの求心性迷走神経を介した情報伝達による摂食調節機構. 実験医学、35(6)、9頁(917-925)、2017
図書17	前川文彦、矢田俊彦：ストレスと肥満. Pharma Medica、34(5)、4頁(9-12)、2016
図書18	桂田健一、矢田俊彦：インクレチンの神経系を介した多様な作用. 最新医学、71(1)、7頁(37-43)、2016
図書19	岩崎有作、桂田健一、河野大輔、矢田俊彦：消化管ホルモンと迷走神経・中枢神経による摂食・代謝・生体恒常性調節. 内分泌・糖尿病・代謝内科、41(1)、6頁(3-8)、2015

図書20	前川文彦, 矢田俊彦: 病態生理 糖尿病における中枢性摂食・代謝調節の破綻. 最新医学3月増刊号、70、7頁(517-523)、2015
図書21	岩崎有作, 矢田俊彦: 自律神経系による末梢環境感知と摂食・代謝調節—メタボリックシンドロームにおける変調. Clinical Neuroscience、32(12)、4頁(1383-1386)、2014
図書22	中田正範, 矢田俊彦: 摂食調節機構と神経ペプチド. 医学のあゆみ、250(9)、5頁(785-789)、2014
図書23	前島裕子, 矢田俊彦: オキシトシンの中枢神経作用. 内分泌・糖尿病・代謝内科、39(1)、6頁(20-25)、2014
図書24	中田正範, 矢田俊彦: 摂食概日リズムと視床下部. アンチ・エイジング医学、10(2)、6頁(46-51)、2014
図書25	栗田英治, 矢田俊彦: 中枢グルコース感知と摂食調節機構. Diabetes Frontier、25(1)、6頁(40-45)、2014

(部門名) 循環器内科学部門

通し番号	
図書26	<u>Kario K.</u> Essential Manual of 24-hour Blood Pressure Management from Morning to Nocturnal Hypertension. pp 1-150, Wiley-Blackwell, 2015

(部門名) アレルギー膠原病学部門

通し番号	
図書27	長嶋孝夫, 簗田清次: ループス腎炎. In リウマチ科. 科学評論社、第58巻、第1号、46-53頁、2017
図書28	簗田清次: 地域差のない最新リウマチ治療の実践と医療安全のための病診連携(HHC)の構築とその維持(HHC:hospital and health-care clinic co-operation). In 臨床リウマチ、日本臨床リウマチ学会、296-301頁、2015
図書29	簗田清次: 自己免疫疾患(リウマチ)や喘息との関わり合い. In 日本内科学会雑誌、日本内科学会、第104巻、第1号、71-4頁、2015
図書30	簗田清次: リウマチ膠原病・アレルギー学. In 週刊日本医事新報、日本医事新報社、第4685号、26-31頁、2014

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
------	--

図書31	遠藤仁司：第68章 糖質代謝とATP，第70章 タンパク質代謝、In ガイトン生理学原著第13版（石川義弘、岡村康司、尾仲達史、河野憲二 総監訳）、p767-777，p792-798、エルゼビア・ジャパン、2018.
図書32	遠藤仁司. エネルギーの流れ、In メディカルサイエンス 臨床化学検査学 病態生化学の視点から（太田敏子、川上康、下村弘治、寺平良治、三村邦宏 編集）：pp36-45 近代出版，2014

(部門名) 構造生化学部門

通し番号	
*図書33	太田聡, 多胡憲治, 柳澤健：細胞のがん化におけるIL-33前駆体の新しい機能とその分子機構に関する新たな知見. 臨床免疫・アレルギー科67 (3) 275-281, 2016
図書34	多胡憲治. ヒアルロン酸ががんの発症を抑制する. (トピックス：生物系薬学). ファルマシア, 日本薬学会：1頁, 2014

(部門名) 統合病理学部門

通し番号	
図書35	仁木利郎. 低分化な癌の鑑別. 深山正久, 野口雅之, 松野吉宏 (編), 腫瘍病理鑑別診断アトラス. 肺癌. P212-216, 文光堂 (東京), 2014
図書36	仁木利郎. 分類不能癌. 深山正久, 野口雅之, 松野吉宏 (編), 腫瘍病理鑑別診断アトラス. 肺癌. P140, 文光堂 (東京), 2014

(部門名) 婦人科学部門

通し番号	
図書37	小柳貴裕、鈴木康弘、高橋詳史、嵯峨 泰、鈴木光明、佐藤靖史. 新規血管新生調節因子バゾヒビン2を標的とした卵巣癌治療応用に関する基礎研究. 産婦人科の実際 金原出版：217-221頁, 2015

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
図書38	日比紀文、山本博徳、久松理一、矢野智則：実臨床に役立つIBD内視鏡. 日本メディカルセンター. 264ページ. 2015
図書39	永山学、砂田圭二郎、矢野智則、小野公平、根本大樹、宮田康史、井野裕治、竹澤敬人、坂本博次、新畑博英、三浦義正、林芳和、佐藤博之、山本博徳. 【クローン病診療における画像診断・内視鏡診断の活用法】 クローン病診療におけるダブルバルーン内視鏡. 「日本消化器病学会雑誌」 112: 1270-1280, 2015

(部門名) 病態生化学部門

通し番号	
図書40	大森司. 血小板機能異常症, In:小澤敬也, 中尾眞二, 松村到 編, 【血液疾患最新の治療 2017-2019】, 東京, 株式会社南江堂, (印刷中) .
図書41	大森司. 遺伝子修復, Frontiers in Haemophilia, 3(2): 77-88, 2016
図書42	大森司, 羽藤高明, 横山健次【Hot topics】血小板 日本血栓止血学会誌, 2016 ; 27 (1) :91-94.
図書43	大森司. 出血傾向 【内科診断の道しるべーその症候, どう診る どう考える?】, medicina 2016;53 (4) : 56-60.
図書44	大森 司: 出血・血栓傾向のみかた. In:神田善伸 編, 血液科研修ノート2016, 東京, 診断と治療社, p90-94, 2016
図書45	大森 司: Ashwell-Morell受容体を介した血小板数調節メカニズム. In:高久史麿, 小澤敬也, 金倉譲, 小島勢二, 矢富 裕 編, Annual Review血液2016, 東京, 中外医学社, p162-168, 2016
図書46	大森 司: DIC. In:門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹 編, 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE2016-2017, 大阪, 株式会社メディカルビュー社, pp453-457, 2016
図書47	大森 司: 出血傾向. In:矢崎義雄 総編集, 内科学 第11版, 東京, 朝倉書店, p109-111, 2017
図書48	大森 司: 播種性血管内凝固症候群. In:山口徹, 北原光夫 編, 今日の治療指針 2016, 東京, 医学書院, 724-426頁, 2016
図書49	大森 司: 先天性出血病の遺伝子・細胞治療. In:一瀬白帝, 丸山征郎, 家子正浩 編, 新・血栓止血血管学, 京都, 金芳堂, 91-98頁, 2015
図書50	大森 司: 抗血栓薬. In:日本血液学会 編, 血液専門医テキスト, 東京, 南江堂, 79-82頁, 2015
図書51	大森 司: 播種性血管内凝固症候群 (DIC) . In:金澤一郎, 永井良三 編, 【今日の診断指針 第7版, 東京, 医学書院, 1165-1168頁, 2015
図書52	大森 司: 薬剤性血小板減少症. In:大森 司, 矢富 裕 編, 出血性疾患マニュアル, 東京, 南江堂株式会社, 96-100頁, 2014
図書53	大森 司: 抗血小板薬. In:金倉譲 編, プリンシプル血液疾患の臨床, 東京, 中山書店, 206-215頁, 2014

(部門名) 遺伝子治療研究部

通し番号	
図書54	Mizukami H, Mimuro J, Ohmori T, Sakata Y, Ozawa K.: AAV Vector-mediated Liver Gene Therapy and its Implementation for Hemophilia. In,“Gene Therapy and Cell Therapy through the Liver: Current Aspects and Future Prospects”Edited by Terai S. & Suda T. pp59-73, Springer(Tokyo). 2015

図書55	Ohmori. T., <u>Mizukami. H.</u> , Ozawa. K., Sakata. Y., Nishimura. S.: New approaches to gene and cell therapy for hemophilia. J Thromb Haemost 13 Suppl 1:S133-42. 2015.
------	--

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
図書56	黒尾誠、リンと寿命. 腎と透析. 83(1):18-23. 2017
図書57	黒尾誠、リン代謝とアンチエイジング (抗加齢) 医学. アンチエイジング医学の基礎と臨床 (日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会) 第3版、102-103. 2016
図書58	黒尾誠:FGF23-Klotho内分泌系と血管石灰化.Heart View,20 (10) :112-117, 2016.
図書59	黒尾誠:FGF-Klotho内分泌系による代謝制御と生活習慣病.内分泌・糖尿病・代謝内科,42 (5) :316-322, 2016.
図書60	黒尾誠:FGF-Klotho内分泌系からみた慢性腎臓病の病態生理.腎と透析,80 (3) :430-433, 2016.
図書61	黒尾誠:リン制限はいつからはじめるべきか.日本透析医会雑誌,31 (1) :226-227, 2016.
図書62	黒尾誠:Klotho遺伝子と老化.日本臨床,74 (9) :1467-1473, 2016.
図書63	黒尾誠:腎臓と老化.腎臓内科・泌尿器科,3(4):341-348, 2016.
図書64	三浦裕, 椎崎和弘, 黒須洋, 黒尾誠:CPPの役割.腎と透析 Vol.79 No.3,414-417,2015.
図書65	黒尾誠:Klothoの役割.腎と透析 Vol.79 No.3,398-404,2015.
図書66	金田るり、黒尾誠:Klotho.腎臓内科・泌尿器科2(6):576-580, 2015.
図書67	椎崎和弘、 <u>黒尾誠</u> .CKDにおけるKlothoの役割. In 腎疾患・透析最新の治療 2014-2016. 南江堂:5頁,2014
図書68	<u>黒尾誠</u> . FGF23-Klotho内分泌系とCKDにおける老化現象. In Annual Review 2015 腎臓. 中外医学社:9頁,2015
図書69	椎崎和弘、三浦裕、黒須洋、 <u>黒尾誠</u> . FGF23-Klotho内分泌系の生理機能. In 腎と骨代謝. 日本メディカルセンター:6頁,2015
図書70	土井盛博、正木崇生、 <u>黒尾誠</u> . Klotho蛋白の腎保護作用. In 腎と骨代謝. 日本メディカルセンター:9頁,2015

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
図書71	尾仲達史：ストレスを知る！ いのちの不思議を考えよう③ 脳の神秘を探ってみよう 生命科学者21人の特別授業. テルモ生命科学芸術財団「生命科学DOKIDOKI研究室」協力. 朝日新聞出版 p.92-101, 2017年3月30日
図書72	Wang Y, Takayanagi Y, Onaka T: Effects of medial amygdala lesions upon social behaviour in mice. In “Advances in Cognitive Neurodynamics(III) -Proceedings of the third International Conference on Cognitive Neurodynamics-2011”. Edited by Yamaguchi Y. pp753-757 Springer Netherlands, 2013
図書73	尾仲達史：攻撃行動の神経機構—動物実験による解析. 体育の科学 67(8)：516-524, 2017
図書74	吉田匡秀、犬束歩、高柳友紀、尾仲達史：分子から迫る神経薬理学—バゾプレシン・オキシトシン受容体に関する臨床応用—精神・神経疾患への応用の試み. Clinical Neuroscience 35(7): 769-771, 2017
図書75	高柳友紀、吉田匡秀、犬束歩、尾仲達史：分子から迫る神経薬理学—バゾプレシン受容体の機能—中枢作用を中心に. Clinical Neuroscience 35(6): 640-642, 2017
図書76	犬束歩、高柳友紀、吉田匡秀、尾仲達史：分子から迫る神経薬理学—オキシトシン受容体の機能. Clinical Neuroscience 35(5): 508-509, 2017
図書77	尾仲達史、犬束歩、高柳友紀、吉田匡秀：分子から迫る神経薬理学—バゾプレシン受容体とオキシトシン受容体の種類. Clinical Neuroscience 35(4): 376-377, 2017
図書78	尾仲達史：エイジングとホルモン(4)—オキシトシン. Horm Front gynecol 22：131-139, 2015
図書79	尾仲達史：オキシトシンと社会的行動. Clin Neurosci 33: 177-181, 2015
図書80	尾仲達史、吉田匡秀、高柳友紀：不安・恐怖とオキシトシン. アンチ・エイジング医学 11: 24-33, 2015
図書81	尾仲達史：ストレス・摂食・社会行動の相互作用: オキシトシンの働き. 心身医学 54: 643-656, 2014
図書82	高柳友紀、尾仲達史: オキシトシンとウロコルチンによる摂食制御. 日本臨床 72: 224-230, 2014
図書83	尾仲達史：オキシトシンの働きと老化. 最新医学 69: 1021-1031, 2014
図書84	尾仲達史、高柳友紀：母性行動と下垂体ホルモン. 精神科治療学 28: 777-784, 2013

《 学 会 発 表 》

(部門名) 炎症・免疫研究部

通し番号	
学会1	Kimura H, Karasawa T, Watanabe S, Suzuki K, Caturegli P, <u>Takahashi M</u> . Contribution of the immunoproteasome to the inflammatory phenotype observed in obese mice. IMMUNOLOGY2017 Washington, D.C. (America) May 12-16, 2017
学会2	木村博昭、唐澤直義、岩崎有作、矢田俊彦、 <u>高橋将文</u> . 高脂肪食による肥満性炎症におけるCaspase-1の役割. 第90回日本内分泌学会学術総会（京都）2017年4月20-22日
学会3	<u>高橋将文</u> 、小林基、唐澤直義、渡邊幸子、木村博昭. ドキソルビシン心筋傷害におけるインフラマソーム構成分子NLRP3の役割. 第38回日本炎症・再生医学会（大阪）2017年7月17-19日
学会4	木村博昭、唐澤直義、渡邊幸子、笠原忠、 <u>高橋将文</u> . 高脂肪食誘導による肥満性炎症におけるCaspase-1の役割. 第38回日本炎症・再生医学会（大阪）2017年7月17-19日
学会5	唐澤直義、渡邊幸子、木村博昭、 <u>高橋将文</u> . 飽和脂肪酸は結晶形成を介して好中球浸潤を誘導する. 第38回日本炎症・再生医学会（大阪）2017年7月17-19日
学会6	佐田友藍、井上賢之、渡邊幸子、唐澤直義、木村博昭、佐田尚宏、 <u>高橋将文</u> . 肝虚血再灌流障害におけるインフラマソーム非依存性IL-1 β 産生機構の解明. 第38回日本炎症・再生医学会（大阪）2017年7月17-19日
学会7	木村博昭、臼井文武、唐澤直義、川島晃、笠原忠、鈴木幸一、岩崎有作、矢田俊彦、 <u>高橋将文</u> . 高脂肪酸による肥満・メタボリック病態における免疫プロテアソーム欠損の有益な効果. 第89回日本内分泌学会学術総会（京都）2016年4月21-23日
学会8	<u>高橋将文</u> 、駒田敬則、臼井文武、唐澤直義、川島晃、木村博昭. 横紋筋融解症による急性腎障害におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第37回日本炎症・再生医学会（京都）2016年6月16-17日
学会9	唐澤直義、臼井文武、川島晃、木村博昭、 <u>高橋将文</u> . 脂肪酸結晶によるNLRP3インフラマソームを介した炎症惹起機構の解析. 第37回日本炎症・再生医学会（京都）2016年6月16-17日
学会10	木村博昭、唐澤直義、川島晃、臼井文武、笠原忠、鈴木幸一、 <u>高橋将文</u> . 高脂肪食誘導型肥満における免疫プロテアソーム（LMP7）の役割. 第37回日本炎症・再生医学会（京都）2016年6月16-17日
学会11	唐澤直義、臼井文武、川島晃、木村博昭、 <u>高橋将文</u> . 飽和脂肪酸によるインフラマソーム活性化機構の解析. 第48回日本動脈硬化学会（東京）2016年7月14-15日
学会12	<u>高橋将文</u> . 無菌性炎症とインフラマソーム. 第31回日本乾癬学会学術大会（宇都宮）2016年9月2-3日
学会13	<u>高橋将文</u> . 心血管病における無菌性炎症とインフラマソーム. 第26回日本循環薬理学会（長野）2016年12月2日

学会14	木村博昭、唐澤直義、笠原忠、高橋将文. 高脂肪食による肥満性炎症におけるCaspase-1の役割. 日本薬学会137年会 (仙台) 2017年3月24-27日
学会15	<u>Takahashi, M.</u> The inflammasome in atherothrombosis. AHA Scientific Sessions 2015 Cardiovascular Seminar CVC.242 Orlando, Florida (America), November 7-11, 2015
学会16	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、谷口俊一郎、高橋将文. 動脈硬化および大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第26回日本生体防御学会学術総会 (東京) 2015年7月10-12日
学会17	臼井文武、駒田敬則、唐澤直義、川島晃、木村博昭、武藤重明、長田太助、高橋将文. 横紋筋融解症による急性腎障害におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第36回日本炎症・再生医学会 (東京) 2015年7月21-22日
学会18	唐澤直義、木村博昭、臼井文武、川島晃、高橋将文. 脂質代謝異常におけるASCの役割. 第36回日本炎症・再生医学会 (東京) 2015年7月21-22日
学会19	高橋将文. 心腎血管疾患における自然炎症の役割. 第38回日本高血圧学会総会 (愛媛) 2015年10月9-11日
学会20	高橋将文、駒田敬則、臼井文武、川島晃、唐澤直義、木村博昭. 横紋筋融解症による急性腎障害におけるNLRP3インフラマソームの役割. 心血管抗加齢研究会2015 (大阪) 2015年11月28-29日
学会21	<u>Takahashi M</u> , Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Karasawa T, Kimura H. Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. The 18th International Vascular Biology Meeting. April 14-17, 2014, Kyoto(Japan)
学会22	<u>Takahashi M</u> , Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Karasawa T, Kimura H. Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. AHA Scientific Sessions 2014, Nov.15-19, 2014, Chicago(America)
学会23	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、高橋将文. 大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割の解析. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日
学会24	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、高橋将文. 大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第46回日本動脈硬化学会 (東京) 2014年7月10-11日
学会25	唐澤直義、川島晃、臼井文武、木村博昭、高橋将文. カスパーゼ1ホモログ分子CARD16による新規炎症惹起助の解析. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日
学会26	唐澤直義、川島晃、臼井文武、木村博昭、高橋将文. カスパーゼ1ホモログCOPsによる炎症制御機構の解析. 第46回日本動脈硬化学会 (東京) 2014年7月10-11日
学会27	木村博昭、川島晃、鈴木幸一、岩間信太郎、Patrizio Caturegli、高橋将文. LMP7欠損マウスの甲状腺異常. 第86回日本内分泌学会 (福岡) 2014年4月24-26日
学会28	白砂孔明、臼井文武、唐澤直義、木村博昭、川島晃、大口昭英、高橋将文. ナノ粒子は妊娠マウスの胎盤炎症と妊娠機能異常を引き起こす: 自然炎症経路・インフラマソームの関与. 第107回日本繁殖生物学会大会 (帯広) 2014年8月20-24日
学会29	高橋将文. Role of the inflammasome in cardiovascular disease. 講演 JIKEI SYMPOSIUM (東京) 2014年5月21日

学会30	高橋将文. Inflammasome activation in adventitial macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. 第14回日本抗加齢医学会 (大阪) 2014年6月6-8日
学会31	高橋将文. NLRP3はインフラマソーム非依存性に肝虚血再灌流障害を軽減する. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日
学会32	高橋将文. 心血管病や生活習慣病における無菌性炎症とインフラマソーム. 第87回日本生化学会大会 シンポジウム (京都) 2014年10月15-18日
学会33	原教子、白砂孔明、臼井文武、唐澤直義、木村博昭、川島晃、大口昭英、松山秀一、木村康二、高橋将文. インターフェロン (IFN) γ はナノ粒子の取り込みを阻害してインターロイキン (IL) -1β 産生を抑制する. 第107回日本繁殖生物学会大会 (帯広) 2014年8月20-24日
学会34	Komada T, Muto S, Kusano E, <u>Takahashi M</u> . Inflammasome in renal collecting duct cells contributes to inflammation and fibrosis after unilateral ureteral obstruction. American Society of Nephrology KIDNEY WEEK 2013. TH-OR071, November 5-10, 2013, Atlanta (USA)
学会35	<u>Takahashi M</u> . Inflammasomes and sterile inflammation in cardiovascular disease. The30th Annual Meeting of the International Society for Heart Research Japanese Section. Jun 29, 2013, San Diego (USA)
学会36	井上賢之、白砂孔明、木村博昭、臼井文武、川島晃、唐澤直義、多胡憲治、出崎克也、柳沢健、矢田俊彦、安田是和、高橋将文. 自然炎症を介した肝虚血再灌流障害の分子的機序の解明. 第12回自治医大シンポジウム (栃木) 2013年9月5日
学会37	駒田敬則、臼井文武、白砂孔明、木村博昭、川島晃、唐澤直義、武藤重明、草野英二、高橋将文. 片側尿管結紮腎における炎症惹起には集合尿細管でのインフラマソーム活性化が寄与する. 第12回自治医大シンポジウム (栃木) 2013年9月5日
学会38	高橋将文. 心血管疾患における無菌性炎症とインフラマソーム. (シンポジウム) 第42回日本心脈管作動物質学会 (奈良) 2013年2月8-9日
学会39	高橋将文. 動脈硬化におけるインフラマソームの役割. (シンポジウム) 第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会 (東京) 2013年7月18-19日
学会40	高橋将文. インフラマソームと大動脈瘤. (シンポジウム) 第21回日本血管生物医学学会学術集会 (大阪) 2013年9月26-28日

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
学会41	出崎克也、三浦李菜、 <u>矢田俊彦</u> : オキシトシン経鼻投与による内因性オキシトシン分泌促進と耐糖能改善. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日～8日
学会42	Chayon Goswami, 岩崎有作, <u>矢田俊彦</u> : Butyrate suppresses food intake by directly activating vagal afferent neurons. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日～8日

学会43	須山成朝, Marcelo Dietrich, Sabrina Diano, Xiao-Bing Gao, Tamas Horvath, 矢田俊彦: 視床下部Proopiomelanocortin発現神経の栄養状態依存的シナプス可塑性. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会44	岩崎有作, ごしゃみ ちゃよん, 矢田俊彦: GLP-1とインスリンの協働作用による求心性迷走神経活性化: 食後機能、治療効果の推定機序. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会45	Parmila Kumari, 中田正範, 張博洋, 矢田俊彦: Central action of liraglutide potentiates β -cells proliferation via vagus pathway. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会46	張博洋, 中田正範, Parmila Kumari, 小川渉, 矢田俊彦: インスリンによる室傍核オキシトシン神経活性化と血中オキシトシン濃度増加. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会47	矢田俊彦, 岩崎有作, 仙度光麻, 比良徹, 佐藤雄大, Chayon Goswami, 原博, 山田祐一郎, 徳田雅明, 出崎克也: 希少糖AlluloseのGLP-1放出と求心性迷走神経を介した過食・肥満・糖尿病改善. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会48	中田正範, 中江淳, Parmila Kumari, 張博洋, 小川渉, 矢田俊彦: 弓状核AgRPニューロンのPDK1シグナルを起点とした血圧調節経路. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会49	仙度光麻, 岩崎有作, 細野崇, 関泰一郎, 矢田俊彦: 香辛料辛味成分TRPA1アゴニストによる求心性迷走神経活性化と摂食亢進. 第38回日本肥満学会(大阪) 2017年10月7日~8日
学会50	須山成朝, 小野寺宏, 矢田俊彦: 視床下部背内側核GABA作動性ニューロンは空腹により活性化され摂食を亢進する. 第40回日本神経科学大会(幕張) 2017年7月20日~23日
学会51	岩崎有作, 矢田俊彦: GLP-1とインスリンは相乗的に求心性迷走神経を活性化させる. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会(名古屋) 2017年5月18日~20日
学会52	中田正範, Parmila Kumari, 矢田俊彦: GLP-1受容体作動薬Liraglutideの中枢性血糖降下作用のメカニズム. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会(名古屋) 2017年5月18日~20日
学会53	出崎克也, 三浦李菜, 矢田俊彦: オキシトシンによる膵・細胞インスリン分泌促進と耐糖能改善. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会(名古屋) 2017年5月18日~20日
学会54	矢田俊彦, 岩崎有作, 仙度光麻, Chayon Goswami, 比良徹, 原博, 徳田雅明, 出崎克也: 希少糖D-Alluloseによる糖代謝・摂食調節におけるGLP-1と求心性迷走神経肝臓枝の役割. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会(名古屋) 2017年5月18日~20日
学会55	岩崎有作, Goswami Chayon, 仙度光麻, 出崎克也, 比良徹, 原博, 徳田雅明, 矢田俊彦: 希少糖D-Allulose摂取によるGLP-1分泌と求心性迷走神経を介した摂食、糖代謝調節. 第90回日本内分泌学会学術総会(京都) 2017年4月20日~22日
学会56	中田正範, Kumari Parmila, 矢田俊彦: GLP-1受容体作動薬Liraglutideの中枢性血糖降下作用のメカニズム. 第90回日本内分泌学会学術総会(京都) 2017年4月20日~22日

学会57	Parmila Kumari, Masanori Nakata, Zezemdorj Otgonuul, Zhang Boyang, Toshihiko Yada : Central GLP-1 receptor agonist promotes insulin release and lowers blood glucose. 第94回日本生理学会大会(浜松) 2017年3月28日~30日
学会58	出崎克也, 三浦李菜, 矢田俊彦 : オキシトシンはGq-非選択的カチオンチャネル活性化により・細胞インスリン分泌を促進する. 第94回日本生理学会大会(浜松) 2017年3月28日~30日
学会59	Goswami Chayon, 岩崎有作, 矢田俊彦 : 短鎖脂肪酸のブタン酸は求心性迷走神経を介して摂食量を抑制する. 第94回日本生理学会大会(浜松) 2017年3月28日~30日
学会60	岩崎有作, Goswami Chayon, 仙度光麻, 出崎克也, 比良徹, 原博, 徳田雅明, 矢田俊彦 : 希少糖D-Allulose摂取はGLP-1分泌促進と求心性迷走神経の活性化を介して摂食を抑制し, 耐糖能を向上させる. 第94回日本生理学会大会(浜松) 2017年3月28日~30日
学会61	須山成朝, オトゴンウール ゼセムドルジェ, 小野寺宏, 矢田俊彦 : 視床下部背内側核GABA作動性ニューロンの活性化は摂食を亢進する. 第94回日本生理学会大会(浜松) 2017年3月28日~30日
学会62	矢田俊彦, 岩崎有作, 比良徹, 原博, Goswami Chayon, 仙度光麻, 徳田雅明, 出崎克也 : 希少糖アルロースによるGLP-1放出, 求心性迷走神経を介した摂食・糖代謝制御と肥満症改善. 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(日本解剖学会・日本生理学会合同シンポジウム)(長崎) 2017年3月28日~30日
学会63	矢田俊彦, 岩崎有作, 出崎克也, 中田正範 : グルコース・GLP-1・インスリンによる食欲調節 : 視床下部・求心性迷走神経機構. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会(京都) 2017年1月13日~15日
学会64	岩崎有作, 比良徹, 出崎克也, 原博, 徳田雅明, 矢田俊彦 : 希少糖によるGLP-1放出, 求心性迷走神経を介した摂食抑制と耐糖能向上. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会(京都) 2017年1月13日~15日
学会65	三浦李菜, 出崎克也, 矢田俊彦 : オキシトシンによる膵・細胞活性化とインスリン分泌促進. 第37回日本肥満学会(東京) 2016年10月7日~8日
学会66	出崎克也, 三浦李菜, 矢田俊彦 : オキシトシン点鼻投与による血中インスリン分泌促進と耐糖能改善. 第37回日本肥満学会(東京) 2016年10月7日~8日
学会67	楊怡飛, 中田正範, Putra Santoso, 矢田俊彦 : SGLT2阻害剤Dapagliflozinは肝臓のFGF21発現を増加する. 第37回日本肥満学会(東京) 2016年10月7日~8日
学会68	張博洋, 中田正範, Putra Santoso, 楊怡飛, 矢田俊彦 : Nesfatin-1による室傍核バゾプレッシンニューロンの活性化. 第37回日本肥満学会, 2016. 10. 7-8, 東京
学会69	須山成朝, オトゴンウール ゼセミ, 小野寺宏, 矢田俊彦 : 視床下部背内側核GABA作動性ニューロンによる摂食亢進作用. 第37回日本肥満学会, 2016. 10. 7-8, 東京
学会70	中田正範, Putra Santoso, 張博洋, 矢田俊彦 : FGF21の中枢作用における室傍核Nesfatin-1/NUCB2ニューロンの役割. 第37回日本肥満学会(東京) 2016年10月7日~8日

学会71	岩崎有作, Parmila Kumari, 比良徹, 荒井健, 出崎克也, 原博, 徳田雅明, 矢田俊彦: 希少糖Allulose摂取によるGLP-1分泌は過食、摂食リズム障害、肥満を改善する. 第37回日本肥満学会(東京) 2016年10月7日~8日
学会72	Darambazar Gantulga, Yuko Maejima, Masanori Nakata, <u>Toshihiko Yada</u> : Nucleobindin-2/nesfatin-1 in the hypothalamic paraventricular nucleus is regulated by metabolic factors. 第39回日本神経科学大会(横浜) 2016年7月20日~22日
学会73	Shigetomo Suyama, Misato Hirano Kodaira, Zesemdorj Otgon-Uul, Yoichi Ueta, Masanori Nakata, <u>Toshihiko Yada</u> : Synaptic plasticity onto oxytocin neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus is regulated by systemic energy states. 第39回日本神経科学大会(横浜) 2016年7月20日~22日
学会74	岩崎有作, 荒井健, Parmila Kumari, 出崎克也, 比良徹, 原博, 徳田雅明, 矢田俊彦: ゼロカロリー甘味料である希少糖D-AlluloseはGLP-1分泌と迷走神経活性化を介して糖尿病・過食・肥満を改善する. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会(京都) 2016年5月19日~21日
学会75	中田正範, Putra Santoso, 張博洋, 楊怡飛, 矢田俊彦: FGF21の中枢性摂食抑制作用と仲介ニューロンの同定. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会(京都) 2016年5月19日~21日
学会76	出崎克也, 倉科智行, 吉田昌史, 加計正文, 矢田俊彦: グレリンのインスリン分泌・糖代謝作用における膵・細胞 vs 全身GHS-Rの役割. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会(京都) 2016年5月19日~21日
学会77	矢田俊彦, 栗田英治, Putra Santoso, 楊怡飛, 出崎克也, 中田正範: 空腹時の食欲創出機構: 低血糖-弓状核ATP-Na+ポンプ-NPY/AgRPニューロン経路の解明. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会(京都) 2016年5月19日~21日
学会78	岩崎有作, 荒井健, Parmila Kumari, <u>矢田俊彦</u> : 果糖の感覚神経を介した摂食抑制作用. 第70回日本栄養・食糧学会大会(神戸) 2016年5月13日~15日
学会79	須山成朝, 小平美里平野, 上田陽一, 中田正範, <u>矢田俊彦</u> : 全身のエネルギー状態はNMDA型グルタミン酸受容体を介して視床下部室傍核オキシトシンニューロンのシナプス可塑性を調節する. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会80	岩崎有作, <u>矢田俊彦</u> : TRPA1アゴニストによる摂食促進: 摂食亢進性の新規求心性迷走神経サブグループの関与. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会81	出崎克也, 倉科智行, <u>矢田俊彦</u> : 消化管ホルモンによるTRPM2チャンネルを介したインスリン分泌制御. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会82	田口昌延, 出崎克也, 佐田尚宏, <u>矢田俊彦</u> : 胃全摘後の食欲・体重低下の六君子湯による改善: GLP-1を介した腸脳連関. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会83	<u>矢田俊彦</u> , 栗田英治, 中田正範: 視床下部弓状核Na+, K+-ATPaseはグルコセンサーとして摂食行動を制御する. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会84	中田正範, 王磊, 楊怡飛, <u>矢田俊彦</u> : 室傍核Nesfatin-1ニューロンによるバズプレッシン発現と血圧の調節. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2日~3日
学会85	Putra Santoso, Yuko Maejima, Kenju Shimomura, Masanori Nakata, <u>Toshihiko Yada</u> : AVP suppresses feeding and activates PVN Nesf-1 and Oxt neurons. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2日~3日

学会86	岩崎有作, 岩本禎彦, 加計正文, 矢田俊彦: グルカゴンによる求心性迷走神経の活性化: 中枢作用を仲介する伝達経路. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2日~3日
学会87	小沢一世, 岩崎有作, 谷田守, 矢田俊彦: GLP-1のアドレナリン分泌促進作用と感覚神経-中枢-副腎交感神経反射の役割. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2日~3日
学会88	須山成朝, 小平美里, 中田正範, 矢田俊彦: 摂食依存的な視床下部室傍核オキシトシンニューロンのシナプス可塑性. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2日~3日
学会89	矢田俊彦: 中枢神経/末梢投与オキシトシンによる摂食調節機構と肥満症治療基盤. 第158回日本獣医学会学術集会生理学・生化学分科会シンポジウム(十和田) 2015年9月7日~9日
学会90	伊藤聖学, 吉田昌史, 山田穂高, 出崎克也, 大河原晋, 川上正舒, 田部井薫, 矢田俊彦, 加計正文: 膵・細胞におけるインスリン分泌制御機序としてのcAMP-EPAC経路. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会91	岩崎有作, Enkh-Amar Ayush, 岩本禎彦, 中林肇, 加計正文, 矢田俊彦: グルカゴンはグルカゴン受容体を介して求心性迷走神経を活性化する. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会92	出崎克也, Sukma Rita Rauza, 加計正文, 矢田俊彦: 膵・細胞Kv2.1チャンネルはGLP-1のインスリン分泌促進作用を仲介する. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会93	吉田昌史, 出崎克也, 中田正範, 内田邦敏, 伊藤聖学, 山田穂高, 富永真琴, 川上正舒, 矢田俊彦, 加計正文: 新規ブドウ糖刺激インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会94	山田穂高, 吉田昌史, 伊藤聖学, 出崎克也, 川上正舒, 石川三衛, 矢田俊彦, 加計正文: GPR40シグナルは背景電流を増加させ膵・細胞グルコース応答性を上昇させる. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会95	出崎克也, Sukma Rita Rauza, 倉科智行, 加計正文, 矢田俊彦: 膵・細胞Kv2.1チャンネルを標的としたインスリン分泌機能改善. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日~24日
学会96	王磊, 中田正範, 矢田俊彦: 室傍核NUCB2/Nesfatin-1ノックダウンマウスの解析: 摂食概日リズム障害と内臓肥満. 第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23日~25日
学会97	吉田昌史, 出崎克也, 内田邦敏, 石川三衛, 川上正舒, 富永真琴, 矢田俊彦, 加計正文: 新規インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル. 第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23日~25日
学会98	岩崎有作, 前島裕子, 吉田昌史, 須山成朝, 加計正文, 矢田俊彦: 末梢オキシトシン→求心性迷走神経→脳」軸の活性化による過食・肥満抑制. 第88回日本内分泌学会学術総会, 2015. 4. 23-25, 東京
学会99	岩崎有作, 前島裕子, 吉田昌史, 荒井健, 須山成朝, 桂田健一, 中林肇, 加計正文, 矢田俊彦: 末梢Oxytocin は求心性迷走神経を活性化して摂食を抑制する. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日~23日
学会100	Enkh-Amar Ayush, 岩崎有作, 岩本禎彦, 矢田俊彦: グルカゴンは求心性迷走神経に直接作用し活性化させる: 摂食調節への役割. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日~23日
学会101	出崎克也, Rita Rauza Sukma, 加計正文, 矢田俊彦: Kv2.1チャンネル阻害はGLP-1誘発インスリン分泌を増強し2型糖尿病の耐糖能を改善する. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日~23日
学会102	中田正範, Darambazar Gantulga, 王磊, 矢田俊彦: 室傍核NUCB2/nesfatin-1ニューロンによる摂食調節. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日~23日

学会103	小沢一世、岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> ：GLP-1 末梢投与によるアドレナリン分泌促進. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
学会104	桂田健一、前島裕子、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：脳の内因性GLP-1 は視床下部室傍核に作用し摂食を抑制する. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
学会105	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、荒井健、須山成朝、桂田健一、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：オキシトシン末梢投与による求心性迷走神経を介した摂食抑制作用. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
学会106	河野大輔、佐々木努、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部弓状核の甘味受容体による摂食調節機構. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
学会107	中田正範、小平美里、王磊、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> ：低血糖に対する糖代謝応答におけるPituitary adenylate cyclase activating polypeptide の意義. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
学会108	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンによる求心性迷走神経の活性化：過食・肥満IRS2 KO マウスにおける障害および膵臓内パラクリン作用. 第68回日本栄養・食糧学会大会(札幌) 2014年5月30日～6月1日
学会109	出崎克也、Rita Rauza Sukma、Boldbaatar Damdindorj、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンはGLP-1の膵・細胞インスリン分泌促進作用を抑制する. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
学会110	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンによる求心性迷走神経の活性化と過食・肥満・糖尿病を呈するIRS2欠損マウスにおけるその障害. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
学会111	李恩旭、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：新規膵・細胞増殖因子Betatrophinの発現調節機構とその病態的意義. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
学会112	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部室傍核を介した代謝・食欲・血圧連関. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
学会113	小平美里、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：Angiotensin IIの新規中枢標的：室傍核Nesfatin-1ニューロン. 第51回日本臨床分子医学会学術集会(東京) 2014年4月11日～12日
学会114	出崎克也、リタ スクマ ラウザ、ボルドバーター ダムディンドルジェ、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンはGLP-1 のインクレチン効果を抑制する. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
学会115	前島裕子、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核オキシトシンの弓状核POMCニューロンを介した新規摂食抑制神経経路. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
学会116	前川文彦、藤原研、鳥谷真佐子、野原恵子、 <u>矢田俊彦</u> ：全身エネルギー代謝におけるBDNF の役割と糖尿病性内臓肥満症における治療可能性. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
学会117	岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> ：膵ホルモンは求心性迷走神経を介して脳に作用し、食欲を調節する. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
学会118	出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> ：Zucker Fattyラットの肥満初期における血中グレリン動態. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日

学会119	楊怡飛、前島裕子、佐久間和哉、オトゴンウール ゼセムドルジェ、プトラ サントソ、岩崎有作、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：抗肥満作用のある抗鬱剤ブプロピオンがインスリン分泌に与える影響。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会120	Rauza Sukma Rita、出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> ：Glucose-induced insulin release is enhanced by blockade of Kv2.1 channels in β -cell. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会121	小平美里、 <u>矢田俊彦</u> ：摂食・代謝中枢室傍核Nesfatin-1ニューロンのAngiotensin II 応答。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会122	荒井健、前島裕子、藤塚直樹、 <u>矢田俊彦</u> ：5-HTによるARCPOMCニューロン活性化に対する六君子湯とisoliquiritigeninの抑制作用。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会123	田口昌延、出崎克也、服部智久、春田英律、小泉大、細谷好則、佐田尚宏、安田是和、 <u>矢田俊彦</u> ：胃全摘ラットの摂食・体重低下に対する六君子湯の改善効果。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会124	桂田健一、前島裕子、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：GLP-1は視床下部室傍核の摂食関連ペプチドニューロンを活性化する。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会125	オトゴンウール ゼセムドルジェ、前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：末梢投与オキシトシンの抗肥満・抗メタボリックシンドローム効果。第34回日本肥満学会、第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会126	プトラ サントソ、前島裕子、楊怡飛、オトゴンウール ゼセムドルジェ、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核 (PVN) のnesfatin-1/NUCB2ニューロンはPACAPによって制御されている。第34回日本肥満学会(東京)2013年10月11日～12日
学会127	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Enkh-Amar Ayush、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：膵臓を支配する求心性迷走神経は膵臓から分泌されるインスリンを効率良く受容する。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会128	河野大輔、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> ：甘味受容体による視床下部弓状核ニューロンの活性調節。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会129	李恩旭、小平美里、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：高脂肪食負荷による肝臓LAR Tyrosine Phosphatase発現増強とインクレチンPACAPの役割。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会130	前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、Otgong-Uul Zesemdorj、Putra Santoso、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核オキシトシン-弓状核POMCの双方向性摂食抑制神経経路。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
学会131	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核Nesfatin-1/NUCB2ニューロンによる代謝・循環調節。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日

(部門名) 人類遺伝学研究所

通し番号	
学会132	横田万葉、 <u>岩本禎彦</u> 、渡邊和寿、山口琢磨、吉田健。非肥満非アルコール性脂肪肝のゲノムワイド関連解析と機能的検証。日本人類遺伝学会 第62回大会(神戸) 2017年11月15日～18日

学会133	山口琢磨、吉田健、横田万葉、渡邊和寿、中山一大、岩本禎彦. 便潜血検体を用いた腸内マイクロバイオーム解析の検討. 第38回日本肥満学会 (大阪) 2017年10月7日~8日
学会134	Iwamoto S, Boonvisut S, Yoshida K, Watanabe K, Nakayama K. Rare variants in MTP, PNPLA3 and TM6SF2 genes associated with NAFLD in Japanese general population. International Conference on Fatty Liver, Seville, Spain, June 1-3, 2017
学会135	Yoshida K, Nakayama K, Watanabe K, Iwamoto S, Kawai Y, Kojima K, Nagasaki M. Genome-wide association study of non-obese NAFLD in Japanese. International Conference on Fatty Liver, Seville, Spain, June 1-3, 2017
学会136	Nakayama K, Ohashi J, Munkhtulga L, Iwamoto S: Detection of Population Specific Signals of Positive Selection in Mongolians. The 13th International Congress of Human Genetics. Kyoto, Japan, April 3-7, 2016
学会137	Boonvisut S, Iwamoto S, Nakayama K, Watanabe K: Genetic and functional assessment of rare alleles of NAFLD susceptibility loci in Japanese. 2016 The 13th International Congress of Human Genetics, Kyoto, Japan, April 3-7, 2016
学会138	渡邊和寿、Supichaya Boonvisut、中山 一大、Leibel Rudolph、岩本禎彦. 新規糖尿病感受性遺伝子Ildr2の機能解析. 第58回 日本糖尿病学会 (山口) 2015年5月21-24日
学会139	中山一大, 大橋順、ルハグワスレン・ムンフトルガ、岩本禎彦. 高密度SNPジェノタイプピングによるモンゴル人特異的な自然選択の検出 第69回日本人類学会大会 (東京) 2015年10月11日
学会140	Supichaya Boonvisut、渡邊和寿、中山一大、岩本禎彦. Resequencing analysis of NAFLD associated genes in 950 Japanese males. 日本人類遺伝学会 第60回大会 (新宿) 2015年10月14-17日
学会141	岩本禎彦、巻嶋咲穂、Supichaya Boonvisut、渡邊和寿、中山一大. 血清脂質関連遺伝子TRIB1の肝臓脂質レベル調節メカニズム. 第36回日本肥満学会 (名古屋) 2015年10月2-3日
学会142	Iwamoto S, Makishima S, Boonvisut S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K: Novel binding partners of TRIB1 involved in lipid metabolisms.the 2015 tribbles meeting, Budapest, Hungary, April 22-24, 2015
学会143	Boonvisut S, Makishima S, Watanabe K, Nakayama K, Iwamoto S. Minor allele of SNPs in NCAN-CILP2 region negatively affect on plasma triglyceride but positively on LDL in Japanese. 日本人類遺伝学会第59回大会 (東京) 2014年11月20日
学会144	Makishima, S., Boonvisut, S., Watanabe, K., Nakayama, K., Iwamoto, S: A novel pathway involved in the susceptibility of non-alcoholic fatty liver diseases. American Society of Human Genetics 64th Annual Meeting, San Diego, USA, October 18-22, 2014
学会145	Boonvisut S, Makishima S, Watanabe K, Nakayama K, Iwamoto S: Functional fine mapping of the genes involved in plasma lipid metabolism in the LD-block of NCAN/CILP2/PBX4 region. American Society of Human Genetics 64th Annual Meeting, San Diego, USA, October 18-22, 2014
学会146	中山一大、大橋順、ムンフトルガ・ルハグワスレン、香川靖雄、宮下 洋、岩本禎彦. 多様な生活習慣をもつアジア・オセアニア人集団のゲノム情報の比較研究. 日本人類遺伝学会第59回大会 (東京) 2014年11月20日

学会147	中山一大、大橋順、香川靖雄、 <u>岩本禎彦</u> 。アジア・オセアニア人における代謝特性の民族差の理解を目指したゲノムワイドSNP研究。第68回日本人類学会大会（浜松）2014年11月1日
学会148	中山一大、宮下洋、渡邊和寿、巻嶋咲穂、Boonvisut Supichaya、 <u>岩本禎彦</u> 。GIPおよびGIPRの遺伝的多型は日本人成人の内臓脂肪蓄積と関連する。第35回日本肥満学会（宮崎）2014年10月25日
学会149	渡邊和寿、中山一大、Leibel Rudolph、 <u>岩本禎彦</u> 。新規糖尿病感受性遺伝子Ildr2の機能解析。第35回日本肥満学会（宮崎）2014年10月24日
学会150	中山一大、大橋順、Munkhtulga Lkhagvasuren、宮下洋、 <u>岩本禎彦</u> 。モンゴル人と東アジア農耕民族の代謝特性の解明を目指したゲノム人類学研究。第68回日本栄養・食糧学会大会（札幌）2014年5月31日
学会151	中山一大、宮下洋、 <u>岩本禎彦</u> 。UCP1-3826G/Aが内臓脂肪蓄積に及ぼす影響の季節性。日本人類遺伝学会第58回大会（仙台）2013年11月20-23日
学会152	中山一大、大橋順、ムンフトルガ・ルハグワスレン、 <u>岩本禎彦</u> 。モンゴル人の代謝特性の解明を目指したゲノムワイドSNP研究。第67回日本人類学会大会（つくば）2013年11月2日
学会153	中山一大、宮下洋、柳沢佳子、 <u>岩本禎彦</u> 。熱産生関連遺伝子多型が内臓脂肪蓄積に及ぼす影響の季節性。第68回日本生理人類学会（金沢）2013年6月8日
学会154	巻嶋咲穂、Boonvist Supichaya、森川千絵、中山一大、 <u>岩本禎彦</u> 。新規肝臓脂質レベル調節分子の同定。第33回日本肥満学会（東京）2013年10月11-12日
学会155	Boonvisut Supichaya、巻嶋咲穂、森川千絵、中山一大、 <u>岩本禎彦</u> 。Functional screening of NCAN-CILP2 region for the genes involved in plasma lipid metabolism. 日本人類遺伝学会第58回大会（仙台）2013年11月20-23日

(部門名) 内分泌代謝学部門

通し番号	
学会156	坂井謙斗、永島秀一、高橋学、山室大介、五十嵐正樹、岡崎啓明、大須賀淳一、石橋俊。マウス腹腔MΦの細胞内コレステリルエステル水解機構 - Lipeおよび Nceh1に対する阻害剤を用いた解析。第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会（東京）2013年7月18-19日
学会157	Sakai K, Nagashima S, Takahashi M, Yamamuro D, Yagyu H, Osuga J, <u>Ishibashi S</u> . Pharmacological evidence for the dominant role of neutral CE hydrolase 1 in the hydrolysis of CE in murine macrophages. 81st European Atherosclerosis Society Congress, Lyon, France, June 2-5, 2013
学会158	高橋学、野牛宏晃、永島秀一、岡田健太、大城太一、大須賀淳一、石橋俊。Macrophage lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis, but not obesity. 第44回日本動脈硬化学会総会・学術集会。第44回日本動脈硬化学会総会・学術集会（福岡）2012年7月19-20日
学会159	Takahashi M, Yagyu H, Nagashima S, Oshiro T, Okada K, Osuga J, Goldberg IJ, <u>Ishibashi S</u> . Macrophage Lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis, but not obesity. American Diabetes Association 72nd scientific sessions, Philadelphia, PA, USA, June 8-12, 2012

(部門名) 腎臓内科学部門

通し番号	
*学会160	Murakami T, Masuda T, Kohara M, Shiizaki K, Akimoto T, Honma S, Watanabe Y, Saito O, Kusano E, Asano Y, Kuro-O M, <u>Nagata D</u> : Nocturnal Intermittent Hypoxia is Associated with Elevated Circulating Fibroblast Growth Factor 21 in End-stage Renal Disease. ASN Kidney Week 2017, New Orleans, USA, Oct 31- Nov 5, 2017
*学会161	Okada M, Masuda T, Kohara M, Yoshizawa H, Miki A, Nakagawa S, Ohara K, Murakami T, Hishida E, Myoga H, Shuto M, Watanabe Y, Saito O, Akimoto T, Muto S, Kuro-O M, <u>Nagata D</u> : Association between Circulating Fibroblast Growth Factor 21 and Body Composition in Chronic Kidney Disease. ASN Kidney Week 2017, New Orleans, USA, Oct 31- Nov 5, 2017
*学会162	Kohara M, Masuda T, Shiizaki K, Akimoto T, Watanabe Y, Honma S, Sekiguchi C, Miyazawa Y, Kusano E, Kanda Y, Asano Y, Kuro-O M, <u>Nagata D</u> : Serum Fibroblast Growth Factor 21 Predicts All-Cause Mortality in End-Stage Renal Disease. ASN Kidney Week 2016, Chicago, USA, Nov 15-20, 2016
*学会163	小原麻里菜, 増田貴博, 椎崎和弘, 秋元哲, 本間寿美子, 渡邊裕子, 齋藤修, 武藤重明, 草野英二, 浅野泰, 黒尾誠, 長田太助, 黒尾誠: 透析患者の血中FGF21高値は生命予後悪化の危険因子である. 第59回日本腎臓学会学術総会(横浜) 2016年6月17日~19日

(部門名) アレルギー膠原病学部門

通し番号	
学会164	友政弾、石澤彩子、室崎貴勝、釜田康之、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> : 成人発症Still病の加療中に可逆性後頭葉白質脳症をきたした1例. 第635回日本内科学会関東地方会(東京) 2017年9月9日
学会165	室崎貴勝、中村博大、秋山陽一郎、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> : 指趾の末梢循環障害と好酸球増多を来した食道癌の一例. 第66回日本アレルギー学会学術大会(東京) 2017年6月17日
学会166	長嶋孝夫、本根杏子、武田孝一、室崎貴勝、釜田康行、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> : 抗シトルリン化ペプチド抗体の関節リウマチ治療への影響. 第114回日本内科学会総会(東京) 2017年4月14日
学会167	桐野洋平、川口鎮司、多田芳史、塚本浩、大田俊行、岩本雅弘、長澤浩平、武井修治、堀内孝彦、市田久恵、高橋裕樹、 <u>簗田清次</u> 、上田敦久、大田明英、石ヶ坪良明: 成人スティル病における血清フェリチンとヘムオキシゲナーゼ1の分類への有用性: 多施設共同研究の第3報. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会(福岡) 2017年4月21日
学会168	室崎貴勝、永谷勝也、秋山陽一郎、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> : 関節リウマチ患者におけるメトトレキサート治療中の平均赤血球容積の増加と赤血球中メトトレキサート濃度との相関. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会(福岡) 2017年4月21日

学会169	島菜月、長嶋孝夫、秋山陽一郎、永谷勝也、岡崎仁昭、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：ルー プス腎炎の合併が疑われたFelty症候群の一例。第61回日本リウマチ学会総会・学術 集会（福岡）2017年4月21日
*学会170	日下寛惟、永谷勝也、室崎貴勝、佐藤健夫、 <u>箕田清次</u> ：当施設のRA患者における バイオフリー寛解40症例の3年間の前向き観察研究 - 再燃時の罹患関節の一致率の解 析 - 。第61回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017年4月21日
学会171	釜田康行、 <u>箕田清次</u> ：National Databaseを用いた日本におけるリウマチ治療の解 析。第61回日本リウマチ学会総会・学術集会，福岡，2017年4月21日
学会172	秋山陽一郎、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：グルココルチコイド及びカルシニューリン阻害 薬治療中の間質性肺炎合併炎症性筋炎4例に対するメトトレキサート追加投与の効果 の検討。第61回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017年4月22日
学会173	秋山陽一郎、佐藤健夫、室崎貴勝、永谷勝也、 <u>箕田清次</u> ：関節リウマチ患者におけ る赤血球中ポリグルタメート化メトトレキサート濃度と肝障害との関連について。 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017年4月21日
学会174	Murosaki, T., Sato, T., Akiyama, Y., Nagatani, K., <u>Minota, S.</u> : Analysis of the incidence and type of adverse events resulted in the discontinuation of immunosuppressant in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody- associated vasculitis: A single center study in Japan. ANCA 2017, Tokyo, Japan, March 27, 2017
学会175	黒崎綾子、島菜月、室崎貴勝、釜田康行、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：肥厚性 硬膜炎に視神経周囲炎を合併し視力低下をきたした多発血管炎性肉芽腫症の1例。 第631回関東地方会（東京）2017年3月11日
学会176	室崎貴勝、島菜月、渡邊秀平、本根杏子、釜田康行、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ： Gerstmann症候群を認めたSLE脳血管炎の一例。第27回日本リウマチ学会関東支部学 術集会（東京）2016年12月3日
学会177	秋山陽一郎、岸本恵美、小宮根真弓、大槻マミ太郎、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：アダリ ムマブ80mg投与後再燃し、ミゾリビン併用で再び改善した維持透析中乾癬性関節炎 の1例。第31回日本乾癬学会学術大会（宇都宮）2016年9月3日
学会178	室崎貴勝、島菜月、大野和寿、釜田康行、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：肝サル コイドーシスを合併したSAPHO症候群の一例。第44回日本臨床免疫学会総会（東京） 2016年9月9日
学会179	齊藤圭介、島菜月、武田孝一、石澤彩子、釜田康行、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ： 帯状疱疹による膀胱直腸障害を合併した1例。第626回関東地方会（東京）2016 年9月10日
学会180	長嶋孝夫、釜田康行、岩本雅弘、岡崎仁昭、 <u>箕田清次</u> ：抗アミノアシルトRNA合成酵 素抗体陽性患者の生命予後。第65回日本アレルギー学会学術大会（東京）2016年6月 18日
学会181	室崎貴勝、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>箕田清次</u> ：ANCA関連血管炎での自己 抗体陽性率と臨床像との関連についての検討。第60回日本リウマチ学会総会・学術 集会（横浜）2016年4月23日
学会182	本根杏子、ジャワヒア ダミニ、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：関節リウマチに対するTNF阻 害薬薬剤応答性のゲノムワイド関連解析：治療後2時点の反応性を考慮した検討。第 60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月21日
学会183	武田孝一、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>箕田清次</u> ：タクロリムス 投与中の関節リウマチ患者に発症した、EBER1陽性免疫不全関連ホジキンリンパ腫の 一例。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月23日

学会184	島菜月、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：50歳以上で診断された大血管炎患者の臨床的特徴。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月23日
学会185	吉尾卓、岡本完、廣畑俊成、 <u>簗田清次</u> ：中枢神経障害合併のシェーグレン症候群（SS）とベーチェット病（BD）の髄液サイトカイン/ケモカインプロファイルの検討。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月22日
学会186	秋山陽一郎、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> ：嚥下障害、筋炎再燃に対しガンマグロブリン大量療法後、化学療法が再開できた肺癌合併皮膚筋炎の1例。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月23日
学会187	桐野洋平、川口鎮司、多田芳史、塚本浩、岩本雅弘、大田俊行、長澤浩平、武井修治、堀内孝彦、市田久恵、高橋裕樹、 <u>簗田清次</u> 、上田敦久、大田明英、石ヶ坪良明：成人ステイル病における血清フェリチンとヘムオキシゲナーゼ1の診断への有用性：多施設共同研究の第2報。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会（横浜）2016年4月21日
学会188	長嶋孝夫、秋山陽一郎、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：治療抵抗性の多発血管炎性肉芽腫症に対するリツキシマブの治療効果。第113回日本内科学会総会（東京）2016年4月15日
学会189	Yoshio, T., Okamoto, H., Hirohata, S., <u>Minota, S.</u> ：The profiles of cytokines/chemokines in the cerebrospinal fluid of patients with central nervous system involvement of connective tissue diseases. 10th International congress on autoimmunity, Leipzig, Germany, April 8, 2016
学会190	藤倉佐和子、室崎貴勝、秋山陽一郎、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：強皮症を合併し肺胞出血を繰り返したSlowly progressive microscopic polyangiitisが疑われた1例。第622回日本内科学会関東地方会（東京）2016年3月12日
学会191	室崎貴勝、石澤彩子、佐野照弘、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：著明な膝関節炎とCRP高値、アルドラーゼ高値を伴った好酸球性血管浮腫の一例。第26回日本リウマチ学会関東支部学術集会(宇都宮)2015年12月5日
学会192	石澤彩子、室崎貴勝、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：治療中に下肢虚血・壊死をきたし緊急下肢切断術を施行したIgA血管炎の1例。第43回日本臨床免疫学会総会(神戸)2015年10月22日
学会193	花井俊一朗、永谷勝也、秋山陽一郎、石澤彩子、長嶋孝夫、佐藤健夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：Sjogren症候群が疑われた竹節状声帯の一例。第43回日本臨床免疫学会総会(神戸) 2015年10月23日
学会194	石井英輔、石澤彩子、釜田康行、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：全身性エリテマトーデス治療中に痛風による多関節炎をきたした1例。第617回日本内科学会関東地方会(東京) 2015年9月12日
学会195	石澤彩子、秋山陽一郎、花井俊一朗、武田孝一、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：両側反回神経麻痺をきたした好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例。第64回日本アレルギー学会学術大会(東京)2015年5月26日
学会196	石澤彩子、岩本雅弘、長嶋孝夫、永谷勝也、釜田康行、秋山陽一郎、本根杏子、丸山暁人、室崎貴勝、武田孝一、中村潤、 <u>簗田清次</u> ：当科入院中に転倒を経験したりウマチ性疾患患者の特徴についての検討。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月25日
学会197	花井俊一朗、秋山陽一郎、石澤彩子、武田孝一、永谷勝也、佐藤健夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：頸部に限局した肉芽腫性血管炎に慢性好酸球性肺炎が続発した1例。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月25日
学会198	秋山陽一郎、佐藤健夫、室崎貴勝、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：過去15年における関節リウマチ患者に合併した感染症の予後因子と変化の検討。第59回 日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月24日
学会199	室崎貴勝、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：赤血球内MTX-PG濃度とMTXの有効性についての検討。第59回 日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月24日

学会200	佐藤健夫、室崎貴勝、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：ANCAサブタイプに基づくANCA関連血管炎の呼吸器系病変の臨床像と臨床経過の比較。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月23日
*学会201	永谷勝也、室崎貴勝、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> ：当施設におけるバイオフィリー寛解40症例の2年間の前向き観察研究。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月23日
学会202	島菜月、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：当院における巨細胞性動脈炎の臨床的特徴。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会(名古屋)2015年4月23日
学会203	長嶋孝夫、岩本雅弘、釜田康行、永谷勝也、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> ：リウマチ膠原病患者に発症したニューモシスチス肺炎43例の臨床的検討。第111回日本内科学会総会(東京)2014年4月12日
学会204	Murosaki,T., Sato,T., Akiyama,Y., Nagatani,K., <u>Minota,S.</u> : Clinical Characteristics of Japanese Patients with Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody: Comparison between Antibody to Myeloperoxidase and Proteinase 3. 9th International Congress on Autoimmunity 2014, Nice, France, March 29, 2014
学会205	Akiyama,Y., Sato,T., Murosaki,T., Nagatani,K., <u>Minota,S.</u> : Changes in the Type and Prognosis of Infectious Complications in Patients with Rheumatoid Arthritis in the Last 15 years in Japan. ACR 2014 Annual Meeting, Boston, USA, November 17, 2014
学会206	Murosaki,T., Sato,T., Akiyama,Y., Nagatani,K., <u>Minota,S.</u> : Clinical Characteristics of Japanese Patients with Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody: Comparison between Antibody to Myeloperoxidase and Proteinase 3. ACR 2014 Annual Meeting, Boston, USA, November 17, 2014
学会207	中村潤、丸山暁人、花井俊一朗、石澤彩子、室崎貴勝、釜田康行、本根杏子、佐藤健夫、長嶋孝夫、岩本雅弘、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：難治性心膜炎に対してコルヒチンが有効であった混合性結合組織病の1例。第25回日本リウマチ学会関東支部学術集会(横浜)2014年12月14日
学会208	井元和代、室崎貴勝、小川真由子、武田孝一、秋山陽一郎、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：乾癬性関節炎に合併したSLEの1例。第608回日本内科学会関東地方会(東京)2014年9月13日
学会209	丸山暁人、長嶋孝夫、室崎貴勝、釜田康行、永谷勝也、吉尾卓、岡崎仁昭、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：急性膵炎を合併したSLEの3例。第42回日本臨床免疫学会(東京)2014年9月26日
学会210	秋山陽一郎、長嶋孝夫、石澤彩子、室崎貴勝、丸山暁人、本根杏子、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：抗PL-12抗体陽性患者5例の臨床的検討。第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)2014年4月26日
学会211	長嶋孝夫、釜田康行、丸山暁人、室崎貴勝、永谷勝也、本根杏子、石澤彩子、中村潤、秋山陽一郎、吉尾卓、岩本雅弘、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> ：皮膚潰瘍を生じた皮膚筋炎の臨床的特徴。第58回日本リウマチ学会総会・学術大会(東京)2014年4月25日
学会212	室崎貴勝、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：当科でのANCA陽性患者の臨床像の検討。第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)2014年4月25日
学会213	武田孝一、秋山陽一郎、中村潤、永谷勝也、長嶋孝夫、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> ：後天性血友病Aを合併し後天性von Willebrand症候群も疑われたSLEの1例。第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)2014年4月25日

学会214	花井俊一郎、佐藤健夫、武田孝一、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：ミノサイクリンによる薬剤誘発性ループスの1例。第58回日本リウマチ学会総会・学術集会（東京）2014年4月25日
学会215	大館花子、室崎貴勝、丸山暁人、本根杏子、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ：関節リウマチと酷似した症状を呈した先端巨大症の1例。第604回日本内科学会関東地方会（東京）2014年3月8日
学会216	Yoshio, T., Okamoto, H., Kurasawa, K., Dei, Y., Hirohata, S., <u>Minota, S.</u> : The presence of IgG-immune complexes in the cerebrospinal fluids is associated with central neurocyhiatric manifestatin but not with intrathecal production of proimmflammatory cytokines/chemokines such as interferon- α in systemic lupus erythematosus. ACR 2013 Annual Meeting, San Diego, USA, October 28, 2013
学会217	釜田康行、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：副腎皮質ステロイドが血清・関節液MMP-3に与える影響。第26回日本アレルギー学会春季臨床大会（京都）2014年5月9日
学会218	長嶋孝夫、丸山暁人、中村潤、石澤彩子、室崎貴勝、秋山陽一郎、釜田康行、永谷勝也、岩本雅弘、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> ：炎症性筋疾患の関節症状と自己抗体との関係。第63回日本アレルギー学会秋季学術大会（東京）2013年11月28日
学会219	中村潤、長嶋孝夫、永谷勝也、吉尾卓、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：B型肝炎ウイルス既感染関節リウマチ患者への生物学的製剤投与と再活性化。第63回日本アレルギー学会秋季学術大会（東京）2013年11月28日
学会220	丸山暁人、長嶋孝夫、石澤彩子、室崎貴勝、本根杏子、釜田康行、永谷勝也、吉尾卓、岡崎仁昭、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：当科におけるループス腸炎の臨床的検討。第41回日本臨床免疫学会総会（下関）2013年11月28日
学会221	Nakamura, J., Nagashima, T., Nagatani, K., Yoshio, T., Iwamoto, Y., <u>Minota, S.</u> : Incidence of hepatitis B virus reactivation in patients with rheumatoid arthritis during treatment with biologics. ACR 2013 Annual Meeting, San Diego, USA, October 28, 2013
学会222	室崎貴勝、秋山陽一郎、永谷勝也、渡部貴裕、長嶋孝夫、 <u>簗田清次</u> ：肺高血圧症とSLE様の所見を伴った、原発性Sjögren症候群合併Basedow病の一例。第22回日本シェーグレン症候群学会学術集会（大阪）2013年9月14日
学会223	釜田康行、 <u>簗田清次</u> ：副腎皮質ステロイドによる膠原病合併症肺高血圧症の治療。第2回日本肺循環学会学術集会（東京）2013年6月22日
学会224	西村貴裕、皆方大佑、中村潤、室崎貴勝、釜田康行、長嶋孝夫、金井信 <u>簗田清次</u> ：強皮症の経過中に半月体形成性糸球体腎炎を合併した1例。第596回日本内科学会関東地方会（東京）2013年5月11日
学会225	中村潤、秋山陽一郎、上田佳孝、永谷勝也、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：血清TARC高値であったnon-episodic angloedema with eosinophiliaの1例。第25回日本アレルギー学会春季臨床大会（横浜）2013年5月11日
学会226	長嶋孝夫、永谷勝也、釜田康行、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、岩本雅弘、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> ：4種類の生物学的製剤による関節リウマチの治療効果・1年継続率の比較。第110回日本内科学会総会・講演会（東京）2013年4月14日
学会227	本根杏子、岩本雅弘、櫻井武男、磯武信、 <u>簗田清次</u> ：関節リウマチにおけるTNF阻害薬有効性の子測のためのGWAS解析。第57回日本リウマチ学会総会・学術集会（京都）2013年4月18日

学会228	石澤彩子、中村潤、室崎貴勝、池ノ谷紘平、丸山暁人、本根杏子、秋山陽一郎、釜田康行、永谷勝也、長嶋孝夫、岡崎仁昭、吉尾卓、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> ：関節リウマチ患者の疾患活動性に関する予後予測因子の検討。第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都) 2013年4月19日
学会229	長嶋孝夫、永谷勝也、岩本雅弘、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、釜田康行、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> ：エタネルセプト減量とその後の治療効果について。第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月19日
学会230	室崎貴勝、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> ： β -D-グルカン陽性関節リウマチ患者に対するTNF阻害薬の使用経験。第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月20日

(部門名) 産科学部門

通し番号	
学会231	Ogoyama M, Takahashi H, Kobayashi M, Nagayama S, Takahashi K, Suzuki H, Baba Y, Kuwata T, Usui R, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> . Hemostatic effect of Bakri Balloon: Single institute' s experience of 75 patients. 69th Scientific Meeting of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. 2017 April 15, Hiroshima (Abstract: Acta Obstet Gynecol Jap. 2017:69:606)
学会232	Takahashi H, Ogoyama M, Nagayama S, Ishida Y, Suzuki H, Baba Y, Kuwata T, Usui R, Takizawa T, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> . Changes in microRNA expressions in preeclamptic maternal blood: Sixty such micro RNA detected by microarray analysis (3D-gene chip) with global normalization. 69th Scientific Meeting of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. 2017 April 15, Hiroshima (Abstract: Acta Obstet Gynecol Jap. 2017:69:611)
学会233	高橋宏典, 馬場洋介, 鈴木寛正, 平嶋洋斗, 小古山 学, 薄井里英, 大口昭英, <u>松原茂樹</u> 。産褥出血に対する新たな止血法” holding the cervix”。第25回胎盤学会 雲仙市 2017年11月24日
学会234	島田春貴 (日本医科大学分子解剖), 山口祐樹 (日本電子), 熊澤敬美 (日本医科大学分子解剖), 高橋宏典, 大口昭英, 竹下俊行 (日本医科大学産婦人科), <u>松原茂樹</u> , 瀧澤俊広 (日本医科大学分子解剖)。シリアルブロックフェイス走査電顕を用いたヒト満期胎盤絨毛の構造解析。第25回胎盤学会 雲仙市 2017年11月24日
学会235	大口昭英, 平嶋周子, 高橋佳代, 鈴木寛正, <u>松原茂樹</u> 。妊娠高血圧症候群の発症に関連する胎盤由来分子マーカー。第25回胎盤学会 ワークショップ2 胎盤の生理と病理 雲仙市 2017年11月25日
学会236	平嶋 洋斗, 大口 昭英, 小古山 学, 永山 志穂, 鈴木 寛正, 馬場 洋介, 薄井 里英, <u>松原 茂樹</u> 。子宮腺筋症変性を示した妊婦の1例。第53回日本周産期・新生児医学会総会。横浜市。2017年7月17日 (日本周産期・新生児医学会雑誌2017; 53: 672)
学会237	杉山 瑞穂(自治医科大学 産婦人科), 馬場 洋介, 吉田 智香子, 齋藤 こよみ, 大橋 麻衣, 今井 賢, 新井 美幸, 鈴木 寛正, 高橋 宏典, 薄井 里英, 大口 昭英, <u>松原 茂樹</u> 。子宮腺筋症術後分娩の4例 頸管長短縮あり対なし。第133回関東連合産科婦人科学会。都市センターホテル。2017年6月17日 (関東連合産科婦人科学会誌 2017; 53: 672)

学会238	馬場洋介、高橋宏典、高橋佳代、桑田知之、松原茂樹。自然軽快した子宮動脈仮性動脈瘤の超音波所見の変化：症例報告。第90回日本超音波医学会学術集会 (Jpn J Med Ultrasonics 2017;44:S569)。宇都宮市。2017年5月27日。
学会239	馬場 洋介、高橋宏典、高橋佳代、平嶋洋斗、小古山学、廣瀬典子、永山志穂、堀江健司、森澤宏行、小林由香子、大橋麻衣、安部まさき、鈴木寛正、薄井里英、大口昭英、松原茂樹。蛋白/クレアチニン比と24時間尿中蛋白量との関係の再検討：検査時高血圧あり/なしに分けて。第53回日本周産期・新生児医学会総会。横浜市。2017年7月17日 (日本周産期・新生児医学会雑誌2017; 53: 491)
学会240	馬場洋介、高橋宏典、桑田知之、大口昭英、薄井里英、鈴木寛正、永山志穂、小古山学、新井良子、田村昂平、成見莉紗、松原茂樹。前置胎盤帝王切開：既往帝王切開回数および既往子宮内容除去術回数と母児周産期予後との関連。2017年4月14日 (日産婦誌2017; 69: 761) 広島グリーンアリーナ
学会241	平嶋洋斗、馬場洋介、高橋宏典、桑田知之、大口昭英、薄井里英、鈴木寛正、廣瀬典子、森澤宏行、齋藤こよみ、小林真実、松原茂樹。内子宮口に接する胎盤辺縁が、胎盤実質の場合と辺縁静脈洞の場合との周産期予後比率：辺縁前置胎盤91例の検討。2017年4月14日 (日産婦誌2017; 69: 762) 広島グリーンアリーナ
学会242	堀江健司、高橋宏典、新井美幸、馬場洋介、小林真実、高橋佳代、桑田知之、松原茂樹。静脈管欠損 (extrahepatic drainage type) と肝部分欠損との合併例。2017年4月16日 (日産婦誌2017; 69: 1016) 広島グリーンアリーナ
学会243	伊藤千紗、馬場洋介、石田洋一、平嶋洋斗、鈴木寛正、薄井里英、大口昭英、宇賀神 敦、中村仁康、松原茂樹。一次治療として選択的血管塞栓術 (IVR) を施行した分娩時腔壁血腫：症例報告 第86回栃木県産科婦人科学会学術講演会 とちぎ健康の森 2017年9月3日
学会244	伊東孝晃、種市明代、日置智之、神谷浩二、大槻マミ太郎、藤本揚子、織田恭子、高橋寿々代、町田静生、竹井裕二、藤原寛行、松原茂樹。悪性疾患との鑑別を要した外陰部侵襲性血管粘液腫：症例報告 第86回栃木県産科婦人科学会学術講演会 とちぎ健康の森 2017年9月3日
学会245	森澤宏行、藤原寛行、竹井裕二、町田静生、高橋詳史、葎葉貴弘、種市明代、嵯峨泰、松原茂樹、鈴木光明、細胞診—HPV検査併用子宮頸がん検診の開始推奨年齢の検討。第69回日本産科婦人科学会総会。2017年4月14日 (日産婦誌2017; 69: 672) 広島グリーンアリーナ
学会246	永山志穂、桑田知之、小林真実、小古山学、鈴木寛正、高橋宏典、馬場洋介、薄井里英、大口昭英、松原茂樹。子宮摘出を要する癒着胎盤予知因子：24例の後方視的研究。2017年4月14日 (日産婦誌2017; 69: 762) 広島グリーンアリーナ
学会247	大口昭英、鈴木寛正、瀧澤 俊広、白砂孔明、松原茂樹。60回日本腎臓学会学術総会シンポジウム10「周産期・新生児医学と腎臓病. 周産期・新生児医学と腎臓病 妊娠高血圧腎症の分子基盤(会議録) 日本腎臓学会誌 2017;59(3):200
学会248	大橋麻衣、高橋宏典、堀江健司、今井 賢、齋藤こよみ、永山志穂、鈴木寛正、馬場洋介、桑田知之、薄井里英、大口昭英、松原茂樹。妊産婦の深部静脈血栓症・肺塞栓症：単施設22例の検討。2017年4月15日 (日産婦誌2017; 69: 871) 広島グリーンアリーナ
学会249	坂本有希、若松修平、高橋宏典、桑田知之、小古山学、佐野実穂、薄井里英、今吉真由美、岡島 毅、斉藤 裕、小沼誠一、松原茂樹、常位胎盤早期剥離に伴う危機的出血に対する異型輸血運搬：症例報告。2017年4月15日 (日産婦誌2017; 69: 906) 広島グリーンアリーナ
学会250	鈴木寛正、大口昭英、永山志穂、小古山学、平嶋周子、高橋佳代、高橋宏典、馬場洋介、桑田知之、薄井里英、松原茂樹。妊娠前body mass index (BMI) 及び妊娠中の体重増加と妊娠高血圧症候群の発症。2017年4月16日 (日産婦誌2017; 69: 990) 広島グリーンアリーナ
学会251	高橋寿々代、竹井裕二、町田静生、種市明代、高橋詳史、平嶋洋斗、森澤宏行、吉田智香子、岩下あゆみ、嵯峨 泰、藤原寛行、松原茂樹。化学療法ハイリスク症例に対するweekly TC療法の有効性と安全性。2017年4月16日 (日産婦誌2017; 69: 932) 広島グリーンアリーナ

学会252	竹井裕二、岩下あゆみ、町田静生、種市明代、高橋寿々代、葭葉貴弘、高橋詳史、平嶋洋斗、森澤宏行、嵯峨 泰、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。再発治療前リンパ球数は、再発卵巣癌の科学療法で腫瘍縮小効果を予測し得る。2017年4月16日（日産婦誌2017；69：932）広島グリーンアリーナ
学会253	高橋宏典、馬場洋介、桑田知之、堀江健司、高橋佳代、 <u>松原茂樹</u> 。骨形成不全症type胎児の超音波所見-症例報告-。第90回日本超音波医学会学術集会。宇都宮市。2017年5月26日（Jpn J Med Ultrasonics 2017;44:S677）。
学会254	瀧澤俊広、バニャータンナイン、高橋宏典、桑田知之、大口昭英、竹下俊行、 <u>松原茂樹</u> 。ヒト栄養膜細胞の絨毛外栄養膜細胞への分化においてDLK1-DIO3領域のRNA発現は低下する。2017年4月14日（日産婦誌2017；69：754）広島グリーンアリーナ
学会255	田川実紀、松田義雄、柿沼 薫、今井 賢、野中宏亮、柿沼敏行、大和田倫孝、 <u>松原茂樹</u> 。母子健康手帳の探索的分析からの不安妊婦を抽出できる。2017年4月14日（日産婦誌2017；69：777）広島グリーンアリーナ
学会256	田村昂平、高橋詳史、小林由香子、町田静生、竹井裕二、小林真実、有賀治子、高橋寿々代、種市明代、嵯峨 泰、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。OHVIRA症候群の1例。第85回栃木県産科婦人科学会学術講演会 とちぎ健康の森 2017年2月5日
学会257	斗澤昇平、鈴木寛正、佐野実穂、鈴木 潤、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。切迫早産妊婦の下痢症：偽膜性腸炎発症例。第42回栃木母性衛生学会総会 自治医科大学看護学部2017年6月24日
学会258	若松修平、高橋宏典、斎藤裕、堀江健司、坂本有希、岡島毅、 <u>松原茂樹</u> 。蛋白/クレアチニン比と24時間尿中蛋白量との関係の再検討：検査時高血圧あり/なしに分けて。第53回日本周産期・新生児医学会総会。横浜市。2017年7月16日（日本周産期・新生児医学会雑誌2017；53：545）。
学会259	葭葉貴弘、嵯峨 泰、佐藤尚人、高橋詳史、小柳貴裕、高橋寿々代、森澤宏行、町田静生、種市明代、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。新しい腫瘍マーカーHE4の卵巣漿液性がんにおける機能と治療標的としての可能性。2017年4月14日（日産婦誌2017；69：689）広島グリーンアリーナ
学会260	安部まさき、高橋寿々代、町田静生、杉山瑞穂、佐野実穂、新木美緒、種市明代、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。妊孕性温存術後、早期に再発した卵巣明細胞腫瘍（症例報告）第84回栃木県産科婦人科学会学術講演会 とちぎ健康の森 2016年9月4日
学会261	安倍まさき、高橋寿々代、町田静生、浅野歩未、今井賢、齋藤こよみ、大橋麻衣、馬場洋介、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。肺結節がHCG陰性化後も残存した絨毛がん症例。第83回栃木県産科婦人科学会 2016年2月7日。宇都宮。
学会262	新井良子、小林真実、薄井里英、馬場洋介、横山美樹、吉田智佳子、田村昂平、橘直之、鈴木寛正、桑田知之、 <u>松原茂樹</u> 。分娩子癩：妊婦検診正常血圧症例。第84回栃木県産科婦人科学会学術講演会 とちぎ健康の森 2016年9月4日
学会263	馬場洋介、 <u>松原茂樹</u> 、桑田知之、大口昭英、薄井里英、高橋宏典、鈴木寛正、廣瀬典子、永山志穂、小古山学、猿山美幸、平嶋洋斗。子宮動脈仮性脈瘤50例の検討：extravasation(-)例の特徴。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：775）東京国際フォーラム
学会264	馬場洋介、高橋宏典、高橋佳代、桑田知之、 <u>松原茂樹</u> 。経膈超音波で胎盤辺縁までの最短距離が計測不能な前置胎盤は同種血輸血の独立危険因子。第89回日本超音波医学会学術集会（Jpn J Med Ultrasonics 2016;43:S525）。2016年5月27日。京都市。
学会265	平嶋周子、大口昭英、高橋佳代、鈴木寛正、永山志穂、高橋宏典、馬場洋介、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 。妊娠後期前半の血清LIGHTを用いた妊娠高血圧腎症の発症予防。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月24日（日産婦誌2016；68：986）東京国際フォーラム

学会266	平嶋洋斗、竹井裕二、永島友美、岩下あゆみ、町田静生、種市明代、佐藤尚人、高橋寿々代、葭葉貴弘、高橋詳史、森澤宏行、嵯峨 泰、藤原寛行、松原茂樹。高齢者の卵巣癌治療成績。第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2016年7月8-10日。米子市。
学会267	堀江健司、高橋宏典、桑田知之、坂本有希、薄井里英、松原茂樹。母児間輸血症候群と周郭胎盤の合併：症例報告。第52回日本周産期新生児学会（日本周産期新生児学会雑誌 2016;52:743）。2016年7月18日。富山市。
学会268	今井賢、竹井裕二、町田静生、種市明代、佐藤尚人、高橋寿々代、葭葉貴弘、高橋詳史、森澤宏行、嵯峨泰、藤原寛行、松原茂樹。子宮頸癌の根治的放射線療法症例における治療前好中球数／リンパ球数比。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：702）東京国際フォーラム
学会269	今井賢、鈴木寛正、湯沢真梨子、平嶋洋斗、大橋麻衣、新木美緒、薄井里英、大口昭英、松原茂樹。帝王切開後の大量出血（症例報告）第83回栃木県産科婦人科学会2016年2月7日。宇都宮。
学会270	岩下あゆみ、竹井裕二、平嶋洋斗、永島友美、今井 賢、町田静生、種市明代、佐藤尚人、高橋寿々代、葭葉貴弘、高橋詳史、森澤宏行、嵯峨 泰、藤原寛行、松原茂樹。好中球/リンパ球比は再発卵巣癌の予後因子となり得る。第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2016年7月8-10日。米子市。
学会271	小林真実、大口昭英、岩下あゆみ、薄井里英、金井信行、永松健、松原茂樹。胎児発育不全を呈した多発胎盤梗塞（症例報告） 第131回関東連合産科婦人科学会総会都市センターホテル2016年6月19日
学会272	小柳貴裕、藤原寛行、碓井宏和、有賀治子、町田静生、種市明代、竹井裕二、嵯峨泰、生水真紀夫、松原茂樹。分子遺伝子学的手法により同一胚細胞由来と証明した卵巣非妊娠性絨毛癌・粘液癌共存の一例。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：642）東京国際フォーラム
学会273	小柳貴裕、藤原寛行、碓井宏和、有賀治子、町田静生、種市明代、竹井裕二、嵯峨泰、生水真紀夫、松原茂樹。Short tandem repeat解析により胚細胞由来と証明した卵巣原発非妊娠性絨毛癌・粘液癌共存の一例。第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2016年7月8-10日。米子市
学会274	桑田知之、高橋宏典、市塚清健、名取道也、松原茂樹。経膈探触子のHPV汚染－現状調査とHPV汚染防御の試み－。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：666）東京国際フォーラム
学会275	松原茂樹。術者friendlyな前置癒着胎盤cesarean hysterectomy。第52回日本周産期新生児学会（日本周産期新生児学会雑誌 2016;52:481-2）。2016年7月17日。富山市。
学会276	*永山志穂、大口昭英、高橋佳代、鈴木寛正、平嶋周子、松原茂樹。妊娠高血圧腎症ハイリスク妊婦における妊娠中の末梢血中のCD4+FoxP3+制御性T細胞の変化。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月24日（日産婦誌2016；68：788）東京国際フォーラム
学会277	小古山学、小林由香子、高橋宏典、馬場洋介、桑田知之、薄井里英、大口昭英、松原茂樹。妊娠中発症の多発性筋炎・切迫早産例。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月24日（日産婦誌2016；68：943）東京国際フォーラム
学会278	大橋麻衣、藤原寛行、種市明代、高橋詳史、森澤宏行、吉田智香子、高橋寿々代、佐藤尚人、町田静生、竹井裕二、嵯峨泰、松原茂樹。卵巣がん早期発見のために－受診契機の後方視的検討から。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：657）東京国際フォーラム
学会279	大口昭英、高橋佳代、猿山美幸、平嶋周子、鈴木寛正、永山志穂、高橋宏典、馬場洋介、薄井里英、松原茂樹。白衣高血圧症及び真性高血圧における妊娠高血圧腎症発生率。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月24日（日産婦誌2016；68：986）東京国際フォーラム

学会280	杉山瑞穂、永山志穂、薄井里英、鈴木寛正、馬場洋介、浅野歩未、高橋宏典、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。サイナソイダルパターンが出現した胎児先天性心疾患：症例報告。第41回栃木母性衛生学会総会 獨協医科大学2016年6月26日
学会281	高橋宏典、瀧澤俊広、 <u>松原茂樹</u> 。シンポジウム「トロホプラストリサーチ Current topics and future research」絨毛外栄養細胞の浸潤機構：CD44と胎盤特異的microRNA。第24回日本胎盤学会 和歌山 2016年11月25日（同抄録集62）
学会282	高橋宏典、桑田知之、馬場洋介、高橋佳代、 <u>松原茂樹</u> 。子宮底部血腫：帝王切開癒痕部妊娠の補助診断所見。第89回日本超音波医学会学術集会(Jpn J Med Ultrasonics 2016;43:S719)。2016年5月29日。京都市。
学会283	高橋宏典、堀江健司、小古山学、鈴木寛正、馬場洋介、桑田知之、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。癒着胎盤に伴う子宮全摘において出血量に関する因子の検討。第52回日本周産期新生児学会（日本周産期新生児学会雑誌 2016;52:664）。2016年7月16日。富山市。
学会284	高橋詳史、竹井裕二、町田静生、種市明代、佐藤尚人、高橋寿々代、葭葉貴弘、森澤宏行、岩下あゆみ、嵯峨泰、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。プラチナ抵抗性再発卵巣癌に対するリポソーム化ドキソルビシン単剤療法の有効性と安全性～ゲムシタビン単剤療法との比較～。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：661）東京国際フォーラム
学会285	瀧澤俊広、高橋宏典、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。絨毛外栄養膜細胞に発現している長鎖non-codingRNAの次世代シーケンス解析。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：709）東京国際フォーラム
学会286	竹井裕二、町田静生、種市明代、佐藤尚人、高橋寿々代、葭葉貴弘、高橋詳史、森澤宏行、吉田智香子、嵯峨泰、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。子宮体癌黄体ホルモン療法後生児を得た患者に対する予防的子宮全摘術の現状。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月23日（日産婦誌2016；68：637）東京国際フォーラム
学会287	森澤 宏行，大口 昭英，高橋 宏典，小古山 学，猿山 美幸，平嶋 周子，鈴木 寛正，馬場 洋介，薄井 里英， <u>松原 茂樹</u> 。糖尿病性慢性腎不全透析妊婦における血清sFlt-1、PlGF及びsEng変化。第52回日本周産期・新生児医学会総会。2016年7月16日（日本周産期・新生児医学会雑誌2016；52：503）富山国際会議場
学会288	小林 真実，大口 昭英，平嶋 周子，高橋 佳代，鈴木 寛正， <u>松原 茂樹</u> 。妊娠高血圧腎症妊婦における赤血球膜脂肪酸の ω 9 一価不飽和酸重量比率と血清PlGF濃度。第52回日本周産期・新生児医学会総会。2016年7月16日（日本周産期・新生児医学会雑誌2016；52：501）富山国際会議場。
学会289	横山美樹、種市明代、佐野実穂、小林由香子、葭葉貴弘、佐藤尚人、高橋寿々代、町田静生、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。DIC(Disseminated Intravascular Coagulation)を引き起こした子宮筋腫～症例報告～ 第131回関東連合産科婦人科学会総会 都市センターホテル2016年6月18日
学会290	葭葉貴弘、嵯峨泰、佐藤尚人、高橋詳史、小柳貴裕、高橋寿々代、森澤宏行、町田静生、種市明代、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。HPVのE6遺伝子を標的として新しいゲノム編集技術CRISPR/Cas9搭載アデノ随伴ウイルスベクターによる子宮頸がん治療に関する基礎研究。第86回日本産科婦人科学会総会。2016年4月24日（日産婦誌2016；68：612）東京国際フォーラム
学会291	葭葉貴弘、嵯峨 泰、佐藤尚人、高橋詳史、小柳貴裕、高橋寿々代、森澤宏行、町田静生、種市明代、竹井裕二、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。HPVのE6を標的としたCRISPR/Cas9搭載アデノ随伴ウイルスベクターの子宮頸がん細胞への効果。第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2016年7月8-10日。米子市。
学会292	馬場洋介、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木寛正、高橋宏典、薄井里英、大口昭英、 <u>鈴木光明</u> 。前置胎盤におけるTransplacental approachと新生児貧血の関連。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月11日（日本産科婦人科学会誌2015;67:798）

学会293	平嶋周子、大口昭英、高橋佳代、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。妊娠中期、後期前半の胎盤成長因子濃度とその後のSGA児及びsmall placenta発生との関連。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌 2015;67:509）
学会294	平嶋洋斗、竹井裕二、馬場洋介、猿山美幸、高橋詳史、町田静生、種市明代、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。子宮筋腫核出術後に未破裂で発見された子宮動脈仮性動脈瘤 -症例報告-。第130回関東連合産婦人科学会 幕張 2015年10月25日。（関東産婦誌 2015 ; 52 : 491）
学会295	木村円、鈴木寛正、大口昭英、森沢宏行、小古山学、馬場洋介、高橋宏典、廣瀬典子、猿山美幸、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 。子宮内反整復後の弛緩出血に対するMY縫合+Bakri バルーン (MY-sandwich) :症例報告。第129回関東連合産婦人科学会 2015年6月7日 東京都市センター (関東連合産婦人科会誌 2015 ; 52:291)
学会296	小林真実、廣瀬典子、大口昭英、大丸貴子、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。妊娠高血圧腎症における赤血球膜脂肪酸組成中の飽和、一価不飽和、 ω -3脂肪酸比率。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌 2015;67:913）
学会297	永山志穂、高橋佳代、大口昭英、平嶋周子、猿山美幸、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。糖尿病家族歴と妊娠糖尿病、妊娠高血圧あるいは妊娠高血圧腎症発症との関係。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:622）
学会298	永山志穂、高橋佳代、大口昭英、平嶋周子、猿山美幸、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> ：糖尿病家族歴、高血圧家族歴の妊娠糖尿病、妊娠高血圧、及び、妊娠高血圧腎症発症に及ぼす影響：多変量解析。第39回日本産婦人科栄養・代謝研究会（同抄録p15）。東京医科歯科大学 MDタワー。2015年8月22日
学会299	小川正樹、松田義雄、中井章人、林昌子、佐藤昌司、 <u>松原茂樹</u> 。出生児体重/胎盤重量比に関する研究：在胎週数別曲線の作成。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:633）
学会300	佐野実穂、鈴木寛正、薄井里英、桑田円、横山端浩、堀江健司、高橋宏典、馬場洋介、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。リトドリンの有害事象-心房細動（症例報告）- 第40回栃木県母性衛生学会 獨協医大 2015年6月27日
学会301	猿山美幸、大口昭英、高橋佳代、大丸貴子、平嶋周子、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。家庭血圧測定における変曲点の在胎週数、血圧レベル、及び、その後2週間の血圧増加速度を用いた妊娠高血圧腎症並びに妊娠高血圧の発症予知。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌 2015;67:922）
学会302	鈴木寛正、平嶋周子、大口昭英、高橋佳代、永山志穂、高橋宏典、猿山美幸、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。妊娠中期の血清galectin-1低値と、妊娠高血圧腎症及び妊娠高血圧の発症リスク。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌2015;67:912）
学会303	高橋宏典、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、薄井里英、桑田知之、馬場洋介、鈴木寛正、瀧澤俊広、鈴木光明。妊娠初期栄養膜細胞におけるa Disintegrin and Metalloproteinase (ADAM) ファミリーの発現：絨毛外栄養膜細胞浸潤へのADAM関与可能性。第67回日本産科婦人科学会 パシフィコ横浜 2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:508）
学会304	山口順子、高橋宏典、桑田知之、 <u>松原茂樹</u> ：胎児異常などを指摘された妊婦さんへのメンタルヘルス支援-自治医大附属病院における取り組み- 第12回周産期メンタルヘルスケア学会 自治医大 2015年10月31日。

学会305	Ohkuchi A, Hirashima C, Saruyama M, Takahashi K, Ohmaru T, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Prediction of preeclampsia using angiogenesis-related factors or home blood pressure monitoring. Workshop on the 46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy. September 19, 2014. Tokyo (Keio Plaza Hotel) (Hypertension research in pregnancy 2014; 2:70-71)
学会306	Saruyama M, Ohkuchi A, Takahashi K, Ohmaru T, Hirashima C, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . The existence of inflection point in home blood pressure monitoring at earlier gestational weeks in preeclampsia and gestational hypertension. 46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy. September 19, 2014. Tokyo (Keio Plaza Hotel) (Hypertension research in pregnancy 2014; 2:89)
学会307	安倍まさき、高橋詳史、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> ：妊娠27週で早産した母児リステリア症。第8回日本早産予防研究会 2014年11月15日 獨協医大
学会308	馬場洋介、 <u>松原茂樹</u> 、桑田知之、大口昭英、薄井里英、猿山美幸、 <u>鈴木光明</u> 。子宮動脈仮性動脈瘤は無侵襲的な分娩・流産後にも発症する：22例の検討。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月20日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 801)
学会309	馬場洋介、高橋宏典、大橋麻衣、齋藤こよみ、薄井里英、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。MD双胎1児死亡後の生存児脳形態異常：妊娠8週での1児死亡後に認められた変化。第80回栃木県産婦人科科学会 2014年9月7日。宇都宮
学会310	堀江健司、永山志穂、薄井里英、大口昭英、神谷千津子、小森咲子、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。QT延長症候群合併妊娠において胎児心磁図により先天性QT延長症候群が予測出来た1例。第127回関東連合産婦人科学会総会 日本都市センター。2014年6月22日 (関東連合産科婦人科学会雑誌 2014;51:267)
学会311	堀江健司、大口昭英、馬場洋介、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。切迫早産妊婦におけるリトドリンの副反応に対するイソクスプリンの効果。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月20日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 780)
学会312	今井賢、永山志穂、堀江健司、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。重症妊娠悪阻を契機に発見された汎血球減少症、真性甲状腺機能亢進症。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月20日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 809)
学会313	岩下あゆみ、馬場洋介、平嶋洋斗、佐藤尚人、高橋詳史、木村円、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。重症妊娠悪阻：腎不全・呼吸停止を示した症例。第80回栃木県産婦人科科学会 2014年9月7日。宇都宮
学会314	高橋宏典、弓削主哉、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、桑田知之、薄井里英、松本久宣、佐藤幸保、藤原浩、岡本愛光、瀧澤俊広、 <u>鈴木光明</u> 。CD44を介した絨毛外栄養細胞の浸潤調節機構の解明。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月18日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 433)
学会315	神戸沙織、弓削主哉、石田洋一、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 、齋藤滋、瀧澤俊広、竹下俊行。ヒト胎盤特異的マイクロRNAはエクソソームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾している。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月18日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 435)
学会316	小林真実、高橋佳代、大口昭英、鈴木寛正、有賀治子、廣瀬典子、平嶋周子、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊娠高血圧症候群既往歴は、血圧高値と子宮動脈血流速度異常とは独立した妊娠高血圧腎症の危険因子である。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月19日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 678)

学会317	桑田知之、市塚清健、名取道也、前山朝子、松原茂樹、鈴木光明. 経膈プローブHPV汚染：現状と対策。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月19日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 670)
学会318	永山志穂、桑田知之、堀江健司、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明。子宮動脈と卵巣動脈との両者塞栓を要した仮性動脈瘤。第66回日本産婦人科学会総会 東京国際フォーラム 2014年4月19日 (日本産科婦人科学会雑誌 2014 ; 66 : 697)
学会319	柴山幸奈、中野理恵、渡部睦美、松本美智子、山口順子、渡辺道子、桑田知之、松原茂樹、甲斐君枝、渡邊亮一。安静の違いによる妊婦の重心動揺の比較-切迫早産治療後の転倒予防の援助-。第39回栃木県母性衛生学会総会 獨協医大、2014年6月28日。
学会320	渡辺尚、木村円、内田真一郎、田中均、高橋詳史、薄井里英、松原茂樹。当科における開腹術後の静脈血栓予防。第24回日本産婦人科新生児血液学会。2014年6月13日。ワークピア横浜。
学会321	有賀治子、高橋佳代、大口昭英、永山志穂、桑田知之、相原敏則、前田貢作、小野滋、谷口周平、河田浩敏、松原茂樹、鈴木光明。胎児腎上部嚢胞性腫瘍の2例。126回関東連合産婦人科学会 2013年10月27日 浜松
学会322	馬場洋介、松原茂樹、桑田知之、薄井里英、大口昭英、鈴木光明。前壁付着の前置胎盤は帝切時大出血の独立危険因子である。第49回日本周産期新生児医学会学術集会 2013年7月15日、パシフィコ横浜 (日本周産期新生児医学会誌 2013 ; 49 : 688)
学会323	平嶋洋斗、鈴木寛正、戸代原加奈、薄井里英、桑田知之、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明：帝王切開後膿瘍へのドレナージのタイミング：症例報告。代38回栃木県母性衛生学会総会 2013年7月2日 宇都宮
学会324	廣瀬典子、桑田知之、小林真実、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明：産褥子宮摘出術14例(4年)の検討。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌プリンスホテル国際館パミール 2013年5月11日 (日本産科婦人科学会雑誌 2013 ; 65 : 767)
学会325	神戸沙織、吉武 洋、石田洋一、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明、齋藤 滋、瀧澤俊広、竹下俊行：妊娠末梢血natural killer細胞における胎盤特異的マイクロRNA標的遺伝子候補の検索。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌プリンスホテル国際館パミール 2013年5月12日 (日本産科婦人科学会雑誌 2013 ; 65 : 849)
学会326	神戸沙織、吉武 洋、石田洋一、瀧澤敬美、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明、竹下俊行、齋藤 滋、瀧澤俊広 エクソソームを介した胎盤特異的マイクロRNAによる胎盤免疫細胞間情報伝達機構。第31回日本胎盤学会 名古屋 2013年10月26日
学会327	小林真実、桑田知之、廣瀬典子、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明：産科疾患への血管内治療の有効性：当院6年37症例の経験。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌プリンスホテル国際館パミール 2013年5月11日 (日本産科婦人科学会雑誌 2013 ; 65 : 766)
学会328	桑田知之、松原茂樹。羊水中に浮かんで見える1本の血管から 卵膜付着とMangrove sign. 日本超音波医学会第86回学術集会 2013年5月24日 グランキューブ大
学会329	桑田知之、松原茂樹、廣瀬典子、小林真実、橘 直之、向田幸子、薄井里英、大口昭英、谷野 均、鈴木光明：前置胎盤術後出血に対する新規手術法(M-Y (Matsubara-Yano) sandwich法)の考案。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌市教育文化会館 2013年5月11日 (日本産科婦人科学会雑誌 2013 ; 65 : 830)

学会330	桑田知之、高橋宏典、猿山美幸、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。超音波カラー Doppler法を用いたPMD（間葉性異形成胎盤）の診断：症例報告 第49回日本周産期新生児医学会学術集会 2013年7月15日、パシフィコ横浜（日本周産期新生児医学会誌 2013；49：686）
学会331	<u>松原茂樹</u> 。key note speaker:帝王切開時大出血への新規対抗策 -MY sutureとMY sandwich- シンポジウム 「母児安全のための帝王切開の工夫」 第36回日本産婦人科手術学会 2013年9月28日 日経ホール 東京（講演抄録集78）
学会332	永島友美、溝口由香子、齋藤こよみ、廣瀬典子、薄井里英、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊婦の胆のう炎：胆のう切除を要した例。第77回栃木県産科婦人科学会。2013年1月27日 宇都宮
学会333	大口昭英、堀江健司、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。塩酸リトドリンの副反応とその対応について。第7回日本早産予防研究会学術集会。2013年11月23日 武蔵小杉（日本医大）
学会334	大丸貴子、大口昭英、高橋佳代、猿山美幸、鈴木寛正、平嶋周子、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> ：妊娠初期の外来血圧第1回目、2回目、3回目測定値を用いた妊娠高血圧症候群発症予知。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌市教育文化会館 2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌 2013；65：617）
学会335	齋藤こよみ、高橋宏典、薄井里英、鈴木はる奈、永島友美、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> ：肺動静脈瘻治療後に良好な転帰をとった遺伝性出血性毛細血管拡張症合併妊娠。第125回関東産科婦人科学会 東京 2013年6月16日（関東産科婦人科学会雑誌 2013；50：341）
学会336	猿山美幸、大口昭英、平嶋周子、高橋佳代、鈴木寛正、大丸貴子、有賀治子、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> ：妊娠初期に高血圧と診断された妊婦では、約半数が分娩時高血圧を呈する。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌市教育文化会館 2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌 2013；65：617）
学会337	猿山美幸、桑田知之、鈴木寛正、高橋宏典、馬場洋介、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。無症候性の産褥子宮内仮性動脈瘤：1ヶ月健診時診断の重要性。第49回日本周産期新生児医学会学術集会 2013年7月16日、パシフィコ横浜（日本周産期新生児医学会誌 2013；49：733）
学会338	鈴木寛正、桑田知之、高橋宏典、廣瀬典子、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。双胎1児の胎動消失感：急速発症TTTSによる胎児機能不全（症例報告） 第49回日本周産期新生児医学会学術集会 2013年7月15日、パシフィコ横浜（日本周産期新生児医学会誌 2013；49：652）
学会339	高橋宏典、吉武 洋、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、桑田知之、薄井里英、岡本愛光、 <u>鈴木光明</u> 、瀧澤俊広。CD44による絨毛外栄養細胞の浸潤機構：WNTシグナルによる促進。第31回日本胎盤学会 名古屋 2013年10月26日
学会340	高橋宏典、菊池邦正、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、桑田知之、薄井里英、松本久宣、佐藤幸保、藤原 浩、岡本愛光、瀧澤俊広、 <u>鈴木光明</u> ：MicroRNAを介した絨毛栄養膜細胞による絨毛外栄養膜細胞の浸潤制御。第65回日本産科婦人科学会総会 ロイトン札幌 2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌 2013；65：514）
学会341	高橋詳史、渡辺尚、木村円、田中均、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> ：血清が茶褐色を呈した内膜症嚢胞破裂の1例。第125回関東産科婦人科学会 東京 2013年6月16日（関東産科婦人科学会雑誌 2013；50：365）
学会342	内田真一郎、鈴木寛正、佐藤尚人、昇 千穂美、町田静生、桑田知之、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 、木村孔三。卵巣過剰刺激症候群を発症した胞状奇胎。第78回栃木県産科婦人科学会学術講演会 2013年9月1日、宇都宮市医師会館

学会343	葭葉貴弘、大口昭英、斉藤こよみ、馬場洋介、渡辺 尚、桑田知之、薄井里英、松原茂樹、鈴木光明：産科異常出血に関する分娩様式別のリスク因子：6126例の多変量解析。第65回日本産科婦人科学会総会 札幌プリンスホテル国際館パミール 2013年5月11日（日本産科婦人科学会雑誌 2013；65：764）
-------	--

(部門名) 眼科学

通し番号	
学会344	恩田昌紀、井上裕治、伊野田悟、坂本晋一、新井悠介、高橋秀徳、川島秀俊：網膜色素上皮剝離から中心性漿液性脈絡網膜症に移行した2例。第56回日本網膜硝子体学会総会(東京) 2017年12月1日～3日
*学会345	伊野田悟、高橋秀徳、新井悠介、坂本晋一、井上裕治、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄：視力良好な加齢黄斑変性に対するアフリベルセプトの視力維持の条件検討。第56回日本網膜硝子体学会総会(東京) 2017年12月1日～3日
学会346	粕谷友香、新井悠介、高橋秀徳、伊野田悟、坂本晋一、井上裕治、川島秀俊、柳靖雄：網脈絡膜萎縮発症時に脈絡膜肥厚と脈絡膜から色素上皮上への滲出が観察された1例。第71回日本臨床眼科学会(東京) 2017年10月12日～15日
*学会347	新井悠介、高橋秀徳、伊野田悟、坂本晋一、井上裕治、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄：視力良好ボリープ状脈絡膜血管症に対するアフリベルセプト：タイプ別解析。第71回日本臨床眼科学会(東京) 2017年10月12日～15日
*学会348	Tampo H, <u>Takahashi H</u> , Yanagi Y, Sakamoto S, Inoda S, Kawashima H, Inoue Y, Arai Y, Takahashi R, Soeta M: Deep-learning estimation choroidal thickness form color fundus photographs. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Baltimore, Maryland, May 7-11, 2017
*学会349	反保宏信、高橋秀徳、添田めぐみ、高橋良太、伊野田悟、坂本晋一、新井悠介、井上裕治、川島秀俊、柳靖雄：深層学習によるカラー眼底写真からの脈絡膜厚推測。第121回日本眼科学会総会(東京) 2017年4月6日～9日
*学会350	坂本晋一、高橋秀徳、富永聡子、佐藤彩、竹澤美貴子、井上裕治、藤野雄次郎、田邊樹郎、川島秀俊：滲出型加齢黄斑変性の視力良好例に対するアフリベルセプト計画的投与。第55回日本網膜硝子体学会総会(東京) 2016年12月4日～6日
*学会351	伊野田悟、反保宏信、高橋秀徳、井上裕治、佐藤彩、竹澤美貴子、川島秀俊：脈絡膜新生血管を伴わない網膜色素上皮剝離のベルテポルフィン半量光線力学療法の検討。第70回日本臨床眼科学会(京都) 2016年11月3日～6日
*学会352	Sakamoto S, <u>Takahashi H</u> , Inoue Y, Yanagi Y, Sato A, Takezawa M, Tanabe T, Fujino Y, Kawashima H: Effects of central macular thickness on visual and anatomical outcomes in age-related macular degeneration patients: comparison between ranibizumab and aflibercept. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Seattle, Washington, May 1-5, 2016
*学会353	坂本晋一、高橋秀徳、井上裕治、柳靖雄、佐藤彩、竹澤美貴子、田邊樹郎、藤野雄次郎、川島秀俊：加齢黄斑変性に対するラニビズマブとアフリベルセプト短期予後の差と中心網膜厚の関連。第120回日本眼科学会総会(仙台) 2016年4月7日～10日
*学会354	坂本晋一、高橋秀徳、富永聡子、佐藤彩、竹澤美貴子、井上裕治、藤野雄次郎、田邊樹郎、川島秀俊：滲出型加齢黄斑変性の視力良好例に対するアフリベルセプト計画的投与。第54回日本網膜硝子体学会総会(東京) 2015年12月4日～6日

学会355	添田めぐみ、新井悠介、高橋秀徳、井上裕治、藤野雄次郎、田邊樹郎、川島秀俊：硝子体側に血管進展があり硝子体出血を繰り返すRetinalastrocytic hamartomaの特殊例。第69回日本臨床眼科学会(名古屋) 2015年10月22～25日
学会356	Inoda S, Takahashi H, Tan X, Kakinuma N, Nomura Y, Sakamoto S, Arai Y, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Aqueous humor inflammatory cytokine levels in chronic retinal vein occlusion. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Denver, Colorado, May 4-8, 2015
学会357	伊野田悟、高橋秀徳、譚雪、垣沼奈津子、野村陽子、坂本晋一、新井悠介、富永聡子、佐藤彩、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄：網膜静脈閉塞症慢性期における前房中炎症性サイトカイン濃度。第119回日本眼科学会総会(札幌) 2015年4月16～19日
学会358	高橋秀徳、坂本晋一、垣沼奈津子、富永聡子、佐藤彩、竹澤美貴子、斎藤由香、斎藤信一郎、新井悠介、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄：滲出型加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子療法中の過度な網膜菲薄化と視力低下。第119回日本眼科学会総会(札幌) 2015年4月16～19日
学会359	嘉村由美、中島基宏、大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕：増殖硝子体網膜症に対する硝子体手術の合併症－20ゲージと23ゲージの比較－。第119回日本眼科学会総会(札幌) 2015年4月16～19日
学会360	反保宏信、大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕：糖尿病患者の眼底スクリーニング－散瞳2方向と4方向カラー撮影の比較。第20回日本糖尿病眼学会総会(東京) 2015年3月6～8日
学会361	高橋秀徳、譚雪、垣沼奈津子、坂本晋一、野村陽子、藤野雄次郎、新井悠介、佐藤彩、竹澤美貴子、川島秀俊、青木彩、柳靖雄：滲出型加齢黄斑変性における炎症系サイトカイン前房中濃度と治療予後の関連。第68回日本臨床眼科学会(神戸) 2014年11月13～16日
学会362	Sakamoto S, Takahashi H, Tan X, Nomura Y, Iriyama A, Fujino Y, Sato A, Takezawa M, Kawashima H, Yanagi Y: Changes in the concentrations of various cytokines in the anterior chamber at the induction phase of ranibizumab treatment in age-related macular degeneration. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Orlando, Florida, May 4-8, 2014
学会363	Sakamoto S, Takahashi H, Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H: Two age-related macular degeneration patients whose choroidal thickness has decreased rapidly before polypoid lesion appeared. The World Ophthalmology Congress, Tokyo, Japan, April 2-6, 2014
学会364	大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕：増殖硝子体網膜症に対する硝子体手術後の血管新生緑内障。第118回日本眼科学会総会(東京) 2014年4月2～6日
学会365	Takahashi H, Hayashi T, Tsuneoka H, Fujino Y, Yoshimoto M, Kawashima H: Occult Macular Dystrophy With Bilateral Chronic Subfoveal Serous Retinal Detachment. 第52回日本網膜硝子体学会総会 The 8th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Nagoya,
学会366	坂本晋一、新井悠介、高橋秀徳、藤野雄次郎、小畑亮、柳靖雄、川島秀俊：ラニビズマブ頻回投与中に脈絡膜が著明に菲薄化した1例。第30回日本眼循環学会(東京) 2013年7月19～20日
学会367	Takahashi H, Tan X, Nomura Y, Iriyama A, Fujino Y, Okubo Y, Sato A, Takezawa M, Kawashima H, Yanagi Y: Associations between Posterior Vitreous Detachment and Concentrations of Various Cytokines in Eyes with Age-related Macular Degeneration and
学会368	高橋秀徳、譚雪、柳靖雄、野村陽子、藤村茂人、川島秀俊：加齢黄斑変性および正常対象眼における後部硝子体剥離と各種サイトカイン濃度の関連。第117回日本眼科学会総会(東京) 2013年4月4～7日

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
学会369	富永 薫、宮田 五月、坂下 英司、澤口 武尊、黒田 林太郎、川合 謙介、 <u>遠藤 仁司</u> ：変異型イソクエン酸脱水素酵素1 (IDH1) を持つグリオーマは、低カルニチンによりβ酸化が抑制されている。2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)、神戸、2017年12月6-9日 (要旨集1P1055)
学会370	長尾 恭光、富永 薫、坂下 英司、阿部 朋行、秋本 千鶴、花園 豊、 <u>遠藤 仁司</u> ：微小環境を用いた再樹立法による多能性幹細胞の高品質化。2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)、神戸、2017年12月6-9日 (要旨集3P-0857)
学会371	坂下 英司、秋本 千鶴、 <u>遠藤 仁司</u> ：細胞外酸性 pH応答による A-to-I RNA編集の亢進。2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)、神戸、2017年12月6-9日 (要旨集1P-7344)
学会372	笠嶋 克巳、炭谷 めぐみ、 <u>遠藤 仁司</u> ：保存された TFAMの dimer化とその様式および細胞内の役割について。2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)、神戸、2017年12月6-9日 (要旨集1P-00313)
学会373	Takafumi Mashiko, Eiji Sakashita, Katsumi Kasashima, Kaoru Tominaga, Kenji Kuroiwa, Tohru Matsuura, <u>Hitoshi Endo</u> . Inhibition of nuclear-cytoplasmic tracking of Drb1/RBM45 induces toxic cytoplasmic aggregates. The 21th Annual Meeting of The RNA Society/The RNA Society of Japan 18th Annual Meeting, Kyoto, Japan, June 28-July 2, 2016 (Abstracts 522)
学会374	Katsumi Kasashima, Megumi Sumitani, <u>Hitoshi Endo</u> . Property of C. elegans HMG-5, a homologue of TFAM, and its implication into mtDNA maintenance. The 13th Conference of Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine, Shinagawa (Tokyo), October 30-November 1, 2016.
学会375	笠嶋克巳、 <u>遠藤仁司</u> TFAMによるミトコンドリアDNA動態調節機構の解析. 第38回に本分子生物学会年回、第88回日本生化学会大会 合同年会、神戸、2015年12月1-4日 プログラム集p. 859
学会376	<u>遠藤 仁司</u> 、山本 智、長尾 泰光、黒岩 憲二、市田 勝、富永 薫 Rapid selection of XO embryonic stem cells using Y chromosome-linked GFP transgenic mice. 第38回に本分子生物学会年回、第88回日本生化学会大会 合同年会、神戸、2015年12月1-4日 プログラム集p. 4274-5
学会377	益子 貴史、坂下 英司、笠嶋 克巳、黒岩 憲二、富永 薫、松浦 徹、 <u>遠藤 仁司</u> 発生段階特異的RNA結合蛋白質Drb1の細胞質封入体形成機構の解析. 第38回に本分子生物学会年回、第88回日本生化学会大会 合同年会、神戸、2015年12月1-4日 プログラム集p. 4552-3
学会378	長尾恭光、戸塚義和、堀井拓郎、守谷尚倫、小栗清美、畑田出穂、徳永智也、花園豊、國田智、今井裕、 <u>遠藤仁司</u> 。インジェクション法によるMus spretusテトラプロイドキメラマウスの作製。第61回日本実験動物学会総会、平成26年5月15日～17日、札幌
学会379	益子貴史、坂下英司、笠嶋克巳、富永薫、松浦徹、 <u>遠藤仁司</u> ：発生段階特異的RNA結合蛋白質Drb1の細胞内局在と細胞質凝集体形成能の解析 第16回日本RNA学会年会、愛知県名古屋市、2014年7月23日～25日 (要旨集P-63)
学会380	笠嶋克巳、 <u>遠藤仁司</u> ミトコンドリア内におけるTFAM間相互作用に必要なドメインの同定. 第87回日本生化学会年会、京都、2014年10月15-18日 プログラム集p. 149

学会381	坂下英司, 笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> : F1 γ の酸性pH誘導による選択的スプライシング調節 第15回日本RNA学会年会、愛媛県松山市、2013年7月24日～26日 (要旨集P-54)
学会382	益子貴史, 坂下英司, 笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> : 発生段階特異的 RNA 結合蛋白質 Drb1 の細胞内局在性の解析 第15回日本RNA学会年会、愛媛県松山市、2013年7月24日～26日 (要旨集P-99)
学会383	笠嶋克巳、富永薫、 <u>遠藤仁司</u> TFAMによるミトコンドリアゲノム分配機構の解析. 第86回日本生化学会年会、横浜、2013年9月11-13日 プログラム集p. 142
学会384	Kasashima, K., Sumitani, M., and <u>Endo, H.</u> Molecular mechanism of TFAM-regulated mitochondrial DNA/nucleoid distribution. The 4th International Symposium on Dynamics of Mitochondria, Okinawa, Japan, October 28 – November 1, 2013, Abstract book p. 156
学会385	長尾 恭光、堀居 拓郎、太田 恵理子、小栗 清美、笠嶋 克己、畑田 出穂、徳永 智也、今井 裕、國田 智、 <u>遠藤仁司</u> 培養時間とマウス精子ミトコンドリアDNA量の関係 第60回日本実験動物学会総会、筑波、2013年5月15～17日 (0-44)
学会386	宮田五月、五味 玲、山口 崇、 <u>遠藤仁司</u> 、卜部匡司、小沢敬也、渡辺英寿 変異型IDHグリオーマにおける網羅的代謝解析：新規バイオマーカー検出の可能性 第14回日本分子脳神経外科学会、横浜、2013年10月18-19日

(部門名) 構造生化学部門

通し番号	
学会387	<u>多胡憲治</u> , 多胡めぐみ, 太田聡, 松義実広, 柳澤健: K-Ras遺伝子の新しい突然変異は発がん活性を示す. 第90回日本生化学会大会・第40回日本分子生物学会年会 (神戸) 2017年12月
*学会388	太田聡, <u>多胡憲治</u> , 松儀実広, 柳澤健: Ras変異体が誘導する発がんシグナルにおける受容体型チロシンキナーゼMer (MerTK) の機能解析. 第90回日本生化学会大会・第40回日本分子生物学会年会 (神戸) 2017年12月
学会389	<u>多胡憲治</u> , 多胡めぐみ, 太田聡, 松義実広, 柳澤健: K-Ras遺伝子の新しい突然変異は発がん活性を示す. 第39回日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜) 2016年11月30日～12月2日
*学会390	<u>多胡憲治</u> , 多胡めぐみ, 太田聡, 河田浩敏, 堀江久永, 山内淳司, 田中亨, 松儀実広, 柳澤健: がん化型Ras変異体はNF- κ Bの転写活性化を促進する. 第89回日本生化学会大会 (京都) 2016年9月
*学会391	<u>多胡憲治</u> : ST2遺伝子産物 (IL1RL1) の機能解析の近況. 奈良先端科学技術大学院大学異分野融合ワークショップ「生体における情報伝達制御システムの破綻と疾患」(奈良) 2015年12月11日～12日
*学会392	<u>多胡憲治</u> 、多胡めぐみ、太田聡、松儀実広、柳澤健: 新規IL-33シグナル調節蛋白質IFITM3の同定. 第88回日本生化学会大会・第38回日本分子生物学会年会 (神戸) 2015年12月1日～4日
*学会393	<u>多胡憲治</u> : 古典的Rasが誘起する発がんシグナル伝達系における新規Rasファミリーの役割と古典的Rasによる転写因子NF- κ B活性化促進の分子機構. 奈良先端未来開拓コロキウム「生体機能を司る細胞間ネットワーク制御機構の最前線」(奈良) 2014

*学会394	多胡憲治、多胡めぐみ、杉山直幸、伊東広、柳澤健：新規がん抑制遺伝子産物 TRB3はκB-RasのSUMO化を介してRas(G12V)の発がんシグナルを制御する。第37回日本分子生物学会年会（横浜）2014年11月25日～27日
*学会395	多胡憲治、多胡めぐみ、太田聡、松儀実広、柳澤健：がん化型Ras変異体はNF-κBの過剰な活性化を引き起こす。第87回日本生化学会大会（京都）2014年10月15日～18日
*学会396	多胡憲治：がん抑制遺伝子産物Arfはc-MycとDDX5により構成されるポジティブフィードバックループを抑制する。奈良先端未来開拓コロキウム「生体における恒常性維持機構とその破綻による疾病」（奈良）2013年10月21日～22日
*学会397	多胡憲治、多胡めぐみ、太田聡、松儀実広、柳澤健：がん化型Ras変異体が誘起する発がんシグナルはTNFαによるNF-κBの活性化を増強する。第86回日本生化学会大会（横浜）2013年9月11日～13日

(部門名) 統合病理学部門

通し番号	
学会398	Matsubara D, Ibrahim R, Osman W, Goto A, Morikawa T, Morita S, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Murakami Y. Expression of PRMT5 in lung adenocarcinoma and its significance in epithelial-mesenchymal transition. Annual Meeting of American Association for Cancer Research, San Diego, April 5-9, 2014.
学会399	Ui T, Morishima K, Saito S, Sakuma Y, Fujii H, Hosoya Y, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . The HSP90 inhibitor 17-AAG improves chemoresistance of cisplatin-resistant esophageal squamous cell carcinoma cell lines. Annual Meeting of American Association for Cancer Research, San Diego, April 5-9, 2014.
学会400	佐久間裕司, <u>仁木利郎</u> . EGFR遺伝子変異陽性肺癌に内在するZEB1発現細胞の研究。第55回日本肺癌学会総会（京都）2014年11月14-16日
学会401	吉本多一郎, 松原大祐, 坂谷貴司, 福嶋敬宜, <u>仁木利郎</u> . 非小細胞肺癌におけるクロマチンリモデリング因子 (BRG1, BRM, ARID1A, ARID1B, BAF47) の発現異常について。第73回日本癌学会総会（横浜）2014年9月25-27日
学会402	松原大祐, 伊東剛, 田中一大, 森川鉄平, 中島淳, <u>仁木利郎</u> . 肺腺癌におけるYAP1 (a Hippo signalingにおける転写因子) の発現パターンと病理組織学的形態, 予後との関連性について。第73回日本癌学会総会（横浜）2014年9月25-27日

(部門名) 婦人科学部門

通し番号	
学会403	Saga Y, Takahashi Y, Koyanagi T, <u>Suzuki M</u> , Sato Y: Suppression of ovarian cancer by muscle-mediated expression of vasohibin-1 using adeno-associated virus serotype 1-derived vector. 10th Vasohibin Meeting, Zao, Japan, January 10, 2015
学会404	小柳貴裕, 嵯峨泰, 高橋詳史, 佐藤尚人, 町田静生, 種市明代, 竹井祐二, 藤原寛行, 鈴木光明. 新規血管新生調節因子バゾヒビン2中和抗体の開発と卵巣癌治療応用へ向けた基礎研究。第66回日本産科婦人科学会総会（東京）2014年4月18-20日

学会405	小柳貴裕、嵯峨泰、高橋詳史、町田静生、種市明代、竹井祐二、藤原寛行、鈴木光明. 卵巣癌細胞が産生する新規血管新生調節因子Vasohibin-2を標的とした治療法の開発. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会 (大阪) 2013年11月2-3日
学会406	嵯峨泰、高橋詳史、小柳貴裕、鈴木光明、佐藤靖史. Vasohibin-1は卵巣癌細胞のインドール酸素添加酵素発現の抑制を介して腫瘍免疫寛容を阻害する. 第9回 Vasohibin研究会 (蔵王) 2013年1月11-12日

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
学会407	Manabu Nagayama, Tomonori Yano, Yoshikazu Hayashi, Chihiro Iwashita, Hisashi Fukuda, Masahiro Okada, Yuji Ino, Takahito Takezawa, Hirotsugu Sakamoto, Yoshimasa Miura, Keiji Sunada, Alan Kawarai Lefor, Hironori Yamamoto: The CAST hood facilitates double-balloon endoscopy in patients with small intestinal Crohn's disease, DDW 2016, San Diego, USA, May 23, 2016
学会408	永山学, 矢野智則, 林芳和: 腸管狭窄を伴うクローン病の内視鏡検査におけるCAST hoodとwater exchange法の有用性. 第102回日本消化器病学会総会 (東京) 2016年4月21日~23日
学会409	小野公平、坂本博次、根本大樹、宮田康史、永山学、井野裕治、竹澤敬人、新畑博英、三浦義正、林芳和、矢野智則、佐藤博之、砂田圭二郎、大澤博之、 <u>山本博徳</u> . (ポスターセッション6) 治療方針の決定に免疫染色が有用であった colitic cancer の1例. 第11回日本消化管学会総会学術集会 (東京) 2015年2月13日
学会410	永山学、矢野智則、林芳和、沼尾規且、北村絢、井野裕治、竹澤敬人、新畑博英、三浦義正、佐藤博之、坂本博次、砂田圭二郎、佐藤貴一、 <u>山本博徳</u> 、菅野健太郎. (シンポジウム:クローン病難治例の診断と治療) クローン病の難治性腸狭窄に対するステロイド局注併用内視鏡的バルーン拡張術は安全で有効である. 第51回小腸研究会 (名古屋) 2013年11月19日

(部門名) 細胞生物研究部

通し番号	
学会411	高橋将文、田村勝、若菜茂晴、川上潔: Six4/Six5二重遺伝子変異マウスを用いた臍帯ヘルニア発症機序の解析. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会 (東京) 2018年3月30日
学会412	Yueren L, Sakuragi S, Koizumi K, Tomokazu O, Ikeda, K, <u>Kawakami K</u> , Hajime M, Yawo H: The immediate early reception of optogenetic inputs in the layer 2/3 of the rat barrel cortex. 95th日本生理学会大会, Takamatsu, Japan, March 28-30, 2018

学会413	川上潔、畝川美悠紀、池田啓子、富田裕、鈴木則宏：家族性片頭痛マウスモデルとしてのナトリウムポンプ $\alpha 2$ サブユニット遺伝子欠損マウス. 第40回日本分子生物学会年会、第90回日本生化学会大会（神戸）2017年12月6日～9日
学会414	Nagoya K, Nakamura S, Ikeda K, Onimaru H, Nakayama K, Mochizuki A, Sato F, Yoshida A, <u>Kawakami K</u> , Inoue M, Inoue T : Distinctive properties of Phox2b neurons located in the rat reticular formation dorsal to the trigeminal motor nucleus. Society for Neuroscience, Washington, USA, November 11-15, 2017
学会415	畝川美悠紀、池田啓子、富田裕、川上潔、鈴木則宏：Na ⁺ , K ⁺ -ATPase $\alpha 2$ サブユニット遺伝子欠損マウスにおける皮質拡張性抑制に対する感受性と脳内c-Fos発現分布. 第60回日本脳循環代謝学会学術集会（豊中）2017年11月3日～4日
学会416	Sugimoto H, <u>Kawakami K</u> : <i>Atp1a3</i> heterozygous KO mice show lower ranking in the hierarchy through altered social behavior. The 15 th International Conference on Na, K-ATPase and Related Transport ATPases, Otsu, Japan, September 24-30, 2017
学会417	<u>Kawakami K</u> , Unekawa M, Ikeda K, Yutaka T, Suzuki N : <i>Atp1a2</i> -deficient mice as a model of familial hemiplegic migraine. The 15 th International Conference on Na, K-ATPase and Related Transport ATPases, Otsu, Japan, September 24-30, 2017
学会418	Unekawa M, Ikeda K, Tomita Y, <u>Kawakami K</u> , Suzuki N : Widespread c-Fos expression after cortical spreading depression; possible differences between two types of animal models of familial hemiplegic migraine 2. WCN2017: XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Japan, September 16-21, 2017
学会419	Unekawa M, Ikeda K, Tomita Y, <u>Kawakami K</u> , Suzuki N : Enhanced susceptibility to cortical spreading depression and different degree in two-types of Na ⁺ , K ⁺ -ATPase $\alpha 2$ subunit-deficient mice as a model of familial hemiplegic migraine 2. IHC 2017: 18 th Congress of the International Headache Society, Vancouver, Canada, September 7-10, 2017
学会420	Sato S, <u>Kawakami K</u> : Regulation of continuous but complex expression pattern of <i>Six1</i> during early sensory development. JMU SYMPOSIUM 2017, Shimotsuke, Japan, September 7-8, 2017
学会421	池田啓子、鬼丸洋、川上潔 : <i>Atp1a3</i> knockout fetus ナトリウムポンプ $\alpha 3$ サブユニット遺伝子欠損新生マウスの解析. 第7回国際医療福祉大学学会学術大会（大田原）2017年8月27日
学会422	Ikeda K., Onimaru H., <u>Kawakami K</u> . : Analyses of <i>Atp1a3</i> knockout homozygous neonate. The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Chiba, Japan, July 20-23, 2017
学会423	佐竹伸一郎、川上潔、井本敬二、池田啓子 : Naポンプ $\alpha 3$ サブユニット遺伝子ヘテロ欠損マウスにおける小脳長期抑圧の減弱. 第40回日本神経科学大会（千葉）2017年7月20日～23日
学会424	池田啓子、鬼丸洋、川上潔 : ナトリウムポンプ $\alpha 3$ サブユニット遺伝子欠損ホモマウス新生仔の解析. 第40回日本神経科学大会（幕張）2017年7月20日～23日
学会425	鬼丸洋、池田啓子、五十嵐敬幸、八尾寛、小林和人、川上潔 : Phox2b発現細胞にチャンネルロドプシンを発現させたトランスジェニックラットにおける延髄呼吸中枢の神経回路の光遺伝学的解析. 第40回日本神経科学大会（幕張）2017年7月20日～23日

学会426	Sugimoto H, <u>Kawakami K</u> : Does dominant mouse barber subordinate mice in social hierarchy? Neuroscience 2017, Makuhari, Japan, July 20-23, 2017
学会427	Tanaka S, Yamauchi Y, <u>Kawakami K</u> , Nishinakamura R : Six1 and Six4 regulate germ and gonadal somatic progenitor cell formation in mice. 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Funabori, Japan, May 10-13, 2017
*学会428	Takahashi M, <u>Kawakami K</u> : <i>Six1</i> regulates growth of dental papilla and lingual-labial asymmetry in the developing mandibular incisor. 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Funabori, Japan, May 10-13, 2017
学会429	Sato S, Furuta Y, <u>Kawakami K</u> : The development of a novel tool to analyze cranial placode development. 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Funabori, Japan, May 10-13, 2017
学会430	Onimaru H, Ikeda K, Ogawa M, Ihara K-I, Kobayashi K, <u>Kawakami K</u> : Optogenetic analysis of neuronal network of medullary respiratory center in brainstem-spinal cord preparations from transgenic newborn rats expressing Archaelrhodopsin in Phox2b positive cells. Neuroscience 2016, San Diego, USA, November 12-16, 2016
学会431	Sato S, <u>Kawakami K</u> : Dynamic transcriptional regulation of the deafness gene <i>Six1</i> during otic development. The 13th Nikko International Symposium 2016, Shimotsuke, Japan, October 28, 2016
学会432	Takahashi M, Osumi N, <u>Kawakami K</u> .: The distribution of <i>Cdh20</i> demarcates a novel subdomain corresponding to somatotopic representation in the dorsolateral striatum. JMU SYMPOSIUM 2016, Shimotsuke, Japan, September15-16, 2016
学会433	Ikeda K, Onimaru H, <u>Kawakami K</u> : A novel transgenic rat harboring Phox2b BAC useful for analysis ontogeny of and function of respiratory rhythm generator neuronal complex. Society for Developmental Biology 75th Annual Meeting International Society of Differentiation 19th International Conference, Boston, USA, August 4-8, 2016
学会434	<u>Kawakami K</u> , Yajima H : Homeobox transcription factor Six4 and Six5 regulates muscle regeneration and life span of Duchenne Muscular Dystrophy model mouse mdx. Society for Developmental Biology 75th Annual Meeting International Society of Differentiation 19th International Conference, Boston, USA, August 4-8, 2016
学会435	Sugimoto H, <u>Kawakami K</u> : <i>Atp1a3</i> regulates the hierarchy formation through altered behavioral characteristics. The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama, Japan, July 20-22, 2016
学会436	Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : Exploring the neural hyper-active regions in the Sodium pump disease model mice. The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama, Japan, July 20-22, 2016
学会437	Takahashi M, <u>Kawakami K</u> : Six4 and Six5 are required for ventral body wall closure and morphogenesis of the primary body wall. JSDB Special Symposium: Frontier of Developmental Biology, Tokyo, Japan, June 2, 2016
学会438	鬼丸洋、池田啓子、リン・スーチン、小川正晃、伊藤寛一郎、小林和人、川上潔 : Phox2b遺伝子の発現制御領域下にアーキロドプシンを発現させたトランスジェニックマウスにおける延髄呼吸中枢の神経回路の解析. 第93回日本生理学会大会(札幌) 2016年3月22日~24日
学会439	川上潔、矢嶋浩 : Six4/Six5二重変異は骨格筋再生を促進しmdxマウスの寿命をのばす. BMB2015 第38回日本分子生物学会年会 第88回日本生化学会大会 合同大会(神戸) 2015年12月1日~4日

学会440	田中聡、山口泰華、藤本由佳、川上潔、西中村隆一：転写因子Six1とSix4は、生殖巣を構成する体細胞と生殖細胞の前駆細胞形成を制御する。BMB2015 第38回日本分子生物学会年会 第88回日本生化学会大会 合同大会（神戸）2015年12月1日～4日
学会441	<u>Kawakami K</u> , Sugimoto H, Ikeda K: Atp1a3 heterozygous knock-out mice show reduced social interaction and lower rank in social dominance compared with wild type. 4th Symposium on ATP1A3 in Disease, Washington, USA, August 27-29, 2015
学会442	Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : Spontaneous dystonia in Atp1a3+/- . 4th Symposium on ATP1A3 in Disease, Washington, USA, August 27-29, 2015
学会443	池田啓子、鬼丸洋、高橋将文、佐藤滋、川上潔：呼吸中枢神経系解析に有用なトランスジェニックラット。Neuroscience 2015（神戸）2015年7月28日～30日
学会444	佐竹伸一郎、池田啓子、川上潔、井本敬二：Atp1a3+/-マウス小脳プルキンエ細胞におけるグルタミン酸輸送体電流の減弱。Neuroscience 2015（神戸）2015年7月28日～30日
学会445	杉本大樹、川上潔：ナトリウムポンプ(Atp1a3)は社会階層形成を制御する。Neuroscience 2015（神戸）2015年7月28日～30日
学会446	飯塚眞喜人、池田啓子、鬼丸洋、川上潔、泉崎雅彦：新生ラット胸髄呼吸性介在ニューロンにおけるグルタミン酸トランスポーターVGLUT1およびVGLUT2の発現。Neuroscience 2015（神戸）2015年7月28日-30日
*学会447	Kawasaki T, Takahashi M, Mori Y, <u>Kawakami K</u> .: Role of Six1 for cell proliferation in the periodontal ligament tissue. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会448	Yajima H, Sato S, Hayashi T, Takeuchi T, <u>Kawakami K</u> : A missing link in the evolution of sensory architecture in craniates. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会449	Takahashi M, <u>Kawakami K</u> : Six4 and Six5 are required for ventral body wall closure and morphogenesis of the primary body wall. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会450	Tanaka S, Yamauchi Y, Fujimoto Y, <u>Kawakami K</u> , Nishinakamura R: Six1 and Six4 homeodomain proteins regulate mouse primordial germ cell formation. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会451	<u>Kawakami K</u> , Ikeda K, Chiken S, Sugimoto H: Dystonia model mouse deficient of Na-pump alpha3 subunit gene. Proceedings of the 120th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists and the 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, Japan, March 21-23, 2015
学会452	Onimaru H, Lin S, Tani M, Yazawa I, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : TRPA1 agonist, cinnamaldehyde induced long-lasting facilitation of respiratory rhythm in the brainstem-spinal cord preparation isolated from newborn rat and in the in situ perfused- preparation from juvenile rat. Neuroscience2014, Washington,DC., USA, November 15-19, 2014
学会453	佐藤滋、矢嶋浩、川上潔：Six1遺伝子の感覚神経系における役割とその発現制御。日本遺伝学会第86回大会（長浜）2014年9月17日～19日

学会454	杉本大樹、川上潔：急性発症型ジストニアパーキンソンズム原因遺伝子(Atp1a3)欠損マウスはストレス負荷により歩幅の減少をしめす。第37回日本神経科学大会（横浜）2014年9月11日～13日
学会455	矢嶋浩、佐藤滋、川上潔：マウス髄内一次感覚神経様細胞の成り立ちから考える脊椎動物一次感覚神経の進化。日本動物学会第85回仙台大会（仙台）2014年9月11日～13日
学会456	<u>Kawakami K</u> , Satake S, Sugimoto H, Ikeda, K: Altered motor memory in behaviour and electrophysiological analyses in Atp1a3 heterozygous knockout mice. Third symposium ATP1A3 in Disease, Lunteren, The Netherlands, August 29-31, 2014
学会457	Ikeda K, Chiken S, Nambu A, Sugimoto H, <u>Kawakami K</u> : Behavioral and electrophysiological analyses of Atp1a3 knockout mice and implication for pathophysiology of dystonia. Third symposium ATP1A3 in Disease Lunteren, The Netherlands, August 29-31, 2014
学会458	Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : c-Fos expression in epilepsy-prone Atp1a2 and Atp1a3 knockout mouse brains during development. 47th Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Nagoya, May 27-30, 2014
学会459	池田啓子、川上潔：The focus of epilepsy in the brain of mice deficient of Na-pump genes. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会（下野）2014年3月27日～29日
学会460	川上潔：ナトリウムポンプの生体機能とナトリウムポンプ病の病態。分子遺伝学シンポジウム2014（京都）2014年3月1日
学会461	田中聡、藤本由佳、山口泰華、立花誠、金井克晃、諸橋憲一郎、川上潔、西中村隆一：転写因子Six1/Six4は、マウス生殖腺形成と雄性分化を制御する。第36回日本分子生物学会年会（神戸）2013年12月3日～6日
学会462	高橋将文、川上潔：Six4/Six5二重遺伝子変異マウスにおける臍帯ヘルニア発症機序の解析。第36回日本分子生物学会年会（神戸）2013年12月3日～6日
学会463	<u>Kawakami K</u> , Ikeda K, Sugimoto H: Toward the understanding of Na-pump disease. The 10th Nikko International Symposium 2013, Shimotsuke, Japan, October 17, 2013
学会464	Ikeda K, Satake S, <u>Kawakami K</u> : Increased inhibitory neurotransmission in the cerebellum of the Atp1a3-deficient heterozygous mice. Second Symposium on ATP1A3 in disease, Rome, Italy, September 23-24, 2013
学会465	Sugimoto H, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : Atp1a3-deficient heterozygous mice show shorter stride and fall latency in hanging box in chronic stress condition. Second Symposium on ATP1A3 in disease. Rome, Italy, September 23-24, 2013
*学会466	Kawasaki T, Takahashi M, Kusama M, <u>Kawakami K</u> : Expression of Six1 in the periodontal ligament and the origin of periodontal ligament stem cells. Gordon Research Conference Neural Crest & Cranial Placodes, Easton, USA, July 21-26, 2013
学会467	佐竹伸一郎、池田啓子、川上潔、井本敬二：Atp1a3+/-マウス小脳皮質において登上線維伝達物質のシナプス外拡散は強く抑制されている。Neuro2013（京都）2013年6月20日～23日

学会468	Kawakami K, Yajima H, Suzuki, M, Ochi H, Ikeda K, Sato S, Ogino H, Ueno, N: Role of Six1 in evolution of vertebrate primary sensory system. 46th Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Matsue, Japan, May 28-31, 2013
-------	--

(部門名) 再生医学研究部

通し番号	
学会469	阿部朋行、柴田宏昭、原弘真、魚崎英毅、大貫貴広、竹内絢香、原明日香、ボラジギン・サラントラガ、長尾慶和、花園豊。異種移植系における同一ドナー由来リンパ球の影響。第20回日本異種移植研究会。吹田市、2018年3月10日
*学会470	Abe T, Shibata H, Uosaki H, Hara H, Ohnuki T, Byambaa S, Chanthra N, Sarentonglaga B, Fukumori R, Nagao Y, and <u>Hanazono Y</u> : Generation of CD45-positive Hematopoietic Cells from Human iPS Cells in Vivo in Ovine Fetal Liver. International Society for Stem Cell Research 2017 Annual Meeting, Boston, USA, June 14-17, 2017
*学会471	阿部朋行、柴田宏昭、魚崎英毅、原弘真、大貫貴広、スブドビャンバー、ナーウィングジャントラ、ボラジギンサラントラガ、福森理加、長尾慶和、花園豊：ヒトiPS細胞由来造血細胞のヒツジ体内での長期生着。第64回日本実験動物学会総会、福島、2017年5月25日-27日
学会472	原弘真、柴田宏昭、中野和明、魚崎英毅、大貫貴広、スブドビャンバー、ナーウィングジャントラ、菱川修司、國田智、長嶋比呂志、濡木理、花園豊：ブタの無菌的娩出・飼育技術の確立とSCIDブタ飼育の試み。第64回日本実験動物学会総会、福島、2017年5月25日-27日
学会473	花園豊、菱川修司：アニマルラボの事例紹介と問題提起。日本外科学会定期学術集会、神奈川、2017年4月27日-29日
*学会474	阿部朋行、柴田宏昭、魚崎英毅、原弘真、大貫貴広、ボラジギン・サラントラガ、福森理加、長尾慶和、花園豊：ヒトiPS細胞由来造血細胞のヒツジ体内での長期生着。第19回日本異種移植研究会、京都市、2017年2月25日
学会475	花園豊：ブタの実験動物としての有用性と可能性。第31回日本整形外科学会基礎学術集会教育研修講演、福岡、2016年10月13日
学会476	阿部朋行、大貫貴広、河野正太、原弘真、柴田宏昭、菱川修司、國田智、花園豊：血小板減少モデルブタに輸注したヒト血小板の体内動態。第4回日本先進医工学ブタ研究会、静岡、2016年10月7日～8日
学会477	大貫貴広、阿部朋行、河野正太、原弘真、柴田宏昭、菱川修司、國田智、花園豊：ブスルファンによる血小板減少モデルブタの作出。第4回日本先進医工学ブタ研究会、静岡、2016年10月7日-8日
学会478	花園豊：当番世話人講演「ブタを用いる研究の現状と展望」。第4回日本先進医工学ブタ研究会、静岡、2016年10月7日-8日

学会479	原弘真, 大貫貴広, 河野正太, 阿部朋行, 柴田宏昭, 中野和明, 長嶋比呂志, 菱川修司, 國田智, <u>花園豊</u> : 無菌ブタの作出とその無菌的管理技術の確立. 第4回日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2016年10月7日-8日
学会480	渡邊將人, 松成ひとみ, 中野和明, 梅山一大, 高柳就子, 長屋昌樹, 宮川周士, <u>花園豊</u> , 中内啓光, 長嶋比呂志: ブタにおけるゲノム編集技術を用いた遺伝子ノックアウト. 日本ゲノム編集学会第1回大会, 広島, 2016年9月6日-7日
学会481	河野正太, 阿部朋行, 大貫貴広, <u>花園豊</u> : ブタに輸注したヒト血小板の体内動態. 第18回日本異種移植研究会(長崎) 2016年2月20日
学会482	<u>花園豊</u> : 自治医科大学におけるブタ利用研究. 第3回日本先進医工学ブタ研究会(千代田) 2015年10月16日~17日
学会483	武石透輝, 中野和明, 浅野吉則, 内倉鮎子, 畑江将太, 福田暢, 八島紗耶香, 松成ひとみ, 渡邊將人, 梅山一大, 長屋昌樹, <u>花園豊</u> , 長嶋比呂志: クサビラオレンジを全身性に発現するミニブタ系統の開発. 第108回繁殖生物学会(宮崎) 2015年9月17~20日
学会484	中野和明, 渡邊將人, 松成ひとみ, 内倉鮎子, 浅野吉則, 武石透輝, 畑江将太, 高草木大地, 梅木育麿, 福田暢, 八島紗耶香, 勝俣佑起, 梅山一大, 長屋昌樹, <u>花園豊</u> , 長嶋比呂志: 胚盤胞補完法はIL2RG遺伝子ノックアウト免疫不全ブタの免疫細胞を救済する. 第108回繁殖生物学会(宮崎) 2015年9月17~20日
学会485	福田暢, 中野和明, 浅野吉則, 武石透輝, 畑江将太, 内倉鮎子, 梅木育麿, 笠井悠里, 勝俣佑起, 八島紗耶香, 松成ひとみ, 渡邊將人, 梅山一大, 長屋昌樹, <u>花園豊</u> , 長嶋比呂志: Gamete Intra Fallopian Transfer (GIFT)法による糖尿病発症ミニブタの作出. 第108回繁殖生物学会(宮崎) 2015年9月17~20日
学会486	八島紗耶香, 中野和明, 浅野吉則, 笠井悠里, 勝俣佑起, 福田暢, 高草木大地, 梅木育麿, 武石透輝, 畑江将太, 松成ひとみ, 渡邊將人, 梅山一大, 長屋昌樹, <u>花園豊</u> , 長嶋比呂志: 胚盤胞補完によって救済されたIL2RG遺伝子ノックアウトキメラブタは正常な繁殖能力を有する. 第108回繁殖生物学会(宮崎) 2015年9月17~20日
学会487	河野正太, 菱川修司, 阿部朋行, 長田直希, 國田智, <u>花園豊</u> : ブスルファンによる血小板減少モデルブタの作出. 第158回獣医学会学術集会(十和田) 2015年9月7~9日
学会488	Urabe M, Abe T, Uchibori R, Tsukahara T, Kume A, Mizukami H, <u>Hanazono Y</u> , Ozawa K: Re-evaluation of thymidine kinase mutants as a safety switch for iPS cells. The 21th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, Osaka, July 24-26, 2015
学会489	渡邊將人, 松成ひとみ, 中野和明, 梅山一大, 長屋昌樹, 宮川周士, <u>花園豊</u> , 中内啓光, 長嶋比呂志: ゲノム編集を用いた遺伝子ノックアウトクローンブタの作出効率. 日本動物細胞工学会2015年度大会(青葉) 2015年7月9~10日
*学会490	阿部朋行, 長尾慶和, 原明日香, スブド・ビャンバー, 柳瀬公秀, ボラジギン・サントラガ, 緒方和子, 山口美緒, 福森理加, <u>花園豊</u> : ヒツジ子宮内移植系におけるヒト造血細胞の生着促進・増幅技術の開発. 第17回日本異種移植研究会(下野) 2015年3月14日
学会491	Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Uchikura A, Asano Y, Hatae S, Takeishi T, Umeyama K, Nagaya M, Miyagawa S, <u>Hanazono Y</u> , Nakauchi H, Nagashima H: Production efficiency of gene knockout pigs using genome editing and somatic cell cloning. 41th Annual Conference of the International Embryo Transfer Society, Versailles, France, January 10-13, 2015
学会492	Nagao Y, Abe T, Hara A, Ogata K, Yamaguchi M, Sarentonglaga B, Fukumori R, <u>Hanazono Y</u> : Factors affecting hematopoietic engraftment of monkey embryonic stem cells in sheep
学会493	<u>花園豊</u> : ブタを利用するiPS細胞研究: マウスからヒトへの橋渡し. 第3回実験動物科学シンポジウム(山形) 2014年12月12日

学会494	花園豊：ブタ体内でヒト血液・臓器を育てる研究について。第2回日本先進医工学ブタ研究会(三島) 2014年10月24日～25日
学会495	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> : Transplantation-related Immunity of Porcine Induced Pluripotent Stem Cells in the MHC-matched Allogeneic Setting. The 2nd Annual Meeting of Japanese Society of Swine for Advanced Technology and Translational Research, Mishima, October 24-25, 2014
学会496	武石透輝、中野和明、松成ひとみ、林田豪太、浅野吉則、内倉鮎子、畑江将太、大海原雅人、渡邊将人、梅山一大、長屋昌樹、花園豊、長嶋比呂志：全身性にクサビラオレンジを発現するミニブタ交雑種の開発。第107回日本繁殖生物学会(帯広) 2014年8月21～24日
学会497	中野和明、渡邊将人、松成ひとみ、小林美里奈、松村幸奈、坂井理恵子、倉本桃子、林田豪太、浅野吉則、内倉鮎子、梅山一大、長屋昌樹、花園豊、長嶋比呂志：ゲノム編集と体細胞クローニングによる免疫不全ブタの作出。第107回日本繁殖生物学会大会(帯広) 2014年8月21～24日
学会498	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> : Immune responses against induced pluripotent stem cells in porcine MHC-matched allogenic setting. Swine in Biomedical Research Conference 2014, Raleigh, USA, July 6-8, 2014
学会499	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Uchikura A, Umeyama K, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H: Generation of X-linked SCID pigs by genome editing and somatic cell cloning. Swine in Biomedical Research International Conference 2014, Raleigh, USA. July6-8, 2014
学会500	花園豊：動物を用いたヒト血液細胞の作出。第62回日本輸血・細胞治療学会総会(奈良) 2014年5月15日
*学会501	阿部朋行、長尾慶和、柳瀬公秀、原明日香、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、 <u>花園豊</u> ：ヒツジ子宮移植系におけるヒト造血細胞の生着・増幅技術の開発。第61回日本実験動物学会総会(札幌) 2014年5月5日
学会502	花園豊：幹細胞治療研究における医学と獣医学の連携。平成25年度獣医学術学会年次大会(千葉) 2014年2月21～23日
学会503	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima, H: Evaluation of porcine induced pluripotent stem cells based on the DNA methylation profile of mouse embryonic stem cell-specific hypomethylated loci. 36th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan, Kobe, December 3-6, 2013
学会504	渡邊将人、中野和明、松成ひとみ、松田泰輔、金井貴博、小林美里奈、松村幸奈、坂井理恵子、倉本桃子、林田豪太、浅野吉則、高柳就子、新井良和、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志：Zinc finger nuclease発現mRNAによるIL2R γ 遺伝子ノックアウトブタの作出。第36回日本分子生物学会(神戸) 2013年12月3～6日
*学会505	Abe T, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Nagao Y, <u>Hanazono Y</u> : Long-term comparative study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013
学会506	<u>Hanazono Y</u> : Porcine iPS. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013

学会507	Nagao, Y, Abe T, Tanaka Y, Sasaki K, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Kitano Y, <u>Hanazono Y</u> : Factors influencing engraftment of monkey embryonic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. 12th Congress of the International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013
学会508	<u>花園豊</u> ：マウスからヒトへ：ブタを利用する橋渡し研究. 第1回日本先進医工学ブタ研究会(大阪) 2013年11月12日
学会509	<u>Hanazono Y</u> : Human-to-animal reversed xenogeneic transplantation for producing human blood in animals. Joint Meeting of the 2nd Symposium of the East Asia Xenotransplantation Association (EAXA) /the 16th Japan Xenotransplantation Association (JXA), Osaka, Japan, November 10, 2013
*学会510	阿部朋行、長尾慶和、柳瀬公秀、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、山口美緒、林聡、 <u>花園豊</u> ：ヒツジ子宮内異種移植(II)：長期間の造血再構築. 第16回日本異種移植研究会(大阪) 2013年11月10日
*学会511	長尾慶和、阿部朋行、柳瀬公秀、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、山口美緒、林聡、 <u>花園豊</u> ：ヒツジ子宮内異種移植(I)：生着条件の検討. 第16回日本異種移植研究会(大阪) 2013年11月10日
学会512	<u>花園豊</u> ：再生医学研究：臨床応用をめざして. 第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会(大宮) 2013年9月21～22日
学会513	新井良和、大鐘潤、藤城修平、中野和明、塩田邦郎、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志：実物としてのマウス多能性幹細胞DNAメチル化プロファイルに基づく幹細胞評価：ブタiPS細胞を例として. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会(奈良) 2013年5月30～31日
学会514	下澤律浩、藤城修平、水上喜久、阿部朋行、 <u>花園豊</u> ：カニクイザル初期胚を用いたES細胞の特性に関する検討. 第54回日本卵子学会(千代田) 2013年5月25～26日
*学会515	阿部朋行、 <u>花園豊</u> ：ヒト化ヒツジの作製を目指して. 第60回日本実験動物学会総会ワークショップ(つくば) 2013年5月17日

(部門名) 病態生化学部門

通し番号	
学会516	<u>Ohmori T</u> , Nagao Y, Mizukami H, Sakata A, Muramatsu S, Ozawa K, Tominaga S, Hanazono Y, Nishimura S, Nureki O, Sakata Y. CRISPR/Cas9-mediated genome editing via postnatal administration of AAV vector cures haemophilia B in mice. Congress The International Society on Thrombosis and Haemostasis, Berlin, Germany, July 8 - 13, 2017
学会517	<u>Ohmori T</u> . CRISPR/Cas9-mediated genome editing using AAV vector improves hemostasis in a mouse model of haemophilia B. The 8th Japanese Society of Hematology International Symposium 2017. Miyazaki, Japan, May 19 – 20, 2017 (Oral Presentation Award Platinum).
学会518	<u>Ohmori T</u> .;CRISPR/Cas9-Mediated Genome Editing using an AAV8 Vector Improves Hemostasis in a Mouse Model of Hemophilia B in vivo, The 25thUS-Japan Cellular and Gene Therapy Conference, Maryland, Mar 9, 2017

*学会519	大森司、西村智、富永眞一、Forkhead box転写因子Foxf1aは血小板インテグリンの発現・機能に関与しない 平成28年度 日本生化学会関東支部例会, 栃木、2016年6月11日
学会520	大森 司：ひとめでわかる凝固カスケードの仕組み～日常診療で抗血栓薬を理解しようするために～（ランチョンセミナー）．第237回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），2015年9月26日
学会521	大森 司：血小板機能異常症の病態と診断へのアプローチ（ランチョンセミナー）．第16回日本検査血液学会学術集会（名古屋），2015年7月11～12日
学会522	Ohmori T: New approaches to gene and cell therapy for hemophilia, The 25th Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (State of the Art Symposium), Tronto, Jun 20-25, 2015
学会523	大森 司, 水上 浩明, 片貝 祐子, 坂田 飛鳥, 小澤 敬也, 坂田 洋一, 西村智：血友病Aに対するアデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療法の開発．第37回 日本血栓止血学会学術集会（山梨），2015年5月21～23日
学会524	大森 司：ITPの病態とITP治療におけるTP0受容体作動薬の役割（ランチョンセミナー）．第36回日本血栓止血学会学術集会（大阪），2014年5月29～31日
学会525	大森 司：実地医家のための出血性疾患の診断と治療．第529回甲府市内科医会（山梨），2014年4月22日
学会526	大森 司：新規経口抗凝固薬の基礎と臨床．第4回栃木総合診療研究会，栃木，2014年6月8日
学会527	大森 司：血友病研究の魅力．第1回日本血栓止血学会教育セミナー，東京，2013年10月20日
学会528	大森 司：出血性疾患の診断アプローチ（教育講演）．第75回日本血液学会学術集会，札幌，2013年10月11～13日
学会529	Ohmori T: Development of a cell-based therapy for treating hemophilic arthropathy by local injection of transduced MSCs. 第35回日本血栓止血学会学術集会 SPCシンポジウム（山形），2013年5月30日～6月1日

（部門名）遺伝子治療研究部

通し番号	
学会530	水上浩明：AAV（アデノ随伴ウイルス）ベクターと免疫反応，日本薬学会第138年会シンポジウム（金沢），2018年3月25日～28日
学会531	T Yoshiba, Y Saga, Y Sehara, R Uchibori, M Urabe, H Fujiwara, S Matsubara, H Mizukami: Efficient targeting of uterine cervical cancer using AAV vectors encoding CRISPR/Cas9 against HPV-E6 gene. The 25th Annual Congress of European Society of Gene & Cell Therapy, Berlin, Germany, 17-20 October, 2017.
学会532	R Uchibori, T Teruya, K Ohmine, M Urabe, Y Saga, H Mizukami, J Mineno, K Ozawa: CD269-targeted CAR-modified T cells showed promising therapeutic efficacy in an orthotopic mouse model of multiple myeloma. The 22nd Annual Meeting of Japn Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, July 28-30, 2016.

（部門名）抗加齢医学研究部

通し番号	
学会533	黒尾誠、PTH過剰症に伴うミネラル代謝異常とCPPの位置づけ. 第62回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、2017/6/16-18
*学会534	黒尾誠、リン恒常性を維持する臓器間ネットワークとその破綻. 第60回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017/5/26-28
*学会535	黒尾誠、Klotho and Aging; Phosphate connection. 第81回日本循環器学会、金沢 2017/3/08
*学会536	黒尾誠、CKD患者のサルコペニア・フレイルのメカニズムと薬物療法. 日本腎臓リハビリテーション学会、つくば、2017/2/19
*学会537	Kuro-o, M.: CKD and aging: phosphate connection. 34th Congress of the International Society of Blood Purification (ISBP2016). Hiroshima, Sep.8-10, 2016.
*学会538	Kuro-o, M.: CPP:A true culprit of phosphorus woes?. 18th International Congress on Nutrition and Metabolism in renal Disease (ICRNM2016). Okinawa, Apr.19-23, 2016.
学会539	Kohara, M., Masuda, T., Shiizaki, K., Akimoto, T., Watanabe, Y., Honma, S., Sekiguchi, C., Miyazawa, Y., Kusano, E., Asano, Y., Kuro-o, M., Nagata, T.: Serum Fibroblast Growth Factor 21 predicts all-cause mortality in end stage disease. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology. Chicago, U.S.A. Nov.15-20, 2016.
学会540	Kimura, T., Shiizaki, K., Kuro-o, M., Yagisawa, T.: FGF23 initially plays an important role on phosphate homeostasis in chronic kidney disease. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology. Chicago, U.S.A., Nov.15-20, 2016.
学会541	小原麻里菜、増田貴博、椎崎和弘、秋元哲、本間寿美子、渡辺裕子、斉藤修、武藤重明、草野英二、浅野泰、黒尾誠、長田太助：透析患者の血中FGF21高値は生命予後悪化の危険因子である。第59回日本腎臓学会学術総会、横浜、2016年6月17日-19日
*学会542	黒尾誠：リンが老化を加速する：種特異的な老化のメカニズム。第6回臨床ゲノム医療学会神奈川大会、横浜、2016年12月17日
*学会543	黒尾誠：Klothoと老化、骨、FGF23。第37回日本循環制御医学会総会、東京、2016年7月8日-9日
学会544	木村貴明、椎崎和弘、黒澤明、清水俊洋、新里高広、南木浩二、佐久間康成、三木厚、黒尾誠、八木澤隆：腎移植ドナーの腎提供後は残存腎機能を考慮したリン管理を必要とする。第52回日本移植学会総会、東京、2016年9月29日-10月1日
学会545	Kuro-o, M.:FGF23-Independent Actions of Klotho. ASBMR Symposium: Crosstalk Between Kidney and Bone: Bench to Bedside, Seattle, Washington, U.S.A. Oct.9-12, 2015.
*学会546	黒尾誠：Klotho—FGF内分泌系と腎性老化仮説。第14回日本抗加齢医学会総会、大阪、2014年6月6日-8日

*学会547	黒尾誠：慢性腎臓病におけるFGF-Klotho内分泌系の適応と破綻. 第60回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2015年6月26日-28日
*学会548	黒尾誠：α Klotho-FGF23系と心肥大、動脈硬化について. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12日-14日
*学会549	黒尾誠：Klotho、リンを中心に. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5日-7日
*学会550	黒尾誠：Klotho-FGF内分泌系の生理と病理. 第6回Molecular Cardiovascular Conference II, 福岡, 2015年9月4日-5日
学会551	岩津好隆、椎崎和弘、長田大助、黒尾誠：CKD-MBDと老化. 第60回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2015年6月26日-28日
学会552	<u>Kuro-o M</u> : Phosphate and FGF23-Klotho endocrine axis in pathophysiology of CKD. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014
学会553	<u>Kuro-o M</u> : Chronic kidney disease as a premature aging syndrome. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014
学会554	<u>Kuro-o M</u> : FGF23/FGF receptors/Klotho for calcium and phosphate homeostasis. International Society of Nephrology Nexus Symposium, Bergamo, Italy, April 3-6, 2014
学会555	<u>Kuro-o M</u> : Pathogenesis of Vascular Calcification: Phosphate or Calciprotein Particles - Who Is The Culprit? ERA-EDTA, Amsterdam, Netherlands, May 31-June 3, 2014
学会556	黒尾誠：Klotho-FGF内分泌系と腎性老化仮説. 第14回日本抗加齢医学会総会（大阪）2014年6月6日～8日
学会557	黒尾誠：CKDと動脈硬化. 第57回日本腎臓学会学術総会（名古屋）2014年7月4日～6日
学会558	黒尾誠：CPP：動脈硬化の新規病原物質. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会（東京）2014年7月10日～11日
学会559	<u>Kuro-o M</u> : CKD-MBD: A phosphate-centric view. ASN/JSN Joint Science Symposium, 58th Scientific Meeting, Japanese Society of Nephrology（名古屋）2015年6月6日
学会560	黒尾誠：腎臓と加齢～リンの役割～. 超高齢化社会とCKD. 第58回日本腎臓学会学術総会（名古屋）. 2015年6月7日
学会561	黒尾誠：Klotho-FGF23系と心肥大・動脈硬化. 第57回日本老年医学会学術集会（横浜）. 2015年6月14日
学会562	黒尾誠：慢性腎臓病におけるFGF-Klotho内分泌系の適応と破綻. 第60回日本透析医学会学術集会・総会（横浜）. 2015年6月26日
学会563	<u>Kuro-o M</u> : FGF23-independent actions of Klotho. American Society of Bone and Mineral Research (ASBMR) Symposium - Crosstalk between kidney and bone: Bench to Bedside. Seattle, USA. Oct 8, 2015

学会564	<u>Kuro-o M</u> : Kidney as the major source of circulating alphaKlotho. Advances in Understanding Klotho Biology in CKD. American Society of Nephrology. San Diego, USA. Nov 6, 2015
-------	---

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
学会565	<u>尾仲達史</u> : ストレス反応と下垂体後葉ホルモン. 日本臨床麻酔学会第37回大会 (東京) 2017年11月3日～5日
学会566	<u>Okabe S, Takayanagi Y, Yoshida M, Onaka T</u> : Stroking stimuli form an affiliative relationship between humans and rats. 日本動物行動学会、日本動物心理学会、応用動物行動学会、日本家畜管理学会、日本行動神経内分泌学研究会合同大会 (Koudou2017) (東京) 2017年8月30日～9月1日
学会567	犬東歩、溝口博之、金子涼輔、 <u>尾仲達史</u> : ナノボディおよびDARPinを利用したRFP-dependent Creの開発. 第40回日本神経科学大会 (千葉市) 2017年7月20日～23日
学会568	<u>Onaka T, Takayanagi Y, Nasanbuyan N, Yoshida M, Inutsuka A</u> : Activation of oxytocin neurons in response to secretin administration and social defeat stress. The 12th World Congress on Neurohypophysial Hormones (WCNH 2017), Porto Real Resort, Mangaratiba, Rio de Janeiro, Brazil, July 26-29, 2017
学会569	<u>尾仲達史</u> : オキシトシンとストレス、エネルギー代謝、社会行動. 第90回日本内分泌学会学術総会 (京都市) 2017年4月20日～22日
学会570	高柳友紀、吉田匡秀、 <u>尾仲達史</u> : 社会行動におけるオキシトシンの働き. 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 (長崎市) 2017年3月28日～30日
学会571	吉田匡秀、高柳友紀、犬東歩、 <u>尾仲達史</u> : 遺伝子改変動物とウィルスベクターを用いたオキシトシンシステム特異的な機能調節. 第94回日本生理学会大会 (浜松市) 2017年3月28～30日
学会572	<u>尾仲達史</u> : オキシトシンと母性行動・社会行動. 第32回東京母性衛生学会学術セミナー「もっと身につけよう! 助産スキル」 (東京) 2017年2月25日
学会573	<u>Okabe S, Takayanagi Y, Yoshida M, Inutsuka A, Onaka T</u> : Do stroking stimuli induce a pleasant sensation in rats. 日本動物心理学会第76回大会 (札幌) 2016年11月23日～25日
学会574	<u>尾仲達史</u> : 神経内分泌入門・基礎編「オキシトシンをめぐる最近の話題」、第43回日本神経内分泌学会学術集会 (浜松) 2016年10月14日～15日
学会575	高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> : エネルギー代謝とストレスにおけるオキシトシンの働き. 第43回日本神経内分泌学会学術集会 (浜松) 2016年10月14日～15日
学会576	<u>尾仲達史</u> 、高柳友紀、吉田匡秀、岡部祥太: 恐怖あるいは親和的刺激に対する神経内分泌系と行動における反応: オキシトシンの働き. 第93回日本生理学会大会 (札幌) 2016年3月22日～24日
学会577	岡部祥太、吉田匡秀、高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> : 接触刺激に対するラット視床下部オキシトシン産生細胞の活性化と超音波発声. 第42回日本神経内分泌学会 第23回日本神経行動内分泌研究会 合同学術集会 (仙台) 2015年9月18日～19日

学会578	<u>Onaka T, Takayanagi Y, Yoshida M, Okabe S</u> : Noxious or Non-Noxious Inputs to Oxytocin Neurons: Possible Roles in the Control of Behaviors. Parvo- and Magnocellular Symposium in Sendai, Sendai, Japan, September 17, 2015
学会579	高柳友紀、吉田匡秀、 <u>尾仲達史</u> : オキシトシンによる情動・社会行動の制御. 第92回日本生理学会大会（神戸） 2015年3月21日～23日
学会580	<u>尾仲達史</u> 、吉田匡秀、高柳友紀: 条件恐怖ストレスの神経内分泌反応における内側扁桃体の働き. 第92回日本生理学会大会（神戸） 2015年3月21日～23日
学会581	<u>尾仲達史</u> : 神経内分泌系の条件恐怖反応の神経回路. 平成26年度生理学研究所研究会「感覚刺激・薬物による快・不快情動生成機構とその破綻」（岡崎） 2014年10月7日～8日
学会582	<u>尾仲達史</u> : ストレスと下垂体後葉ホルモン. 第6回耳鼻咽喉科心身医学研究会（東京）、2014年10月4日
学会583	<u>Onaka T, Yoshida M, Takayanagi Y</u> : Lesions of vasopressin neurons by use of vasopressin-DTR transgenic rats. Satellite meeting of ICN 2014 in Sydney“Recent and Future Trends in Neuroendocrinology-from Asia and Oceania to Global-” Sydney, August 16, 2014
学会584	<u>尾仲達史</u> : 心身ストレスとその機序. 生体機能の理解にもとづく災害ストレス支援の推進事業第1回シンポジウム（東京） 2013年11月12日
学会585	高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> : 社会的記憶の制御におけるセクレチン-オキシトシンシステムの役割. 第91回日本生理学会大会（鹿児島） 2014年3月16日～18日
学会586	山下雅子、 <u>尾仲達史</u> 、神部芳則、草間幹夫: 摂食によるオキシトシン産生ニューロンの活性化: そのメカニズムと機能に関する研究. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会（福岡） 2013年10月11日～13日
学会587	<u>尾仲達史</u> 、高柳友紀、吉田匡秀: 下垂体後葉ホルモンとストレス・摂食・社会行動. 創薬薬理フォーラム第21回シンポジウム東京） 2013年9月19日～20日
学会588	<u>Onaka T, Takayanagi Y, Yoshida M</u> : Stress and energy metabolisms: roles of PrRP and oxytocin. The 36th Naito Conference on“Molecular Aspects of Energy Balance and Feeding Behavior” SAPPORO, Sapporo, September 10-13, 2013
学会589	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : The medial amygdala-medullary prolactin-releasing peptide neuron pathway mediates neuroendocrine responses to conditioned fear stimuli. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
学会590	Tobin V, Knobloch S, Grinevich V, <u>Onaka T</u> , Leng G, Ludwig M: Immunohistochemical characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
学会591	Tobin V, Tsuji T, Knobloch S, <u>Onaka T</u> , Grinevich V, Leng G, Ludwig M: Characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
学会592	<u>尾仲達史</u> : ストレス, 摂食そして社会行動: 最近注目されるオキシトシンの働き. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会（横浜） 2013年6月26日～27日

学会593	吉田匡秀、高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> ：恐怖記憶の想起による神経内分泌反応には内側扁桃体—延髄PrRP産生ニューロン経路が関与する. 第36回日本神経科学大会（京都）2013年6月20日～23日
学会594	橘雅弥、平田郁子、桑田綾乃、山本知加、實藤和佳子、中村歩、大石雅子、下野九理子、毛利育子、 <u>尾仲達史</u> 、木村正、大菌恵一、谷池雅子：自閉症スペクトラムの小児に対する長期的オキシトシン点鼻治療の安全性と効果. 第55回日本小児神経学会学術集会（大分）2013年5月30日～6月1日

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

《特許出願》

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
*特許1	発明者：矢田俊彦(届出・代表)、出崎克也 発明の名称：血糖恒常性を維持するための医薬組成物 出願者：自治医科大学 出願国：日本 出願日：平成27年10月27日 出願番号又は特許番号：特願2015-211022
*特許2	発明者：矢田俊彦(届出・代表)、岩崎有作、原博、比良徹、岸本由香、南真知子 発明の名称：GLP-1分泌促進剤 出願者：自治医科大学、北海道大学、松谷化学工業株式会社 出願国：日本 出願日：平成27年7月29日 出願番号又は特許番号：特願2015-149634
*特許3	発明者：矢田俊彦(届出・代表)、岩崎有作、木村友紀、大隈一裕 発明の名称：満腹感持続剤および満足感を維持する方法 出願者：自治医科大学、松谷化学工業株式会社 出願国：日本 出願日：平成26年2月28日 出願番号又は特許番号：特願2014-037956

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
特許4	発明者：犬東 歩、尾仲達史 発明の名称：遺伝子発現制御方法及び遺伝子発現制御キット 出願者：学校法人自治医科大学 出願国：日本 出願日：2016年12月28日 番号：特願2016-254636号

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
特許5	遠藤仁司、長尾恭光、花園豊、富永薫、大森司・幹細胞を再樹立する方法・学校法人自治医科大学・2017年4月5日出願・PCT/JP2017/04883
*特許6	遠藤仁司、富永薫、宮田五月、坂下英司・治療剤、腫瘍予後予測方法、及び治療方法・学校法人自治医科大学・2017年4月7日出願・特願 2017-076484号
特許7	Hitoshi ENDO, Yasumitsu NAGAO, Yutaka HANAZONO, Kaoru TOMINAGA, Tsukasa OHMORI, Title: Method for Reestablishment of Pluripotent Stem Cells. Applicant: JICHI MEDICAL UNIVERSITY, Tochigi, Japan, Filing date 03/31/2017, U.S. Application No. 15/516,107
*特許8	小島華林、山形崇倫、黒岩憲二、遠藤仁司・脳症の検出方法、バイオマーカー、診断用組成物、及び診断用キット・学校法人自治医科大学・2016年6月29日出願・特願2016-129018号
*特許9	遠藤仁司、長尾恭光、花園豊、富永薫、大森司・幹細胞を再樹立する方法・学校法人自治医科大学・2016年4月5日出願・特願2016-75758号

(11 研究成果の概要<研究成果の副次的効果> 添付資料)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

*特許10	遠藤仁司、長尾恭光、花園豊、富永薫、大森司・多能性幹細胞再樹立法・学校法人自治医科大学・2015年10月2日出願・PCT/JP2015/078699
特許11	遠藤仁司、長尾恭光、花園豊、富永薫、大森司・多能性幹細胞再樹立法・学校法人自治医科大学・2014年10月2日出願・特願2014-203679号
*特許12	遠藤仁司・ミトコンドリア膜タンパク質群およびそれらをコードする遺伝子群・学校法人自治医科大学・2016年3月4日登録・特許第5891561号
*特許13	遠藤仁司・プロヒビチン2とPGC1 α との結合を用いた脂肪分化調節剤のスクリーニング方法・学校法人自治医科大学・2015年9月18日登録・特許第5808904号
*特許14	Hitoshi Endo and Katsumi Kasashima, Title: Mitochondrial function of prohibitin 2 (PHB2), Assignee: Jichi Medical University, Patent date: June 18, 2013、米国・Patent no: US 8,465,913 B2

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
特許15	発明者：林芳和、山本博徳 発明の名称：内視鏡用フード 出願国：日本 出願日：平成22年12月14日（登録日：平成27年7月31日） 出願番号：特願2010-278352

(部門名) 幹細胞制御研究部

通し番号	
特許16	発明者：古川雄祐、菊池次郎 発明の名称：多能性幹細胞からのテラトーマ形成抑制剤及びその用途 出願者：自治医科大学 出願国：日本 出願日：2017年7月7日 出願番号：特願2017-133702
特許17	発明者：古川雄祐、菊池次郎、梅原崇史、佐藤 心 発明の名称：多能性幹細胞からのテラトーマ形成抑制剤及びその用途 出願者：自治医科大学、理化学研究所 出願国：日本 出願日：2017年7月7日 出願番号：特願2017-133951
特許18	発明者：梅原崇史、佐藤 心、小山裕雄、山本博文、近藤 豊、勝島啓佑、古川雄祐、菊池次郎 発明の名称：リジン特異的脱メチル化酵素1阻害活性を有する新規化合物、その製造方法及びその用途 出願者：理化学研究所、名古屋市立大学、自治医科大学 出願国：日本 出願日：2017年7月7日 出願番号：特願2017-134173

(11 研究成果の概要<研究成果の副次的効果> 添付資料)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(部門名) 再生医学研究部

通し番号	
特許19	<p>発明者：大森司、長尾恭光、水上浩明、坂田飛鳥、坂田洋一、西村智、小澤敬也、村松慎一、富永眞一、<u>花園豊</u></p> <p>発明の名称：肝臓ゲノム上の凝固関連因子遺伝子を破壊するためのAAVベクター</p> <p>出願者：学校法人自治医科大学</p> <p>出願日：平成29年1月13日</p> <p>出願番号：特願2017-004198号</p>
特許20	<p>発明者：遠藤仁司、長尾恭光、<u>花園豊</u>、富永薫、大森司</p> <p>発明の名称：幹細胞を再樹立する方法</p> <p>出願者：自治医科大学</p> <p>出願日：平成28年4月5日</p> <p>出願番号：特願2016-75758</p>
*特許21	<p>発明者：<u>花園豊</u>、阿部朋行、長尾慶和</p> <p>発明の名称：造血系細胞の作製方法</p> <p>出願者：自治医科大学、宇都宮大学</p> <p>出願日：平成27年8月28日</p> <p>出願番号：特願2015-168702</p>
特許22	<p>発明者：遠藤仁司、長尾恭光、<u>花園豊</u>、富永薫、大森司</p> <p>発明の名称：異種間での多能性幹細胞再樹立法</p> <p>出願者：自治医科大学</p> <p>出願日：平成26年10月2日</p> <p>出願番号：特願2014-203679</p>
特許23	<p>発明者：<u>花園豊</u>、渡邊将人、長嶋比呂志</p> <p>発明の名称：遺伝子ノックアウトブタ</p> <p>出願者：自治医科大学、明治大学</p> <p>出願日：平成26年4月7日</p> <p>出願番号：特願2014-078986</p>
特許24	<p>発明者：<u>花園豊</u>、佐々木京子</p> <p>発明の名称：霊長類動物の胚性幹細胞から造血系細胞への分化の方法</p> <p>出願者：田辺三菱製薬株式会社(平成29年7月13日付け自治医科大学に継承)</p> <p>出願日：平成15年5月29日</p> <p>出願番号：特願2003-153494</p>

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
特許25	<p>発明者：黒尾誠・三浦裕・黒須洋</p> <p>発明の名称：蛍光プローブを用いた新規カルシプロテイン粒子 (CPP) 測定法</p> <p>出願者：自治医科大学</p> <p>出願国：日本</p> <p>出願日：平成27年4月8日</p> <p>出願番号又は特許番号：特願2015-079186</p>
特許26	<p>発明者：黒尾誠・米澤愛・渡邊佳奈</p> <p>発明の名称：カルシウムイオン含有物質またはカルシウムイオン結合性物質の吸着材、および吸着除去システムとその利用方法</p> <p>出願者：自治医科大学・株式会社カネカ</p> <p>出願国：</p> <p>出願日：平成28年8月1日</p> <p>出願番号又は特許番号：特願2016-151390</p>

(11 研究成果の概要<研究成果の副次的効果> 添付資料)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

(部門名) 人類遺伝学研究部

通し番号	
特許27	花王株式会社との共同研究（研究課題：内臓脂肪蓄積に関する遺伝子解析研究 平成24年9月1日～平成25年3月31日） 連携実績【特許申請 名称：内臓脂肪蓄積 感受性の判定方法 発明者：岩本禎彦、中山一大、大崎紀子、下豊留玲 出願 人：花王株式会社 番号：特願2014-060342号 出願年月日：平成26年3月24日】

(部門名) 眼科

通し番号	
特許28	発明者：高橋秀徳 発明の名称：糖尿病網膜症の病期判定支援システムおよび糖尿病網膜症の病期の 判定を支援する方法 出願者：自治医科大学 出願国：日本 出願日：平成28年8月19日 出願番号又は特許番号：特願2016-161579